2023年度 聴講生対象授業シラバス

科 目 コ ー ド :10030　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 運動と健康 a(Health and Fitness a)

担 当 者 : 吉村 悠成

基本情報

年 次 :1　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式:講義**

曜 時 :木曜3限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 : 教職 保育　　**A L 要 素 :** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 「運動」が「身心の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。
また、運動および健康と関わりの深い「体力」の概念、トレーニング方法および評価方法等を解説し、
運動を通して身心の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。

キーワード: 運動、身心の健康、体力

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験　　**評価割合:** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 各授業時ミニレポート　　**評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授 業 計 画 :
1. 授業概要の説明
2. これからの日本のスポーツ

3. 情報の活用
4. トレーニングのいろは
5. 減量・ダイエット
6. 運動と生活習慣病
7. 運動とストレス
8. 運動と身体不活動
9. 体力学
10. 体力トレーニング
11. 体力評価法
12. 運動とエネルギー供給機構
13. 運動と栄養
14. 運動と脳機能
15. まとめ
定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、その回のテーマの資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。
授業後は、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90 分)。
参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード:10030 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 運動と健康 b(Health and Fitness b)

担当者: 吉村 悠成

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:木曜4限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育 **AL要素:** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 「運動」が「身心の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。
また、運動および健康と関わりの深い「体力」の概念、トレーニング方法および評価方法等を解説し、
運動を通して身心の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。

キーワード: 運動、身心の健康、体力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 各授業時ミニレポート **評価割合:40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
1. 授業概要の説明
2. これからの日本のスポーツ
3. 情報の活用
4. トレーニングのいろは
5. 減量・ダイエット
6. 運動と生活習慣病
7. 運動とストレス
8. 運動と身体不活動
9. 体力学
10. 体力トレーニング
11. 体力評価法
12. 運動とエネルギー供給機構
13. 運動と栄養
14. 運動と脳機能
15. まとめ

定期試験

使用テキスト：授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：授業前には、その回のテーマの資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい（60分）。
授業後は、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい（90 分）。
参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：学務部に連絡してください。

留意事項：PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード：10030　　**科目ナンバリング**：　　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：運動と健康 c（Health and Fitness c）

担 当 者： 吉村 悠成

基本情報

年 次 : 1　　**単 位 数 :** 2　　**授業形式 :** 講義

曜 時 : 木曜5限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 : 教職 保育　　**AL 要 素 :** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 「運動」が「身心の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。
また、運動および健康と関わりの深い「体力」の概念、トレーニング方法および評価方法等を解説し、
運動を通して身心の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。

キーワード: 運動、身心の健康、体力

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験　　**評価割合 :** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 各授業時ミニレポート　　**評価割合 :** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授 業 計 画 :

1. 授業概要の説明
2. これからの日本のスポーツ
3. 情報の活用
4. トレーニングのいろは
5. 減量・ダイエット
6. 運動と生活習慣病
7. 運動とストレス

8. 運動と身体不活動
9. 体力学
10. 体力トレーニング
11. 体力評価法
12. 運動とエネルギー供給機構
13. 運動と栄養
14. 運動と脳機能
15. まとめ
定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、その回のテーマの資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。
授業後は、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90 分)。
参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード:10030 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 運動と健康 d(Health and Fitness d)

担当者: 佐久間 彩

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:火曜5限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育 **AL要素:** 振り返り用紙と応答

授業の概要: 健康を維持・増進し、心身の状態を整え、健康な心身を保つための方法のひとつに運動があります。本授業では、健康を適切に維持・増進するために必要な運動に関する正しい知識を学ぶことを目標とします。

キーワード: スポーツ 筋力トレーニング 有酸素性運動 高齢者 子ども

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 健康を維持・増進するために必要な運動に関する理論および実践方法について正しい知識を習得することができる.
2. 講義で学んだことを日常生活で生かす方法を考え、実践することができる.

評価方法: 期末テスト **評価割合:40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業の内容を踏まえて自身の健康や運動に関する行動を分析し、自分の健康状態や体力の水準を理解し、それを改善する手立てを構築できる

評価方法: 毎授業行う小レポート **評価割合:40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

小レポートの記述状況で評価する。

評価割合:20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
1. 授業概要の説明
2 .健康に関わる運動プログラムの紹介
3. 健康と体重の関係
4. 健康と体力・運動との関係
5. 健康寿命と運動の関係
6. 栄養と運動(1)
7. 栄養と運動(2)・救急処置
8. レジスタンストレーニング(1)
9. レジスタンストレーニング(2)
10. 有酸素運動
11. 運動と疲労
12. 幼児・児童の運動
13. 女性の運動
14. 高齢者の運動
15. まとめ

使用テキスト： 適宜配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布した資料について理解を深めてください。
日頃から自分の身体・健康・運動に興味を持つとともに、ニュース等で運動やスポーツに関する情報に触れるよう心がけてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで連絡(sakuma_aya〇icc.ac.jp;〇を@に変えて送信してください)をするか、学務部に連絡してください。

留意事項： 特になし。

科目コード：10036 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **日本国憲法 a(Japanese Constitution a)**

担当者： **古屋 等**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜4限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職 **AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけ

るでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょう。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード： 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下の平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合： 0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合： 5%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1　ガイダンス
2　近代憲法の意義
3　現代憲法の特質
4　国民主権の原理
5　前文と平和主義
6　第9条と戦争放棄
7　基本的人権の観念
8　基本的人権の類型
9　基本的人権の限界
10 精神的自由権Ⅰ
11 精神的自由権Ⅱ
12 経済的自由権Ⅰ
13 経済的自由権Ⅱ
14 受益権・社会権
15 違憲審査
16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕（成文堂）2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10036　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：日本国憲法 b（Japanese Constitution b）

担当者：古屋　等

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：月曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょう。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード： 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下の平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合：5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1 ガイダンス
2 近代憲法の意義
3 現代憲法の特質
4 国民主権の原理
5 前文と平和主義
6 第9条と戦争放棄
7 基本的人権の観念
8 基本的人権の類型
9 基本的人権の限界
10 精神的自由権Ⅰ
11 精神的自由権Ⅱ
12 経済的自由権Ⅰ
13 経済的自由権Ⅱ
14 受益権・社会権
15 違憲審査
16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕(成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10036 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **日本国憲法 c(Japanese Constitution c)**

担当者： **古屋 等**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜1限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職 **AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけ

るでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょう。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード： 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下の平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合： 0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合： 5%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1　ガイダンス
2　近代憲法の意義
3　現代憲法の特質
4　国民主権の原理
5　前文と平和主義
6　第9条と戦争放棄
7　基本的人権の観念
8　基本的人権の類型
9　基本的人権の限界
10 精神的自由権Ⅰ
11 精神的自由権Ⅱ
12 経済的自由権Ⅰ
13 経済的自由権Ⅱ
14 受益権・社会権
15 違憲審査
16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕（成文堂）2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10036　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：日本国憲法 d（Japanese Constitution d）

担当者：古屋　等

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょう。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード： 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下の平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合：5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1 ガイダンス
2 近代憲法の意義
3 現代憲法の特質
4 国民主権の原理
5 前文と平和主義
6 第9条と戦争放棄
7 基本的人権の観念
8 基本的人権の類型
9 基本的人権の限界
10 精神的自由権Ⅰ
11 精神的自由権Ⅱ
12 経済的自由権Ⅰ
13 経済的自由権Ⅱ
14 受益権・社会権
15 違憲審査
16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕(成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10036 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **日本国憲法 e(Japanese Constitution e)**

担当者： **古屋 等**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職 **AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけ

るでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょう。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード： 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下の平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：**50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：**40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合：5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1　ガイダンス
2　近代憲法の意義
3　現代憲法の特質
4　国民主権の原理
5　前文と平和主義
6　第9条と戦争放棄
7　基本的人権の観念
8　基本的人権の類型
9　基本的人権の限界
10 精神的自由権Ⅰ
11 精神的自由権Ⅱ
12 経済的自由権Ⅰ
13 経済的自由権Ⅱ
14 受益権・社会権
15 違憲審査
16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕（成文堂）2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10051　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：キリスト教の精神と文化II d（Introduction to Christianity II d）

担当者：館野 真

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 11. ディスカッション
16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業（同時双方向型）

本講義は、聖書の読解、キリストご自身のことば（教え）への傾聴、および、聖書に関連する学問や歴史の学びを通して、キリスト教を根本的に理解することを目標とします。又、キリスト教が私たちの実生活においてどのように適用されるのか;キリスト教の正統性とは何か;カルト化の原因や様相はいかなるものであるのか、等のテーマも扱いつつ、キリスト教と現代に生きる私たちとの関わりを考察します。

キーワード： 神、主イエス・キリスト、キリスト教、信仰、聖書、神の愛、宗教の健全性

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記、および適宜照会し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験　**評価割合：80%**

2.小テスト（毎週）

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験　**評価割合：20%**

2. グループディスカッション

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は厳禁。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画：

第一部
第01回　オリエンテーション・キリスト教の神とは
第02回　民イスラエルの歴史と、メシア（キリスト）待望の背景
第03回　キリストの誕生・キリストの受難
第04回　キリスト教における「救い」とは
第05回　現代の教会の教え（カトリックとプロテスタントの対比）

第二部
第06回　キリストによる教え（1）山上の垂訓
第07回　キリストによる教え（2）十字架の上のことば
第08回　キリストによる教え（3）姦淫の女と主イエス
第09回　キリストによる教え（4）カイザルのものはカイザルへ
第10回　キリストによる教え（5）善きサマリア人のたとえ話

第三部
第11回　新約聖書の成り立ち（本文批判、翻訳 etc.）と位置付け
第12回　信仰義認（使徒パウロ／マルティン・ルター）
第13回　聖霊の力（ペテロに起こった人生の変革）
第14回　キリストがあなたを生きてくださる生涯
第15回　総括：キリスト教とは

定期試験

使用テキスト：
テキスト：聖書（新約と旧約、両方が読めるもの）デジタル媒体可
授業資料：基本、パワーポイントのスライドを毎回使用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
基本として、毎週の講義時に次週に向けた予習課題をIC-UNIPA上で配布する。この予習課題の内容について次回の講義で小テスト（FORMSを使った5分程度の選択問題形式のテスト）を行う。小テストは成績の半分程度を占めるので注意し、予習を怠らないこと。なお、講義で使用するパワーポイントスライドもIC-UNIPAで事前に配布する。疑問点などがあれば積極的に教員に質問して欲しい。

障がいのある履修者への対応：
真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：
IC-UNIPA上への掲示、メールによる通信を用います。あるいは学部部、教務部に仲介してもらい対応します。

留意事項：
全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

講義中に行う小テストにはFORMSを使用する予定です。スマートフォンやパソコン等の準備が難しい場合は、相談してください。

科 目 コ ー ド :10051　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): キリスト教の精神と文化II e(Introduction to Christianity II e)

担 当 者 : 小幡　幸和

基本情報

年 次 :1　　**単 位 数 :2**　　**授業形式:講義**

曜 時 :金曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :　　**AL 要 素 :** 11. 討論
16. 振り返り課題と応答

授業の概要: ・聖書を引用した世界の様々な著名人の言葉や生き様について記したテキストを通して、現代世界において必要とされるグローバル・リテラシー(世界とその人々を知るために知っておくべき基本的教養)の一つとしての聖書やキリスト教精神について学びます。なお、テキストには英語部分がありますが、この授業では原則として英語の能力を評価の対象とはしません。英語部分については、必要に応じて教員が授業の中で和訳・解説をします。
・また、テキストから発展して、キリスト教の観点から現代世界の諸問題(暴力と平和、差別・抑圧や苦しみ、等)を考察し、混迷する現代にあって他者と共に生きる意味を考察していきます。
・キリスト教の祝祭(クリスマス、イースター)の本来の意味を学びます。
・テーマによっては、授業中にグループでの話し合いの時を持つことがあります。また、授業に関連した考察や話し合いの記録等を振り返り課題として毎回の授業後に書いてもらいます。

キーワード: 世界の著名人による聖書引用、世界のキリスト教文化、暴力と平和、差別、キリスト教の祝祭

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で解説を受けたキリスト教精神・文化や付随する社会問題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 定期試験、振り返り課題　　**評価割合:60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 定期試験、振り返り課題　　**評価割合:40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、筆記試験等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

【第01回】 オリエンテーション・序論：聖書の言葉と世界の著名人
テキスト：Ch.1 ジャスティン・ビーバー

【第02回】 いのちの大切さ
テキスト：Ch.12 J.K.ローリング（「ハリー・ポッター」作者）

【第03回】 聖書の言葉とaltruism（利他主義）の精神
テキスト：Ch.2 ビル・ゲイツ （参考：Ch.23 テッド・ターナー）

【第04回】 聖書の言葉を引用するスポーツ選手
テキスト：Ch.3 ウサイン・ボルト、Ch.11 ネイマール
（参考： Ch.6マニー・パッキャオ）

【第05回】 キリスト教と医療
テキスト：Ch.26 日野原重明、Ch.16 ケント・ブラントリー

【第06回】 アメリカ合衆国の人種差別問題から考える
テキスト：Ch.13 チャドウィック・ボーズマン、Ch.5 ジェレミー・リン

【第07回】 アフリカ精神とキリスト教
テキスト：Ch.27 タボ・ムベキ、Ch.25 ワンガリ・マータイ

【第08回】 聖書にみる休息の意味
テキスト：Ch.14 星野富弘、Ch.28デイビッド・スーシェ

【第09回】 キリスト教と宗教間対話
テキスト：Ch.21 ダライ・ラマ

【第10回】 キリスト教と時間概念
テキスト：Ch.24 エディ・レッドメイン、Ch.8リッチ・フローニング

【第11回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和1：暴力の多様な理解
テキスト：Ch.10 マライア・キャリー

【第12回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和2：平和の多様な理解
テキスト：Ch.4 緒方貞子、Ch.20 マハトマ・ガンディー

【第13回】 聖書にみる苦しみの意味
テキスト：Ch.9 池江璃花子、Ch.22 ヴィクトール・フランクル

【第14回】 クリスマスの様々な意味

【第15回】 イースターの意味、キリスト教と愛の精神、授業全体の振り返り
テキスト：Ch.19 英国ウィリアム王子

定期試験

使用テキスト： 【テキスト】Harris G. Ives、上野尚美、村上美保子、小幡幸和『聖書を引用する世界の著名人：TOEFL iBT 形式で学ぶ英語とグローバルリテラシー』開拓社、2021年。

・この他に授業で使うレジメやその他の資料はオンライン（PDF）、または紙媒体で配布します。
・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・予習として、各授業回の下に記されているテキスト該当章の日本語部分を読んでください。テキストの英語部分の予習は任意ですが、読んでおくと授業理解の助けになります。また、分からない用語等を調べてください（60分）。
・授業後、テキストや授業の解説を振り返りながら課題に取り組むと共に、テキストにない関連事項について自主学修を通じ知見を深めるてください（60分）。
・参考文献としては『聖書』（新共同訳）をお薦めするほか、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項：
・振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。
・デバイスの持参を推奨します。

科 目 コ ー ド :10051　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): キリスト教の精神と文化II h(Introduction to Christianity II h)

担 当 者 : 鈴木 光

基本情報

年 次 :1　　**単 位 数 :2**　　**授業形式:講義**

曜 時 :金曜4限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :　　**AL 要 素 :** 09. 実地調査
16. 振り返り用紙と応答
ほか

授業の概要: キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。
入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思います。
＊講師は実務経験として地域教会の牧師(2006～現在)と保育園長(2011～2022年)があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実際的な適用についても触れていきます。
＊AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちます。

キーワード: 聖書、キリストの教え、信仰生活

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。
＊おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたリアクションペーパーの提出をもって成績判定する。

評価方法: リアクションペーパーほか　　**評 価 割 合 :50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。
＊いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。

評価方法: 学期末レポート　　**評 価 割 合 :50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりえます。

評 価 割 合 :0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象にはしません。

評 価 割 合 :0%

▼公 正 性

評価対象にはしませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や厳重注意の対象となりえます。

評 価 割 合 :0%

▼その他

特になし

評 価 割 合 :特になし

授 業 計 画 : 第1回　オリエンテーションと学びの土台
第2回　旧約聖書のエッセンス

第3回　イエス・キリストと出会った人々
第4回　イエス・キリストの「たとえ話」
第5回　人間は何からできているか
第6回　イエス・キリストの奇跡
第7回　エリエリレマサバクタニ
第8回　信仰とは？
第9回　フィールドワーク　学園記念館訪問
第10回　クリスマスと礼拝
第11回　聖書から考える「戦争と平和」
第12回　聖書から考える「家族」「結婚」
第13回　聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」
第14回　神の国と天の国
第15回　まとめ

使用テキスト： 1.『聖書』
＊旧約、新約の両方が入っているもの。（新共同訳の続編付きでも構わない）
＊新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。
2. レジュメや資料は各授業で適宜配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり（予習）、印象に残ったところは考えを深めておくと（復習）よいでしょう。
参考文献などは授業内で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。

授業時間外の連絡手段： 授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどでご連絡ください。

留意事項： 特になし

科目コード：10051　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：キリスト教の精神と文化Ⅱi（Introduction to Christianity Ⅱi）

担当者：館野　真

基本情報

年次：1　　**単位数：2**　　**授業形式：講義**

曜時：金曜4限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　　**AL要素：** 11. ディスカッション
16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業（同時双方向型）

本講義は、聖書の読解、キリストご自身のことば（教え）への傾聴、および、聖書に関連する学問や歴史の学びを通して、キリスト教を根本的に理解することを目標とします。又、キリスト教が私たちの実生活においてどのように適用されるのか;キリスト教の正統性とは何か;カルト化の原因や様相はいかなるものであるのか、等のテーマも扱いつつ、キリスト教と現代に生きる私たちとの関わりを考察します。

キーワード： 神、主イエス・キリスト、キリスト教、信仰、聖書、神の愛、宗教の健全性

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記、および適宜照会し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験　　**評価割合：80%**

2.小テスト（毎週）

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験　　**評価割合：20%**

2. グループディスカッション

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は厳禁。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画：

第一部
第01回　オリエンテーション・キリスト教の神とは
第02回　民イスラエルの歴史と、メシア（キリスト）待望の背景
第03回　キリストの誕生・キリストの受難
第04回　キリスト教における「救い」とは
第05回　現代の教会の教え（カトリックとプロテスタントの対比）

第二部
第06回　キリストによる教え（1）山上の垂訓
第07回　キリストによる教え（2）十字架の上のことば
第08回　キリストによる教え（3）姦淫の女と主イエス
第09回　キリストによる教え（4）カイザルのものはカイザルへ
第10回　キリストによる教え（5）善きサマリア人のたとえ話

第三部
第11回　新約聖書の成り立ち（本文批判、翻訳 etc.）と位置付け
第12回　信仰義認（使徒パウロ／マルティン・ルター）
第13回　聖霊の力（ペテロに起こった人生の変革）
第14回　キリストがあなたを生きてくださる生涯
第15回　総括：キリスト教とは

定期試験

使用テキスト： テキスト：聖書（新約と旧約、両方が読めるもの）デジタル媒体可

授業資料：基本、パワーポイントのスライドを毎回使用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 基本として、毎週の講義時に次週に向けた予習課題をIC-UNIPA上で配布する。この予習課題の内容について次回の講義で小テスト（FORMSを使った5分程度の選択問題形式のテスト）を行う。小テストは成績の半分程度を占めるので注意し、予習を怠らないこと。なお、講義で使用するパワーポイントスライドもIC-UNIPAで事前に配布する。疑問点などがあれば積極的に教員に質問して欲しい。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPA上への掲示、メールによる通信を用います。あるいは学部部、教務部に仲介してもらい対応します。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

講義中に行う小テストにはFORMSを使用する予定です。スマートフォンやパソコン等の準備が難しい場合は、相談してください。

科目コード：10051　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：キリスト教の精神と文化Ⅱj（Introduction to Christianity Ⅱj）

担当者：小幡　幸和

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 11. 討論
16. 振り返り課題と応答

授業の概要：
・聖書を引用した世界の様々な著名人の言葉や生き様について記したテキストを通して、現代世界において必要とされるグローバル・リテラシー（世界とその人々を知るために知っておくべき基本的教養）の一つとしての聖書やキリスト教精神について学びます。なお、テキストには英語部分がありますが、この授業では原則として英語の能力を評価の対象とはしません。英語部分については、必要に応じて教員が授業の中で和訳・解説をします。
・また、テキストから発展して、キリスト教の観点から現代世界の諸問題（暴力と平和、差別・抑圧や苦しみ、等）を考察し、混迷する現代にあって他者と共に生きる意味を考察していきます。
・キリスト教の祝祭（クリスマス、イースター）の本来の意味を学びます。
・テーマによっては、授業中にグループでの話し合いの時を持つことがあります。また、授業に関連した考察や話し合いの記録等を振り返り課題として毎回の授業後に書いてもらいます。

キーワード： 世界の著名人による聖書引用、世界のキリスト教文化、暴力と平和、差別、キリスト教の祝祭

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けたキリスト教精神・文化や付随する社会問題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 定期試験、振り返り課題　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 定期試験、振り返り課題　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、筆記試験等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

【第01回】 オリエンテーション・序論：聖書の言葉と世界の著名人
テキスト：Ch.1 ジャスティン・ビーバー

【第02回】 いのちの大切さ
テキスト：Ch.12 J.K.ローリング（「ハリー・ポッター」作者）

【第03回】 聖書の言葉とaltruism（利他主義）の精神
テキスト：Ch.2 ビル・ゲイツ （参考：Ch.23 テッド・ターナー）

【第04回】 聖書の言葉を引用するスポーツ選手
テキスト：Ch.3 ウサイン・ボルト、Ch.11 ネイマール
（参考： Ch.6マニー・パッキャオ）

【第05回】 キリスト教と医療
テキスト：Ch.26 日野原重明、Ch.16 ケント・ブラントリー

【第06回】 アメリカ合衆国の人種差別問題から考える
テキスト：Ch.13 チャドウィック・ボーズマン、Ch.5 ジェレミー・リン

【第07回】 アフリカ精神とキリスト教
テキスト：Ch.27 タボ・ムベキ、Ch.25 ワンガリ・マータイ

【第08回】 聖書にみる休息の意味
テキスト：Ch.14 星野富弘、Ch.28デイビッド・スーシェ

【第09回】 キリスト教と宗教間対話
テキスト：Ch.21 ダライ・ラマ

【第10回】 キリスト教と時間概念
テキスト：Ch.24 エディ・レッドメイン、Ch.8リッチ・フローニング

【第11回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和1：暴力の多様な理解
テキスト：Ch.10 マライア・キャリー

【第12回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和2：平和の多様な理解
テキスト：Ch.4 緒方貞子、Ch.20 マハトマ・ガンディー

【第13回】 聖書にみる苦しみの意味
テキスト：Ch.9 池江璃花子、Ch.22 ヴィクトール・フランクル

【第14回】 クリスマスの様々な意味

【第15回】 イースターの意味、キリスト教と愛の精神、授業全体の振り返り
テキスト：Ch.19 英国ウィリアム王子

定期試験

使用テキスト： 【テキスト】Harris G. Ives、上野尚美、村上美保子、小幡幸和『聖書を引用する世界の著名人：

TOEFL iBT 形式で学ぶ英語とグローバルリテラシー』開拓社、2021年。

・この他に授業で使うレジメやその他の資料はオンライン（PDF）、または紙媒体で配布します。
・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・予習として、各授業回の下に記されているテキスト該当章の日本語部分を読んでください。テキストの英語部分の予習は任意ですが、読んでおくと授業理解の助けになります。また、分からない用語等を調べてください（60分）。
・授業後、テキストや授業の解説を振り返りながら課題に取り組むと共に、テキストにない関連事項について自主学修を通じ知見を深めるてください（60分）。
・参考文献としては『聖書』（新共同訳）をお薦めするほか、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。
・デバイスの持参を推奨します。

科目コード：10051　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：キリスト教の精神と文化Ⅱｎ（Introduction to Christianity Ⅱ n）

担当者：館野　真

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜5限　**履修可能学科・専攻：** Ｅ Pe Pc Ｃ Ｗ Ｆ Ｎ Ｍ

関連資格：　**ＡＬ要素：** 11. ディスカッション
16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業（同時双方向型）

本講義は、聖書の読解、キリストご自身のことば（教え）への傾聴、および、聖書に関連する学問や歴史の学びを通して、キリスト教を根本的に理解することを目標とします。又、キリスト教が私たちの実生活においてどのように適用されるのか;キリスト教の正統性とは何か;カルト化の原因や様相はいかなるものであるのか、等のテーマも扱いつつ、キリスト教と現代に生きる私たちとの関わりを考察します。

キーワード： 神、主イエス・キリスト、キリスト教、信仰、聖書、神の愛、宗教の健全性

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記、および適宜照会し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験　**評価割合：80%**

2.小テスト（毎週）

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験　**評価割合：20%**

2. グループディスカッション

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は厳禁。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画：

第一部
第01回　オリエンテーション・キリスト教の神とは
第02回　民イスラエルの歴史と、メシア（キリスト）待望の背景
第03回　キリストの誕生・キリストの受難
第04回　キリスト教における「救い」とは
第05回　現代の教会の教え（カトリックとプロテスタントの対比）

第二部
第06回　キリストによる教え（1）山上の垂訓
第07回　キリストによる教え（2）十字架の上のことば
第08回　キリストによる教え（3）姦淫の女と主イエス
第09回　キリストによる教え（4）カイザルのものはカイザルへ
第10回　キリストによる教え（5）善きサマリア人のたとえ話

第三部
第11回　新約聖書の成り立ち（本文批判、翻訳 etc.）と位置付け
第12回　信仰義認（使徒パウロ／マルティン・ルター）
第13回　聖霊の力（ペテロに起こった人生の変革）
第14回　キリストがあなたを生きてくださる生涯
第15回　総括：キリスト教とは

定期試験

使用テキスト：
テキスト：聖書（新約と旧約、両方が読めるもの）デジタル媒体可
授業資料：基本、パワーポイントのスライドを毎回使用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
基本として、毎週の講義時に次週に向けた予習課題をIC-UNIPA上で配布する。この予習課題の内容について次回の講義で小テスト（FORMSを使った5分程度の選択問題形式のテスト）を行う。小テストは成績の20%~30%程度を占めるので注意し、予習を怠らないこと。なお、講義で使用するパワーポイントスライドもIC-UNIPAで事前に配布する。疑問点などがあれば積極的に教員に質問して欲しい。

障がいのある履修者への対応：
真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：
IC-UNIPA上への掲示、メールによる通信を用います。あるいは学部部、教務部に仲介してもらい対応します。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

講義中に行う小テストにはFORMSを使用する予定です。スマートフォンやパソコン等の準備が難しい場合は、相談してください。

科目コード：10051　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：キリスト教の精神と文化II o（Introduction to Christianity II o）

担当者：鈴木 光

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 09. 実地調査
16. 振り返り用紙と応答
ほか

授業の概要： キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。
入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思います。
＊講師は実務経験として地域教会の牧師（2006～現在）と保育園長（2011～2022年）があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実際的な適用についても触れていきます。
＊AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちます。

キーワード： 聖書、キリストの教え、信仰生活

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。
＊おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたリアクションペーパーの提出をもって成績判定する。

評価方法： リアクションペーパーほか　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。
＊いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。

評価方法： 学期末レポート　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりえます。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象にはしません。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象にはしませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や厳重注意の対象となりえます。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　オリエンテーションと学びの土台
第2回　旧約聖書のエッセンス
第3回　イエス・キリストと出会った人々
第4回　イエス・キリストの「たとえ話」
第5回　人間は何からできているか
第6回　イエス・キリストの奇跡
第7回　エリエリレマサバクタニ
第8回　信仰とは？
第9回　フィールドワーク　学園記念館訪問
第10回　クリスマスと礼拝
第11回　聖書から考える「戦争と平和」
第12回　聖書から考える「家族」「結婚」
第13回　聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」
第14回　神の国と天の国
第15回　まとめ

使用テキスト：
1.『聖書』
＊旧約、新約の両方が入っているもの。（新共同訳の続編付きでも構わない）
＊新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。
2. レジュメや資料は各授業で適宜配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり（予習）、印象に残ったところは考えを深めておくと（復習）よいでしょう。
参考文献などは授業内で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応：
可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。

授業時間外の連絡手段：
授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどでご連絡ください。

留意事項：
特になし

科目コード：10111　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：哲学とは何か a（Introduction to Philosophy a）

担当者：銭谷　秋生

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜6限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　**AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要：
この講義では、哲学の世界で探求されている代表的な問いを取り上げ、それを腑分けしながら、哲学的に考える筋道を提示します。主として取り上げる問いは、例えば「知るとはどういうことか」や「時間はどこを流れているのか」あるいは「善や悪はどこにあるのか」といった、我々の知識や経験の構造を問題にする問いです。問いそのものは古典的ですが、できるだけ現代の哲学者たちの思索を参照して考察を進めます。

キーワード： 真理と実在、知識論、懐疑論、時間論、善悪の存在論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で説明を受けた「哲学的に考える筋道」をよく理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末の筆記試験による。 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法: 同上 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

第1回:イントロダクション。(哲学は何を問題とする学問なのか)
第2回:この現実は私が見ている夢ではないとどうやって言えるのか。
(懐疑論からの挑戦)
第3回:この現実は何ものかが見ている夢ではないとどうやって言えるのか。
(真理の実在論と反実在論)
第4回:何かを「知る」とはどういうことか(1)。(正当化された真なる信念と観念論)
第5回:何かを「知る」とはどういうことか(2)。(観念論論駁)
第6回:何かを「知る」とはどういうことか(3)。(ゲティア問題)
第7回:何かを「知る」とはどういうことか(4)。(知識の因果説とその検討)
第8回:時間はどこを流れているのか(1)。(時間は実在的か)
第9回:時間はどこを流れているのか(2)。(時間は心のなかにあるのか)
第10回:時間はどこを流れているのか(3)。(世界の言語的把握と時間の成立)
第11回:心をもつとはどういうことか(1)。(デカルトの心身二元論とその批判)
第12回:心をもつとはどういうことか(2)。(心脳同一説とその検討)
第13回:心をもつとはどういうことか(3)。(非法則的一元論)
第14回:善悪の存在論(1)。(道徳的反実在論)
第15回:善悪の存在論(2)。(道徳的実在論)
学期末試験

使用テキスト: 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:
・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次の二点を推薦する。
『現代哲学』門脇俊介著、産業図書(2002)

『心の哲学入門』金杉武司著、勁草書房(2007)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、先ずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード:10111 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 哲学とは何かb(Introduction to Philosophy b)

担当者: 銭谷 秋生

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:金曜6限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 **AL要素:** 17. 発問と回答

授業の概要: この講義では、哲学の世界で探求されている代表的な問いを取り上げ、それを腑分けしながら、哲学的に考える筋道を提示します。主として取り上げる問いは、例えば「知るとはどういうことか」や「時間はどこを流れているのか」あるいは「善や悪はどこにあるのか」といった、我々の知識や経験の構造を問題にする問いです。問いそのものは古典的ですが、できるだけ現代の哲学者たちの思索を参照して考察を進めます。

キーワード: 真理と実在、知識論、懐疑論、時間論、善悪の存在論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で説明を受けた「哲学的に考える筋道」をよく理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末の筆記試験による。 **評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法: 同上 **評価割合:50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合:0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：
第1回：イントロダクション。（哲学は何を問題とする学問なのか）
第2回：この現実は私が見ている夢ではないとどうやって言えるのか。
（懐疑論からの挑戦）
第3回：この現実は何ものかが見ている夢ではないとどうやって言えるのか。
（真理の実在論と反実在論）
第4回：何かを「知る」とはどういうことか(1)。（正当化された真なる信念と観念論）
第5回：何かを「知る」とはどういうことか(2)。（観念論論駁）
第6回：何かを「知る」とはどういうことか(3)。（ゲティア問題）
第7回：何かを「知る」とはどういうことか(4)。（知識の因果説とその検討）
第8回：時間はどこを流れているのか(1)。（時間は実在的か）
第9回：時間はどこを流れているのか(2)。（時間は心のなかにあるのか）
第10回：時間はどこを流れているのか(3)。（世界の言語的把握と時間の成立）
第11回：心をもつとはどういうことか(1)。（デカルトの心身二元論とその批判）
第12回：心をもつとはどういうことか(2)。（心脳同一説とその検討）
第13回：心をもつとはどういうことか(3)。（非法則的一元論）
第14回：善悪の存在論(1)。（道徳的反実在論）
第15回：善悪の存在論(2)。（道徳的実在論）
学期末試験

使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次の二点を推薦する。
『現代哲学』門脇俊介著、産業図書(2002)
『心の哲学入門』金杉武司著、勁草書房(2007)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、先ずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：10112　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **いのちを考える a（What is Life? a）**

担当者： **銭谷　秋生**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 17.発問と回答

授業の概要： 生命工学や医療技術の進歩は、これまでの価値観が予想していないような倫理的問いを課してきます。体外受精技術を用いて代理出産をしてもいいかという問題、遺伝子編集技術を用いて能力を増強した人間を作りだしていいのかという問題などがこれに当たります。この講義では、こうした現代において新 たに登場してきた生命をめぐる倫理的諸問題を取り上げ、それらを考えるために押さえておくべき論点を整理したうえで、それらにどのように態度をとればいいのかを考察します。

キーワード： 人工妊娠中絶　代理出産　出生前診断　優生学　遺伝子編集　安楽死　死ぬ権利

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で説明を受けた「生命の処遇をめぐる現代的問題」の内容をよく理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験による　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 同上　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回：生命の処遇をめぐる問題が登場してきた背景について
第2回：人工妊娠中絶と旧優生保護法をめぐって
第3回：人工妊娠中絶の是非をめぐって
第4回：新しい生殖補助技術の概要
第5回：代理出産について（その現状と問題）
第6回：代理出産について（倫理的考察）
第7回：出生前診断技術について
第8回：選択的中絶と新しい「優生学」について
第9回：遺伝子編集とエンハンスメント（肯定論）
第10回：遺伝子編集とエンハンスメント（否定論）
第11回：重度障害新生児の安楽死について（その1：パーソン論に基づく肯定論）
第12回：重度障害新生児の安楽死について（その2：パーソン論の検討）
第13回：安楽死と緩和医療について
第14回：積極的安楽死について（オランダ等の事例）
第15回：「死ぬ権利」について
期末試験

使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次の二点を推薦する。
『命は誰のものか』香川知晶著、ディスカヴァー携書(2015)
『脳死・クローン・遺伝子治療』加藤尚武著、PHP新書（1999）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、先ずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：10112 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：いのちを考える b（What is Life? b）

担当者：銭谷 秋生

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：金曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 17.発問と回答

授業の概要： 生命工学や医療技術の進歩は、これまでの価値観が予想していないような倫理的問いを課してきます。体外受精技術を用いて代理出産をしてもいいかという問題、遺伝子編集技術を用いて能力を増強した人間を作りだしていいのかという問題などがこれに当たります。この講義では、こうした現代において新 たに登場してきた生命をめぐる倫理的諸問題を取り上げ、それらを考えるために押さえておくべき論点を整理したうえで、それらにどのように態度をとればいいのかを考察します。

キーワード： 人工妊娠中絶 代理出産 出生前診断 優生学 遺伝子編集 安楽死 死ぬ権利

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で説明を受けた「生命の処遇をめぐる現代的問題」の内容をよく理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験による **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 同上 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の

記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回：生命の処遇をめぐる問題が登場してきた背景について
第2回：人工妊娠中絶と旧優生保護法をめぐって
第3回：人工妊娠中絶の是非をめぐって
第4回：新しい生殖補助技術の概要
第5回：代理出産について（その現状と問題）
第6回：代理出産について（倫理的考察）
第7回：出生前診断技術について
第8回：選択的中絶と新しい「優生学」について
第9回：遺伝子編集とエンハンスメント（肯定論）
第10回：遺伝子編集とエンハンスメント（否定論）
第11回：重度障害新生児の安楽死について（その1：パーソン論に基づく肯定論）
第12回：重度障害新生児の安楽死について（その2：パーソン論の検討）
第13回：安楽死と緩和医療について
第14回：積極的安楽死について（オランダ等の事例）
第15回：「死ぬ権利」について
期末試験

使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次の二点を推薦する。
『命は誰のものか』香川知晶著、ディスカヴァー携書(2015)
『脳死・クローン・遺伝子治療』加藤尚武著、PHP新書（1999）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、先ずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：10113 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **ライフステージの心理学 a（Life-stage Psychology a）**

担当者： **林 雅子**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜 時：火曜3限　　**履修可能学科・専攻**： E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：　　**ＡＬ要素**： 15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要：　現在の先行きの見えない情勢の中で，不安を抱えている方は少なからずいるでしょう。この授業では，乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え，心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び，それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して，受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく，将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。
　授業は講義形式で進みます。ただし，授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために，授業内で小レポートの執筆課題が課されます。

※対面での講義が難しい場合，学務部からの指示に従ってオンライン授業（課題研究型）に切り替えます。その際はIC-UNIPAの掲示板に記載するため，確認をお願いします。

キーワード：生涯発達心理学，アイデンティティ，発達段階，対人関係

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標：授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80％理解し，筆記試験にて解答することができる。

評価方法：レポート　　**評価割合**：30%
学期末筆記試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業を踏まえて，今日の社会的問題や課題について，心理学的観点から考え，論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法：レポート　　**評価割合**：40%
学期末筆記試験

▼学修に主体的に取り組む態度

意欲的に授業に参加し，心理学的観点を身に付けようとしているのか，授業内にて行う小レポート課題の提出状況によって判断する。
学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については，初回授業にて説明する。
なお，授業中に秩序を乱すような行為をした場合は，減点または厳重注意の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし，学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし，授業中の態度やレポート，筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等，著しく公正性を欠く言動があった場合，またはカンニング等の不正行為があった場合は，減点や厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし

評価割合：とくになし

授 業 計 画：

【第1回】イントロダクション：生涯発達心理学とは何か
授業の進め方や内容，評価方法等について説明し，生涯発達心理学の概要について解説します。

【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達
人が物事をいかに認識し，考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのように発達していくのかを段階ごとに学びます。

【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達
人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを，エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。特に人の生涯にわたる発達について考えていきます。

【第4回】胎児・乳児期の発達
胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。

【第5回】幼児期の発達
幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び，幼児との関わりについて考えます。

【第6回】児童期の発達
学習を通した児童の道徳観や社会性の発達などについて学び，小学校における教育問題について考えます。

【第7回】青年期前期の発達
思春期に生じる心身の発達について学びます。また，発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。

【第8回】青年期後期の発達
アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び，学生自身の現在について考えていきます。

【第9回】成人期（成人前期）の発達
青年から成人への発達的変化について考えます。

【第10回】中年期（成人後期）の発達
中年期（成人後期）に生じる“危機”について学ぶ中で，自分自身の将来について考えていきます。

【第11回】老年期の発達
老年期における喪失と獲得について考えます。

【第12回】発達障害と共に生きる
発達障害を取り上げ，その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。

【第13回】対人関係の発達(1)
親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにいかに変化・発展していくかを考えます。

【第14回】対人関係の発達(2)
対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び，他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。

【第15回】まとめ
これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。

【最終試験】
試験内容や形式については授業内で発表を行います。

使用テキスト： なし　授業内で資料を配布します。
配布した資料は授業後にすべてIC-UNIPA上に掲載しますので，欠席した場合は各自で印刷してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
【授業中の取り組み】
この授業では生涯における発達的変化について考えていきます。そのため，自分自身の過去，現在，未来についてイメージしながら授業を受けることで，心理学的な理論を身近に感じることができると思われます。
【授業外の取り組み】
授業の最後に次回のテーマを予告します。興味のある方は，テーマについて調べてみると次回の授業の理解が早くなると思います。授業後は，小レポートのフィードバックをしたり，配布資料の内容を見返したりして，講義内容の理解を深めていただくようお願いします。
また，人の発達に関するテーマは新聞，テレビ，小説，漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも，この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので，新聞やテレビのニュースを観る際に，発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。
【参考文献・資料等】
授業時に配布する資料に毎回掲載しますので，そちらをご確認ください。

障がいのある履修者への対応： 事前に学務部等へご連絡するようにお願いします。その上で，可能な限り対応いたします。

授業時間外の連絡手段： 初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えしますので，そちらをご利用ください。
または，学務部のほうへお問い合わせをお願いします。

留意事項： 受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合，初回授業にて抽選を行い人数調整をします。
また，その際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めません。
後期に開講されるライフステージの心理学bはこの授業と同一の内容です。なるべく人数が収まるよう，日程が調整可能な学生は後期の方を履修してください。

科目コード：10113　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ライフステージの心理学 b（Life-stage Psychology b）

担当者：林　雅子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 現在の先行きの見えない情勢の中で，不安を抱えている方が少なからずいるでしょう。この授業では，乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え，心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び，それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して，受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく，将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。
授業は講義形式で進みます。ただし，授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために，授業内で小レポートの執筆課題が課されます。

※前期科目「ライフステージの心理学a」と同一の内容になります。
※対面での講義が難しい場合，学務部からの指示に従ってオンライン授業（課題研究型）に切り替えます。その際はIC-UNIPAの掲示板に記載するため，確認をお願いします。

キーワード： 生涯発達心理学，アイデンティティ，発達段階，対人関係

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80％理解し，筆記試験にて解答することができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：30%**
学期末筆記試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業を踏まえて，今日の社会的問題や課題について，心理学的観点から考え，論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：40%**
学期末筆記試験

▼学修に主体的に取り組む態度

意欲的に授業に参加し，心理学的観点を身に付けようとしているのか，授業内にて行う小レポート課題の提出状況によって判断する。
学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については，初回授業にて説明する。
なお，授業中に秩序を乱すような行為をした場合は，減点または厳重注意の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし，学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし，授業中の態度やレポート，筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等，著しく公正性を欠く言動があった場合，またはカンニング等の不正行為があった場合は，減点や厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし

評価割合：とくになし

授業計画：

【第1回】イントロダクション：生涯発達心理学とは何か
授業の進め方や内容，評価方法等について説明し，生涯発達心理学の概要について解説します。

【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達
人が物事をいかに認識し，考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのように発達していくのかを段階ごとに学びます。

【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達
人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを，エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。特に人の生涯にわたる発達について考えていきます。

【第4回】胎児・乳児期の発達
胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。

【第5回】幼児期の発達
幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び，幼児との関わりについて考えます。

【第6回】児童期の発達
学習を通した児童の道徳観や社会性の発達などについて学び，小学校における教育問題について考えます。

【第7回】青年期前期の発達
思春期に生じる心身の発達について学びます。また，発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。

【第8回】青年期後期の発達
アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び，学生自身の現在について考えていきます。

【第9回】成人期（成人前期）の発達
青年から成人への発達的変化について考えます。

【第10回】中年期（成人後期）の発達
中年期（成人後期）に生じる“危機”について学ぶ中で，自分自身の将来について考えていきます。

【第11回】老年期の発達
老年期における喪失と獲得について考えます。

【第12回】発達障害と共に生きる
発達障害を取り上げ，その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。

【第13回】対人関係の発達(1)
親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにいかに変化・発展していくかを考えます。

【第14回】対人関係の発達(2)
対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び，他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。

【第15回】まとめ
これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。

【最終試験】
試験内容や形式については授業内で発表を行います。

使用テキスト： なし　授業内で資料を配布します。
配布した資料は授業後にすべてIC-UNIPA上に掲載しますので，欠席した場合は各自で印刷してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
【授業中の取り組み】
　この授業では生涯における発達的変化について考えていきます。そのため，自分自身の過去，現在，未来についてイメージしながら授業を受けることで，心理学的な理論を身近に感じることができると思われます。
【授業外の取り組み】
　授業の最後に次回のテーマを予告します。興味のある方は，テーマについて調べてみると次回の授業の理解が早くなると思います。授業後は，小レポートのフィードバックをしたり，配布資料の内容を見返したりして，講義内容の理解を深めていただくようお願いします。

また，人の発達に関するテーマは新聞，テレビ，小説，漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも，この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので，新聞やテレビのニュースを観る際に，発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。

【参考文献・資料等】

授業時に配布する資料に毎回掲載しますので，そちらをご確認ください。

障がいのある履修者への対応： 事前に学務部等へご連絡するようにお願いします。その上で，可能な限り対応いたします。

授業時間外の連絡手段： 初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えしますので，そちらをご利用ください。
または，学務部のほうへお問い合わせをお願いします。

留意事項： 受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合，初回授業にて抽選を行い人数調整をします。
また，その際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めません。
抽選を行う場合はIC-UNIPAの掲示板にてお知らせしますので，ご確認ください。

科目コード：10114　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： 人生と儀礼（Life and Ceremonies）

担当者： 榎 陽介

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 17.発問と回答

授業の概要： 私たちの文化は均一ではない。過去においても現在においても同様である。実は「日本」という大きなくくりでは漏れてしまうような多様性が存在し続けてきた。
現在伝統的で日本人的だと思われていることの実際はどうなのだろうか？　この授業では人の一生を題材とし、関係する習俗とその多様性を再確認する。この授業を通じて多様で豊かな日本文化に触れてみたい。
授業では、民俗学の方法を用い、人の誕生以前から死後までを考える。人の一生は儀礼によりいくつにも区切られている。一年という時間が正月や盆といった季節の行事により区切られているのと同様である。その意味を多くの事例を通して知ることにより、ともすれば均一な文化のように感じられている現代社会だが、その底に潜む差異に満ちた姿を学び、「伝統的」と画一的に考えられているかつての生活文化の多様性を知る。また、理解を助けるために、人の一生に関する映像も豊富に使う予定。

※対面で行う予定だが、感染状況なども考慮して遠隔（Teams）も併用することもある。
※レジメなどについては、原則として授業の前々日にUNIPAにアップする。

キーワード： 民俗学　人の一生　通過儀礼　日本人　習俗　伝統とはなにか　多様性　誕生　結婚　死

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業では順を追って人の一生についての習俗について学ぶ。具体的なイメージを得やすいように、一生の各段階について、それぞれ映像を用いる。最後にまとめとして学んだ内容を再確認するので、きちんと受講していれば授業内容を習得できるようになっている

評価方法： 学年末の筆記試験　**評価割合：80**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を理解し、自らの知識として獲得したことを、表現記述していること。

評価方法: 学年末の筆記試験　　**評価割合:** 20

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について、自ら知識を得ようと努力することが求められる。また、周辺の習俗にも注意を向けることにより、授業内容がよりよく理解されるだろう。

評価割合: 0

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない

評価割合: 0

▼公正性

直接的な評価対象としない
ただし、授業中の態度および試験における不正な行為については対象となる場合がある。

評価割合: 0

▼その他

とくにない

評価割合: とくにない

授業計画:
第1回　ガイダンス:この授業で学ぶこと
第2回　通過儀礼としての人の一生
第3回　「民俗学」というものの見方
第4回　誕生前後と誕生後1
第5回　誕生前後と誕生後2
第6回　子どもの世界1
第7回　子どもの世界2
第8回　一人前になる:成人儀礼1
第9回　一人前になる:成人儀礼2
第10回　婚姻の習俗1
第11回　婚姻の習俗2
第12回　死と葬送・死後の供養の儀礼1
第13回　死と葬送・死後の供養の儀礼2
第14回　通過儀礼と家屋、食、道具
第15回　まとめ
定期試験

使用テキスト: とくに用いない
必要に応じて資料などは配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 民俗学に関係する書籍・情報に目を通し、民俗学的世界に慣れておくこと。テレビなどの番組にも授業と関連するような話題はよく登場する。
参考資料として下記の書籍は有用である。
谷口・板橋編著『日本人の一生―通過儀礼の民俗学―』八千代出版　2014年

障がいのある履修者への対応: どのように対応できるか検討しますので、まずは学務部などに連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務などにご相談ください

留意事項: とくにない

科目コード: 10117　　**科目ナンバリング:**　　**主な使用言語:** 日本語

授業名（英文）： 歴史に学ぶ（Learning from History）

担 当 者： 永井　博

基本情報

年 次：1　　**単位数：**2　　**授業形式：**講義

曜 時：月曜3限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　　**ＡＬ要素：** 振り返り用紙と応答

授業の概要： 過去にあったさまざまな自然災害への対応、戦争、事件などの原因・結果の分析、思想・文化のありかたなどを通して、今後のあるべき社会を考えるために、歴史から学ぶことはたくさんあります。また、その時代と現代との価値観の相違点、あるいは共通点を考えることは、現代社会における多様性理解とさまざまな課題についての解決のヒントを与えてくれるでしょう。
本授業では、以上の観点に留意して日本の近世（江戸時代）をテーマごとに考察していきますが、必要に応じ、高校教科書や歴史書の執筆経験、博物館での展示、アーカイブズでの史料整理などの実務経験をふまえた具体的な事例も紹介していきたいと思います。

キーワード： 江戸　多様性　幕藩体制　価値観

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説した日本近世（江戸時代）の歴史・思想・文化について理解し、自分の言葉で説明することができる。

評価方法： 学期末試験　　**評価割合：**50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自主学修を通じ得た知識をもとに、歴史的思考の方法を深め、論理的に自分の所見を表現することができ

評価方法：学期末試験　　**評価割合：**30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の学習内容を板書等以外も記録したり、疑問点などを質問するなど、知識を積極的に取り込む姿勢については、評価の対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価の対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回：オリエンテーションー本授業のねらいと進め方ー
第2回：「天下統一」とはどういうことか？ー「近世」への道
第3回：「法」と「儀礼」による支配
第4回：参勤交代とは何か
第5回：インフラの整備ー水上と陸上ー
第6回：江戸時代の国際関係ー4か所の海外との接点
第7回：生命尊重への転換ー「生類憐みの令」と「物忌令」
第8回：思想と宗教、信仰

第9回：江戸の教育力ー藩校と私塾ー
第10回：江戸の旅ー公務から物見遊山まで
第11回：江戸文化を楽しむー文学・絵画・造形
第12回：武家・農民・町人の生活の諸相
第13回：自然災害・疫病とのたたかい
第14回：幕末の外交・防衛ー欧米列強の植民地獲得競争への警戒と対応
第15回：西欧化への道程ーまとめ
定期試験

使用テキスト： 講義で使用する資料は必要に応じ印刷、配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 高等学校で日本史を履修している場合は、江戸時代に関する部分を読み返す。履修していない場合はテーマに関する事項についてインターネットで検索するなどして予習をしておく（60分）。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を受け付けます（アドレスは配布資料に記載）。

留意事項： 特になし。

科目コード：10119　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ことばと人間（Language and Humanity）

担当者：三上　司

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 09,10,15,17

授業の概要： 言語を使用する能力は、人間を他の動物から区別する重要な特徴とされている。人間は言語のおかげでコミュニケーションが可能となり、高度な思考を働かせることが可能となり、文学作品なども味わうことができるのである。したがって、人間を深く理解するためには、言語の本質を理解することが極めて重要になってくる。本講義では、日本語の変化を材料にして、人間にとって言語とはどのようなものなのか、また言語の歴史的研究を通じて何が明らかとなるのかについて考えていく。

キーワード： 日本語、言語変化、社会変化、日本語史、日本史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 言葉の変化には、社会変化が反映している面と、言語使用そのものに起因する面とがあることを識別することができる。

評価方法： 授業への参加とテスト　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 言語変化の研究により、現代の言語に対する理解が深まり、言語を正しく使用することができる。

評価方法： 授業への参加とテスト　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
1. はじめに
2. 上代日本語＜1＞(奈良時代)
3. 上代日本語＜2＞
4. 古代日本語＜1＞(平安時代)
5. 古代日本語＜2＞
6. 中世日本語＜1＞(鎌倉・室町)
7. 中世日本語＜2＞
8. 中世日本語＜3＞
9. 近代日本語＜1＞(江戸時代)
10. 近代日本語＜2＞
11. 近代日本語＜3＞
12. 現代日本語＜1＞(明治以降)
13. 現代日本語＜2＞
14. 現代日本語＜3＞
15. 方言・まとめ

使用テキスト： 印刷物を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考書等は授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： 最初の事業で提示します。

留意事項： 特になし。

科目コード：10123　**科目ナンバリング：LA10C20K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：本を読む(人文) a(Reading Appreciation (Human Science) a)

担当者：六川 裕子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 07. 発表

授業の概要： 『星の王子さま』で知られる、フランスの作家サン=テグジュペリの長編小説『夜間飛行』の全編を、15回の授業で読み通します。海外の作品の翻訳を精読しながら、内容への理解とともに背景となる文化や時代についての理解も深めることを目指します。毎回指定した個所を事前に読んで、要約を書いて提出してもらいます。さらに、指定したテーマについて調べて発表をしてもらい、その内容とも合わせて作品について考察していきます。

キーワード： サン=テグジュペリ、小説、20世紀、フランス文学、飛行機

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 小説の文章の内容を理解し、その内容を適切な形で簡潔な文章にまとめることができると共に、書籍から必要な情報を探し出し、的確に伝えることができる。

評価方法: 要約の提出　　**評価割合:** 40%
学期末筆記試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 与えられたテーマについて調べた内容を論理的な文章で明確にまとめ、それを分かりやすく発表で伝えることができる。
また、書籍の内容を正確に理解し、そこから必要な情報を得て、論理的な言葉で伝えることができる。

評価方法: テーマについての発表　　**評価割合:** 50%
学期末筆記試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に他の履修者の迷惑になるような行動を取ったり、提出物で人のものを写すなどの不正行為が見られたりする場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:
第1回　オリエンテーション、発表の担当割り当て
第2回　本について、サン=テグジュペリという作家について
第3回　1章、発表「『星の王子さま』について」
第4回　2～3章、発表「飛行機の歴史について」
第5回　4～5章、発表「アルゼンチンという国について」
第6回　6章、発表「アルゼンチンの地理について」
第7回　7～8章、発表「飛行機の種類について」
第8回　9章、発表「当時のフランスについて」
第9回　10～11章、発表「郵便制度の歴史について」
第10回　12章、発表「ジャイロスコープについて」
第11回　13章、発表「無線電信や通信技術について」
第12回　14章、発表「同時代のフランス文学について」
第13回　15～16章、発表「飛行機を扱った文学作品について」
第14回　17～19章、発表「飛行機と気象について」
第15回　20～23章、発表「当時の世界情勢について」
定期試験

使用テキスト: サン=テグジュペリ、『夜間飛行』、二木麻里訳、光文社、2010年。
(学期末試験でも使用しますので、必ず購入してください)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 次の授業で取り上げる箇所を事前に読み、その内容を要約する課題を毎回課しますので、必ず指定の箇所を読んできてください。要約の内容を、少なくとも1回は発表の形で授業で読み上げてもらいます。

テーマごとの発表については、初回の授業後に割り当てを決めますので、テーマについて調べた内容をまとめて、授業中に1回発表してもらいます。インターネットだけでなく、できれば書籍も参照して、複数の資料を使ってまとめるようにしてください。詳しいことは授業で説明します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項： 後期開講の「本を読む（人文）b」とは同じ内容ですので、重複して履修することはできません。
また、履修希望者が多い場合は抽選になることと、初回に発表の割り当てを決定することから、必ず1回目の授業に出席する必要があります。
課題の提出物は、添削をして返却します。

科目コード：10123　**科目ナンバリング：LA10C20K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：本を読む（人文）b（Reading Appreciation (Human Science) b）

担当者：六川 裕子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 07. 発表

授業の概要： 『星の王子さま』で知られる、フランスの作家サン=テグジュペリの長編小説『夜間飛行』の全編を、15回の授業で読み通します。海外の作品の翻訳を精読しながら、内容への理解とともに背景となる文化や時代についての理解も深めることを目指します。毎回指定した個所を事前に読んで、要約を書いて提出してもらいます。さらに、指定したテーマについて調べて発表をしてもらい、その内容とも合わせて作品について考察していきます。

キーワード： サン=テグジュペリ、小説、20世紀、フランス文学、飛行機

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 小説の文章の内容を理解し、その内容を適切な形で簡潔な文章にまとめることができると共に、書籍から必要な情報を探し出し、的確に伝えることができる。

評価方法： 要約の提出
学期末筆記試験

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 与えられたテーマについて調べた内容を論理的な文章で明確にまとめ、それを分かりやすく発表で伝えることができる。
また、書籍の内容を正確に理解し、そこから必要な情報を得て、論理的な言葉で伝えることができる。

評価方法： テーマについての発表
学期末筆記試験

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に他の履修者の迷惑になるような行動を取ったり、提出物で人のものを写すなどの不正行為が見られたりする場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　オリエンテーション、発表の担当割り当て
第2回　本について、サン=テグジュペリという作家について
第3回　1章、発表「『星の王子さま』について」
第4回　2～3章、発表「飛行機の歴史について」
第5回　4～5章、発表「アルゼンチンという国について」
第6回　6章、発表「アルゼンチンの地理について」
第7回　7～8章、発表「飛行機の種類について」
第8回　9章、発表「当時のフランスについて」
第9回　10～11章、発表「郵便制度の歴史について」
第10回　12章、発表「ジャイロスコープについて」
第11回　13章、発表「無線電信や通信技術について」
第12回　14章、発表「同時代のフランス文学について」
第13回　15～16章、発表「飛行機を扱った文学作品について」
第14回　17～19章、発表「飛行機と気象について」
第15回　20～23章、発表「当時の世界情勢について」
定期試験

使用テキスト： サン=テグジュペリ、『夜間飛行』、二木麻里訳、光文社、2010年。
（学期末試験でも使用しますので、必ず購入してください）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次の授業で取り上げる箇所を事前に読み、その内容を要約する課題を毎回課しますので、必ず指定の箇所を読んできてください。要約の内容を、少なくとも1回は発表の形で授業で読み上げてもらいます。
テーマごとの発表については、初回の授業後に割り当てを決めますので、テーマについて調べた内容をまとめて、授業中に1回発表してもらいます。インターネットだけでなく、できれば書籍も参照して、複数の資料を使ってまとめるようにしてください。詳しいことは授業で説明します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項： 前期開講の「本を読む（人文）a」とは同じ内容ですので、重複して履修することはできません。
また、履修希望者が多い場合は抽選になることと、初回に発表の割り当てを決定することから、必ず1回目の授業に出席する必要があります。
課題の提出物は、添削をして返却します。

科目コード：10126　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **現代社会と政治学（Contemporary Society and Political Science）**

担当者： **林　寛一**

基本情報

年次：1　　**単位数：2**　　**授業形式：講義**

曜時：月曜2限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **ＡＬ要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 前期科目「政治学」が、いわゆる政治学の基礎的な教養講座であるのに対して、この授業では、現代社会の諸問題や課題に対して、政治学がそれらをどのように捉えているのか、そして政策的にどのように対応しようとしているのかについての基本的な見方・考え方を修得します。「政治学」が、政治学一般の基礎的な用語の理解に重点が置かれているのに対し、この授業では、現代社会の政治現象に特化して、その現象を分析するための基本的な概念と理論を学びます。

キーワード： 国家と主権、民主主義と権威主義、政党と選挙、執政府と議会、科学と政策、集権と分権、戦争と平和、政治と経済、個人と国際社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート **評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　現代社会と政治学;オリエンテーション
第2回　政治の捉え方
第3回　国家という枠組み
第4回　政治体制
第5回　選挙と選挙制度
第6回　投票行動
第7回　政党と政党システム
第8回　政権とアカウンタビリティ
第9回　執政・立法・司法
第10回　政策過程と官僚制・利益団体
第11回　連邦制と地方制度
第12回　安全保障と平和
第13回　国際政治経済学

第14回　国際社会と集団・個人
第15回　まとめ
定期試験

使用テキスト： 砂原庸介・稗田健志・多胡淳『政治学の第一歩（新版）』有斐閣ストュディア、2020年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと（60分）。
授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい（60分）。
参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業等でお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：10127　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：グローバリゼーションとは何か（What is Globalization?）

担当者：林　寛一

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： グローバリゼーションの定義は難しいのですが、ここでは、ヒト・モノ・カネ・企業・情報など、国境を越える移動が活発となり、地球規模での一体化が進んでいること、つまり、地球上の各地点での相互連結性が強化される広範な社会的プロセスである、と理解しておいてください。政治的、経済的、文化的な境界、あるいは国境の存在感が以前よりも希薄に感じたり、逆にそうした動きに反発してナショナリズムのイデオロギーや運動が噴出するのに不安を感じたりもしています。この授業では、経済、政治、文化、エコロジー、イデオロギーといった多次元の社会のダイナミズムから、グローバリズムについて広く学びます。

キーワード： グローバリゼーション、資本主義、市場経済、自由主義、ナショナリズム、格差、民主主義、エコロジー、情報

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　オリエンテーション
第2回　グローバリゼーションとは何か？
第3回　グローバリゼーションと歴史(1)
第4回　グローバリゼーションと歴史(2)
第5回　グローバリゼーションと経済(1)
第6回　グローバリゼーションと経済(2)
第7回　グローバリゼーションと政治(1)
第8回　グローバリゼーションと政治(2)
第9回　グローバリゼーションと文化(1)
第10回　グローバリゼーションと文化(2)
第11回　グローバリゼーションとエコロジー(1)
第12回　グローバリゼーションとエコロジー(2)
第13回　グローバリゼーションとイデオロギー
第14回　グローバリゼーションと未来
第15回　まとめ
定期試験

使用テキスト： マンフレッド・B・スティガー、櫻井公人・櫻井純理・高島正晴訳『新版グローバリゼーション』岩波書店、2010年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと(60分)。
授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい(60分)。
参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業等でお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：10131　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **人権から見た教育と労働(Education and Employment from a Human Rights Perspecti**

担当者： **古屋　等**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 人権とは各人の自由の保障を通じて個人の人格を伸張することに本質があります。そこでは、人間相互の平等が前提とされていますが、現実には経済的・社会的な格差が存在しています。性別や国籍、障害の有無などによる区別が典型といえるでしょう。そのため、すべての人が等しく教育と労働の機会が保障されるように、さまざまな法律や命令などが整備されています。この授業では、これらの法律や命令などを憲法の人権の観点から考察することを通じて、教育と労働をめぐって生じている現代的な課題について考察することを目的としています。

キーワード： 人権、自由権、社会権、教育の機会均等、勤労の権利・義務、労働基本権

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 人権尊重の本質に関する理解に基づいて、自由権と社会権の相互関係を説明することができる。日本国憲法の教育権や労働基本権が、法律によりどのように保障されているかを具体な事例と関連づけて考察することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：**50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 教育および労働の機会均等を憲法の平等主義の観点から考察でき、これらをめぐる現代的課題を教育や労働をめぐる法制度を通じて検討することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：**40%

▼学修に主体的に取り組む態度

教育や労働をめぐり社会で生じるさまざまな問題に関心をもち、その原因を法的に分析し、解決策を自ら検討しようとする態度を身に付ける。

評価割合：5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

教育をめぐる子どもや親の自由と国家的な一定水準の確保、契約締結をめぐる労働者の保護と企業による営業の自由を対立関係として捉えることができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1 ガイダンス―授業説明と法の学び方―
2 法とは何か―法と権利の相互関係―
3 人権の誕生とその類型―自由権と社会権―
4 人権と国際的保障―個人主義と普遍性―
5 明治憲法における教育と労働
6 日本国憲法による教育と労働
7 教育の機会均等(第26条第1項)
8 教育をめぐる法制度
9 教育権をめぐる親（教師）と国家
10 教育をめぐる自治と行政
11 勤労の権利および義務（第27条）
12 勤労条件に関する諸基準（第27条第2項）―その1―
13 勤労条件に関する諸基準（第27条第2項）―その2―
14 労働基本権の保障（第28条）―労働組合法・労働関係調整法―
15 労働をめぐるさまざまな問題
16 定期試験

使用テキスト： 必要に応じて参考資料を印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10132　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：働くということ（The Meaning of Work）

担当者：川又 啓蔵

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 10. 資料調査課題

授業の概要： 【授業形態ガイドライン　レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型

社会・経済環境の変化・動向（これまでの経緯と将来の予測・見通し）を踏まえ、様々なリスクへの戦略的対応という観点でとらえ、働くことの多様性や意義について、多面的・多角的に学修します。

なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者［ソフト事業］、地域づくり研究者［地域資源・地域づくり・防災減災（感染症対応を含む）など］、企業経営者）を生かして、幅広い分野・業種・業態について論じます。

キーワード： キャリア形成、就職、社会環境、経済環境、労働環境、地域、業種、会社、勤労

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会・経済環境の変化・動向（これまでの経緯と将来の予測・見通し）を踏まえ、働くことの多様性や意義について、多面的・多角的に学修し、考えることができる。

評価方法： 学期末課題　**評価割合：100%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や、正しい日本語が使われているかなども評価の対象となります。

評価方法： 学期末課題　**評価割合：0%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、自ら収集した情報や授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しくに対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。

評価割合：0%

▼その他

授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。

学期末課題等の評価をもとに、成績評定を行います。

※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。

評価割合：　授業への参加（出席）は、最低限

授業計画：

★前半★

これまでの社会・経済の変遷（歴史）を踏まえ、これからどのように環境が変わっていく可能性があるのか総論的に考えます。

【第1回】オリエンテーション・イントロダクションなど

【第2回】社会・経済環境の変遷―1

【第3回】社会・経済環境の変遷―2

【第4回】将来への予測・推測と見通し―1（特に「自然環境」）

※特に気候変化、感染症など自然科学に関するリスク。

【第5回】将来への予測・推測と見通し―2（特に「地政学的側面」）

※世界のパワーバランスと安全保障に関するリスク。

【第6回】将来への予測・推測と見通し―3（特に「テクノロジー」）

※技術革新には、正負両側面があり、「リスク要因」になることも少なくない。

【第7回】将来への予測・推測と見通し―4（特に「経済・社会環境」）

※第4～6回の内容を踏まえた経済・社会リスク。

★後半★

前半を踏まえ、今後、将来について、どのように対応していくべきかを考えます。

【第8回】業界・職種・地域別の栄枯盛衰

※前半の内容を踏まえて考察します。

【第9回】変化していく環境に対する基本的な構え方

※前半各回と前回の内容を踏まえて論じます。

【第10回】働き方・働く目的について―1

※雇用者・起業家・経営者といった形態を踏まえ論じます。

【第11回】働き方・働く目的について―2

※仕事の掛け持ち・多角的身分（社会的・公益的役割［政治家等］への従事を含め）などの形態を踏まえ論じます。

【第12回】戦略的姿勢とキャリア形成

※「計画から戦略」を重視する考え方で考察します。

【第13回】突発的リスクへの対処

※大災害・武力紛争・コロナ禍のような事態を含めた突発的リスクへの対応について考察します。

【第14回】変化する報酬・資産形成に関する考え方
※能力評価重視、経済変動による資産価値増減、少子高齢化・長寿社会、貯蓄から投資へなど、これまでの方針転換を踏まえ考察します。
【第15回】まとめ

※時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。

使用テキスト： 必要に応じて、授業中、インターネットで情報を検索してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： インターネット等を通して、社会・経済情勢について幅広い情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。

授業時間外の連絡手段： メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。

留意事項： 前記授業内容にも記しましたが、時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。
また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合もあります。

科目コード：10133 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **共に生きる（Human Coexistance）**

担当者： **池田 幸也**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：水曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 08:協同学修
11:討論
17:発問と回答

授業の概要： 【オンライン授業となった場合はteamsを使った同時双方向型とする】

「共に生きる」という社会の実現が叫ばれて久しい。身近な地域社会における生活課題から人類の生存に関わる地球的規模の課題に至るまで「共に生きる社会」を阻む課題は多岐にわたる。この講座では、現代社会における多様な社会課題を取上げ、未来を生きるわたしたち自身が創る社会のための参加と協働の意義と方法を考察する。
また、講義を通して各自が関心を寄せるテーマを見出し、その課題へのアクションを誘うことをめざす。このために必要な情報提供は毎時間行う。

キーワード： 現代社会 ボランティア コミュニティ 福祉 教育 国際 差別 偏見 格差 平和 環境 文化 NPO NGO 参加 協働 市民社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げたテーマについての知識の獲得と理解の深化と、共に生きる社会をめざす市民の役割と意義を説明できる。

評価方法： 試験 **評価割合：80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義で取り上げたテーマを基礎に、現代社会における地球規模から地域社会における課題の改善に取り組む方法、組織のマネジメント、参加と協働の実践に向けた思考力を身に付ける。

評価方法： 毎時間のリアクションシート **評価割合：20%**

及び
試験

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、各回の講義のテーマへの関心・意欲・態度をふりかえりシートの記述などから把握する。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、講義で取り上げたテーマへの関心を寄せる活動を見出した場合は、実践的な取り組みに挑むことを推奨する。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。講義の根底を貫く人類にとっての価値である人権の理解を前提に各テーマの学修を深める。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
【第01回】人類と現代社会の課題
【第02回】近代社会の誕生とボランティア
【第03回】ボランタリズムと人権
【第04回】アメリカの人種問題と公民権運動
【第05回】家族とボランティア活動
【第06回】障がい者とボランティア活動
【第07回】障がい者観を問い直すボランティア活動
【第08回】ホームレスの自立支援とボランティア活動
【第09回】途上国支援とボランティア活動
【第10回】人権擁護とボランティア活動
【第11回】好きなことを生かすボランティア活動
【第12回】多文化共生とボランティア活動
【第13回】福祉・医療施設とボランティア活動
【第14回】学校・社会教育施設とボランティア活動
【第15回】まちづくりとボランティア活動　まとめ
試　験

使用テキスト： 池田幸也『ボランティア論 』~市民社会の創造~　発行：大学図書出版　2018
ISBN978-4-907166-81-6

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 教科書をベースに毎回の講義テーマについて取上げるので、講義の前には教科書の該当箇所を熟読して予習する。
講義の後には、疑問や課題を整理し、調べ学習を通して復習に努める。
参考文献や資料は毎回の講義で必要に応じて提示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、あらかじめ学務課等にご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 初回の講義でお知らせします。

留意事項： ＊テキストに基づき講義を展開するので、あらかじめ購入し、毎時間持参すること。
＊「共に生きる社会」をめざすわたしたちの参加をテーマに初回から最終回まで全体を貫くストーリがあるので、できる限り欠席しないようにすること。

科目コード：10134　**科目ナンバリング：LA10C36K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ジェンダーの現在（Contemporary Gender Studies）

担 当 者： 中島　美那子

基本情報

年 次 ：1　　**単 位 数 ：**2　　**授業形式：**講義

曜 時 ：月曜4限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 ：　　**A L 要 素 ：** 16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要： 社会・文化的な性のありようをジェンダーといいます。本授業では、ジェンダーに関する基礎知識を学びます。ジェンダーの概念を客観的に捉えつつ、ジェンダー平等に向けて受講者が自らの見方・考え方を確立していくことができるように、国際的な視点からの現状と課題、および身近な事象とその課題について取り上げます。

キーワード： ジェンダー、LGBTQ+、男らしさ・女らしさ、DV

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： ジェンダー、LGBTQ+、DV等に関するさまざまな理論や現在の動向について知見を深め、概ね80％の内容を解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験　　**評価割合：**50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 日頃、自明のこととして捉えてきたことが、いかにジェンダーの影響を受けているかについて考えを深め、これらのことを自らの今後の課題としてとらえ、その解決策を示すことができる。

評価方法： 学期末筆記試験　　**評価割合：**40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業終了時に取り組む「振り返りシート」において、明確な主体的学修や気づきの記述がある。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等が学期末筆記試験の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼ 公 正 性

直接的な評価対象とはしない。しかし、振り返りシートや学期末筆記試験での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。本授業では性的少数者や男女の公平性について論じることが多くあるため、注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授 業 計 画 ：
【第1回】 ジェンダーとは何か(中島)
【第2回】 フェミニズム運動の歴史ー西洋編（王）
【第3回】 フェミニズム運動の歴史ー東洋編（王）
【第4回】 政治分野におけるジェンダー平等（王）
【第5回】 多様な女性性・男性性（王）
【第6回】メディアとジェンダー（王）
【第7回】教育とジェンダー(中島)

【第8回】 昭和時代とジェンダー（1）戦前、戦中そして戦後(中島)
【第9回】昭和時代とジェンダー（2）昭和時代から私たちは何を学ぶか(中島)
【第10回】キャリア形成とジェンダー(中島)
【第11回】 恋愛・結婚とジェンダー （中島)
【第12回】 子育てとジェンダー(中島)
【第13回】 介護とジェンダー(中島)
【第14回】 男性学入門(中島)
【第15回】 DV・デートDVの現状と課題(中島)
定期試験

使用テキスト： 中島美那子・塩原慶子『地域に生きる女たち』(渓水社、2022年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前学修として、自分の生活の中にあるジェンダーについて意識してみることをお勧めします。
事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行ってください。
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 毎年、受講希望者が100名を超えるので、もし超えた場合には上位学年を優先して人数の調整を行うこととします。

科目コード：10140 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **地域を学ぶ a（Community Studies a）**

担当者： **池内 耕作**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：水曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 06.遠隔交流、07.発表、08.共同学修、11.討論、17.発問と回答

授業の概要： この授業は、茨城大学、常磐大学、県立医療大学、茨城工業高等専門学校および本校の5校が、各校の学生に提供する地域志向科目として共同開設するものです。授業では、地域の人々（行政、企業、NPO等の代表者や大学教員）の話を録画で聴講したのち、与えられた課題についてグループで討論・発表するなどのアクティブ・ラーニング（能動的学修）を進めます。

キーワード： 地方創生、地域づくり、茨城学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 茨城の自然・地理・歴史・文化・産業などの学修を通じて多角的な理解を深め、その理解に基づいて自身の居住地の地域遺産に関わる知を説明することができる。

評価方法： 学期末試験（課題レポート） **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 地域が抱える課題や未来について教員や他の学生、地域の人々と一緒に考え、自分なりの地域活性化ビジョンを説明することができる。

評価方法： 学期末試験（課題レポート） **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修や活動によって自身の知見に追加された成果等が報告会での発表や小課題において確認できる場合は、上記の項目「知識・技能」または「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等によって自身の知見に追加された成果等が報告会での発表や小課題において確認できる場合は、上記の項目「知識・技能」または「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【以下は例年の標準的な内容であり参考情報です。本年度については第1回の授業時にお知らせします】

第01回　オリエンテーション
第02回　水戸黄門の功罪
第03回　環境とものづくり
第04回　日立市
第05回　地域の自然資源を活用した地域振興と世界への情報発信
第06回　茨城町・常陸太田市
第07回　地元企業の役割
第08回　日本の地域を考える
第09回　産地の形成の展開と地域振興
第10回　茨城県
第11回　データでみる茨城農業：茨城の農業をいかした地域振興
第12回　阿見町・大洗町
第13回　水戸市
第14回　市民社会と地域連携
第15回　全体のまとめ～地域で学ぶ・地域と学ぶ

使用テキスト： 必要な資料はすべて印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次々の予習や今時の復習内容について、毎回の授業テーマに沿って適宜指導します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に相談して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：10144　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：**日本語

授業名（英文）： 生命科学の基礎知識 a（Understanding Basic Life Science a）

担当者： 山口　郁博

基本情報

年次：1　　**単位数：**2　　**授業形式：**講義

曜 時：水曜5限　　**履修可能学科・専攻**： E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：　　**ＡＬ要素**： 10 資料調査課題

授業の概要： 身近な自分自身の身体を切り口にして生命科学の基礎を学ぶ。フルカラーの図版や写真をつかって、視覚的な理解・記憶の定着を図る。ヒトに関することとして、栄養や呼吸・排泄など内臓と関係すること、聴覚・視覚など神経系と関係すること、さらには記憶・思考・社会性など、脳活動に関係することなどを学ぶ。生命体全体の一員として自分自身の生き方をあらためて考える一助にしたい。

キーワード： 誕生　死　子孫　遺伝　刺激　運動　環境　適応

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 直接的な評価対象とはしない。ただし、授業で説明された内容を知識としてきちんと習得することは、下記項目「思考力・判断力・表現力」を身に着ける上で必要不可欠であり、それを通じて本項目は間接的に評価される

評価方法： なし　　**評 価 割 合**：0%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で得た基礎知識を自身の経験、将来の希望、専攻分野等を踏まえた視点で整理し、自らの所見を表現することができる

評価方法：課題提出　　**評 価 割 合**：100%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題提出により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評 価 割 合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題提出により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象とする。

評 価 割 合：0%

▼そ の 他

特になし

評 価 割 合：特になし

授 業 計 画：
第1回　いのちのひろがり
第2回　生命の基礎的なしくみ
第3回　生命の設計図「ゲノム」
第4回　ヒトの誕生と成長
第5回　ヒトの寿命と死
第6回　生命を理解するための科学技術
第7回　刺激を感じるしくみ
第8回　情報を伝えるしくみ・動くしくみ
第9回　神経系の構造
第10回　生きるたのしみ　栄養素の代謝
第11回　生きるたのしみ　循環と維持
第12回　子孫を増やすしくみ
第13回　外的環境に適応するしくみ

第14回　外敵から身を守るしくみ
第15回　社会性を生み出す脳

使用テキスト： 指定しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 特に予習を前提とはしないが問題意識を持って授業に臨むことが重要である。復習に適した参考文献や資料を授業中に示す。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、連絡をお願いします。

授業時間外の連絡手段： 電子メール　アドレスは初回に伝えます。

留意事項： 特になし

科目コード：10144　　**科目ナンバリング：**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **生命科学の基礎知識 b（Understanding Basic Life Science b）**

担当者： **山口　郁博**

基本情報

年次：1　　**単位数：2**　　**授業形式：講義**

曜時：水曜5限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　　**AL要素：** 10 資料調査課題

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ 】遠隔授業 同時双方向型
身近な自分自身の身体を切り口にして生命科学の基礎を学ぶ。フルカラーの図版や写真をつかって、視覚的な理解・記憶の定着を図る。ヒトに関することとして、栄養や呼吸・排泄など内臓と関係すること、聴覚・視覚など神経系と関係すること、さらには記憶・思考・社会性など、脳活動に関係することなどを学ぶ。生命体全体の一員として自分自身の生き方をあらためて考える一助にしたい。

キーワード： 誕生　死　子孫　遺伝　刺激　運動　環境　適応

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 直接的な評価対象とはしない。ただし、授業で説明された内容を知識としてきちんと習得することは、下記項目「思考力・判断力・表現力」を身に着ける上で必要不可欠であり、それを通じて本項目は間接的に評価される

評価方法： なし　　**評価割合：** 0%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で得た基礎知識を自身の経験、将来の希望、専攻分野等を踏まえた視点で整理し、自らの所見を表現することができる

評価方法： 課題提出　　**評価割合：** 100%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題提出により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題提出により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　いのちのひろがり
第2回　生命の基礎的なしくみ
第3回　生命の設計図「ゲノム」
第4回　ヒトの誕生と成長
第5回　ヒトの寿命と死
第6回　生命を理解するための科学技術
第7回　刺激を感じるしくみ
第8回　情報を伝えるしくみ・動くしくみ
第9回　神経系の構造
第10回　生きるたのしみ　栄養素の代謝
第11回　生きるたのしみ　循環と維持
第12回　子孫を増やすしくみ
第13回　外的環境に適応するしくみ
第14回　外敵から身を守るしくみ
第15回　社会性を生み出す脳

使用テキスト： 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 特に予習を前提とはしないが問題意識を持って授業に臨むことが重要である。復習に適した参考文献や資料を授業中に示す。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、連絡をお願いします。

授業時間外の連絡手段： 電子メール　アドレスは初回に伝えます。

留意事項： 特になし

科目コード：10147　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **食といのち（Food and Life）**

担当者： **助川　宏子**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 07.発表
10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要： 生物は外界から物質やエネルギーを摂りいれ生命活動を営んでいます。
人間の生命と健康の源も適切な食物摂取と規則正しい食生活にあります。
我々が日常口にしている500種類にのぼる食品は、「栄養」(1次機能)、「嗜好」(2次機能)、「生体調節」(3次機能)の3つの役割を持っています。個々の食品の持つこれらの特徴を知り、健康な体と心を維持するための食生活習慣を身につける自分に合った方法を授業を通して見つけていきます。
　また本講義では、食品群ごとに生産量や消費量などの現状を把握し、食に関する現状の問題点やサスティナブルな社会を実現するための食の在り方について一緒に考えてみましょう。

さらに、各自興味のある食品について食文化または科学的視点から調査を行い、発表することで楽しみながら食への理解を深めます。

キーワード： 食品、栄養、美味しさ、食品の機能性、食生活、健康、いのち

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 食と健康やいのちとの関係を理解し、授業で解説を受けた食品の栄養素や機能性成分についての知識を習得するとともに正しい食生活習慣を身につける。

評価方法： レポート　　**評価割合：50%**
2回

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 食に関するテーマに関して、科学的または文化的な視点から調査を行い、発表を行う。（1人5分程度）

評価方法： 1回　　**評価割合：20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

組む態度
資料調査および自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができている。
毎回授業時レポート提出　A4サイズ

評価割合：30%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言、態度、提出課題および発表において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回：授業概要、食生活の現状チェック、自分が考える健康的な食生活とは
第2回：食品の栄養（1次機能）、嗜好(2次機能）、機能性(3次機能）とは
第 3 回：食品の種類と分類
レポート提出「食生活の問題点と改善方法」について　A42枚程度
第4回：第一の栄養～水分について～
第5回：第二の栄養～ミネラルについて～
第6回：第三の栄養～炭水化物について～
第7回：第四の栄養～タンパク質について～
第 8 回：第五の栄養～脂質について～
第9回：食品の相互作用～味・栄養～
第10回：食品の安全性～有機栽培・遺伝子組み換え・成分変化～
レポート提出「興味を持った食に関するレポー○○について～」（A4　3枚程度）
（科学的視点または文化的視点から）
第11回：発表およびディスカッション
第12回：発表およびディスカッション
第13回：発表およびディスカッション
第14回：発表およびディスカッション

第15回：発表およびディスカッション
現代の食物や食生活の問題点をまとめ解決策を探る

使用テキスト： 授業で使用する資料は、授業時UNIPAに掲示

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習必要なし。
授業後、掲示資料について復習するとともに資料にはない関連事項に関して、主体的に取り組み知見を深めることが望ましい。
参考資料「食品の科学総論」川上美智子著　理工図書

日本食品標準成分表2020年版(八訂)
日本人の食事摂取基準　2020年版
関連インターネットサイト

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： まずはUNIPAにてご連絡ください。

留意事項： 特になし。

科目コード：10148　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：地球環境と人間（Environment and Humanity）

担当者：飯田　利明

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：月曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 教室でのオンライン授業に慣れる

授業の概要： 今の時代を「環境の21世紀」と呼んだり、日常生活でも「エコ」という言葉が、驚くほど気軽に使われている。でもわたしたちは 本当に何がわかっているのか? 環境のこと、日本と世界で起きていること、その経緯や影響など、あまりにも複雑多様で刻々と変化 してわかりにくい。

一方、わたしたち人類を含めた生き物の生活は、現実の場所=目の前の環境で営まれているを忘れるとはできない。いわゆる「環境 問題」は、どこかの遠い世界で起きている出来事ではなく、わたしたち一人一人が主役で、身近な地域の中でこそ、未来と世界につな がる解決策を考えていく必要がある。

授業では、現在の人類と環境の深刻な関係の現状について、出来るだけ具体的に示して考えた い。そしてわたしたち人類の活動を理解し、この星=地球の環境とわたしたちの今後の関係を見直すほんのわずかな一助とさせていた だきたい。

キーワード： 環境破壊、環境汚染、人口爆発、大量消費、大量廃棄、生物多様性、森林破壊、環境コスト

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 現代の複雑な環境問題を、基礎的知識だけでなく、自分なりに考えるための知識を得る方法を知る。

評価方法： 期末のレポート　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 環境問題を、自分なりに積極的に考えて 、自分の考えと行動として、関われるようになる。

評価方法： 期末のレポート　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

いわゆる環境問題は、他人ごとではない。
今後、それにどう関わっていくのかを念頭に、授業を受けて、自ら情報を集め、考えていただきたい。

評価割合：30%

▼実践的ボランタリズム

具体的な評価対象とはしない。
ただし授業に関連する内容のボランティア活動等に参加しているのならば、その経緯、成果をレポートにまとめることは大歓迎します。現場に立っていることを、高く評価の対象としたい。

評価割合：0%

▼公正性

自他に対する公正性の確保は当然のことであり、通常の評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特に無し

評価割合：特に無し

授業計画：
[第01回] はじめに / わたしたちが生きるこの星「地球」
[第02回] 人口爆発と環境の過剰利用
[第03回] 経済成長と大量生産社会の影 /環境汚染について考える
[第04回] 地域的な環境汚染「公害」から、地球規模での環境汚染へ
[第05回] オゾン層破壊、有機塩素系化学物質汚染、原発事故
[第06回] 気候変動 /地球温暖化の現実
[第07回] わたしたちの暮しを支える生物の多様性の意味
[第08回] 生き物たちの大量絶滅の進行について
[第09回] 人が依存してきた森林の利用と現状
[第10回] 有限の水資源と世界的な現状
[第11回] 川がつなぐ森と海 /日本での水辺の再生への取り組み
[第12回] 環境コストをどう扱うか /「生態系サービス」について考える
[第13回] 廃棄物とリサイクルをどう考えるか
[第14回] 熱帯雨林の破壊と「開発」と先進国への輸出
[第15回] まとめ /合わせてレポートのの取りまとめについての相談、指導
[第16回] 対面授業ならば、教室でレポート提出 、ICUNIPAでの提出も両立させます

使用テキスト： 参考資料を、紙とICUNIPAで配布します。
必要な本やWebURLは、授業時に紹介します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布された資料に眼を通し、わからないことは自ら進んで調べ、さらに質問することによって、深く理解することが可能です。それは、わたしが授業で話すことは、全体のほんの一部にしか過ぎないからです。

障がいのある履修者への対応： 多様性の一つと考えますので、積極的に対応させていただきます。

授業時間外の連絡手段： ICメール ida_toshiaki@icc.ac.jp へどうぞ

留意事項： 「教室でのZoomオンライン授業」という3年前には考えなかった形を予定しています。
教室とWeb経由では、まったく対等な両立です。IDとPWは後程ICUNIPA掲示します。
コロナの状況と各人の事情に応じて、臨機応変に判断対応してください。

科目コード：10149 **科目ナンバリング：LA10C50K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：資源エネルギーと人間（Energy Resources and Humanity）

担当者：大塚 雅哉

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　　**ＡＬ要素：** 07.発表
11.討議

授業の概要： 気候変動や安全保障に関わるエネルギー問題への取り組みが益々重要になってきています。授業では、人間社会とエネルギーに関するこれまでの歴史を振り返り、現在のエネルギー問題を把握するとともに、主要なエネルギー源である火力、原子力、再生可能エネルギーなどの技術的特徴と課題を解説していきます。その上で、トータルなエネルギーシステムとして求められるエネルギーミックスの在り方について検討を深めます。さらに、エネルギーや環境に関する世の中の最近の動向やデータを読み解き、今後の社会を支える基盤となるエネルギー問題にどう取り組むか、各自の考えをまとめていきます。なお、エネルギー研究の実務経験を生かし、関連した事例を紹介しながら理解を深めていきます。

キーワード： エネルギー、気候変動、火力、原子力、原子力安全、再生可能エネルギー、トータルエネルギーシステム、人間社会

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： エネルギー利用技術のこれまでの歴史と現状を理解するとともに、これを踏まえて、今日的課題を検討、考察し、まとめることができる。

評価方法： レポート提出、発表、討議　　**評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： これからの日本のエネルギーミックスはどうあるべきか、個人として今後のエネルギー問題にどう取り組むかなど、関連する多くの情報を集めて自らの考えを整理してまとめることができる。

評価方法： レポート提出、発表、討議　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席状況、授業中の発言発表討議内容、提出物の内容などをもとに評価する。

評価割合： 20%

▼実践的ボランタリズム

特に評価対象としない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。 但し、レポート提出に際して他人の文章を写すなどの不正が見られた場合には減点対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
第 1回：導入（エネルギーとは、現代的課題）
第 2回：エネルギー利用技術の歴史（概観）
第 3回：エネルギー科学技術の基礎（エネルギーと仕事、エネルギーの変換と有効利用）
第 4回：火力（原理、発電システム、効率向上、環境負荷低減）
第 5回：原子力（原理、発電システム、核燃料サイクル、放射性廃棄物）
第 6回：原子力安全（福島第一原発事故に関連した原子力の安全、リスク）
第 7回：放射線（被ばく、健康管理、防護）
第 8回：原子力の将来技術（革新炉開発の世界動向、放射線利用）
第 9回：再生可能エネルギー・水素（風力・太陽光・水素など、利用拡大に向けた課題）
第10回：トータルエネルギーシステム（電力システムの安定制御、スマートシステム、課題）
第11回：グローバルな動向（地球気候変動問題への対応、世界エネルギー予測）
第12回：日本の将来エネルギーと社会（エネルギー基本計画）

第13回：需要主導型エネルギー転換（エネルギー需要サイドの課題）
第14回：発表、討議（これからのエネルギー問題への取り組みなど）
第15回：人文社会的課題、総括
（多少の変更あり）

使用テキスト： 授業で使用する資料については全て電子ファイルで配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
【 参考文献 】
(1) 松島潤（編著）：エネルギー資源の世界史、一色出版、4400円
(2) 日本原子力学会編：原子力がひらく世紀、1980円
(3) IEA：World Energy Outlook、Web入手可（毎年10月頃最新版発行）
(4) 資源エネルギー庁：第6次エネルギー基本計画、Web入手可
【 予習・復習について 】
授業後に、適宜、短いレポートを提出してもらいます。良く復習し、自ら問題提起してより深く調べ、考察し、理解を深めてまとめておくと良いでしょう。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回にお知らせします。また、学務部窓口にも伝えておきます。

留意事項： ・授業前日までに資料(pdf)をIC-UNIPAの「授業資料」にアップロードします。授業中にプロジェクタ投影もしますが、電子端末を持参して各自参照できるようにしておくと良いでしょう。
・レポートについてはIC-UNIPAの「課題管理」機能を利用して提出物を確認します。

科目コード：10150 **科目ナンバリング：LA10C51K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **災害と人間 a（Disasters and Humanity a）**

担当者： **川又 啓蔵**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：金曜4限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 10. 資料調査課題

授業の概要： 【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型

災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる地球規模の新興感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方を用いて学修します。
なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者［ソフト事業］、地域づくり研究者［地域資源・地域づくり・防災など］、企業経営者）を生かして、次のようなテーマも授業に含みます。
1. 東日本大震災と福島第一原発事故
講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。
2. 災害と情報
科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて積極的に論じます。
3. 環境変化や災害が社会・経済・地域（農業などの地域資源等）に及ぼす影響
環境変化や災害が社会・経済・地域（農業などの地域資源等）に及ぼす影響について、身近な実例（茨城県内の事象等）を通して論じます。
また、地球規模の新興感染症（新型コロナウイルス感染拡大とその影響）についても、災害という観点から論じます。

キーワード： 災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、

地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる地球規模の新興感染症などをはじめとする実例を通して学び、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。

評価方法: 学期末課題　　**評価割合:100%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や、正しい日本語が使われているかなども評価の対象となります。

評価方法: 学期末課題　　**評価割合:0%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。
ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしません。
ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。
ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。
また、不適切な引用(いわゆる「コピペ」)等については、厳しくに対応します(試験における不正行為への対応に準じます)。

評価割合:0%

▼その他

授業への参加(出席)は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。
学期末課題等の評価をもとに、成績評定を行います。

※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。

評価割合: **授業への参加(出席)は、最低限**

授業計画:
【第1回】オリエンテーション・イントロダクションなど
【第2回】災害についての概論(災害とは、歴史・法制度など)
【第3回】東日本大震災−1(概論、全体像など)
【第4回】東日本大震災−2(福島第一原発事故)
【第5回】東日本大震災−3(復旧・復興[震災全体])
【第6回】東日本大震災−4(復旧・復興[原発事故関連])
【第7回】これまでの振り返りとまとめ

【第8回】近年の災害（総論・災害の傾向など）
【第9回】災害級の大規模感染症−1（新型コロナ感染症）
【第10回】災害級の大規模感染症−2（家畜感染症）
【第11回】拡大する二次災害と相当因果関係的被害
※いわゆる「人造災害」（人災とは要区別）を含む。
【第12回】環境変化や災害が社会・経済・地域に及ぼす影響
【第13回】災害と情報
【第14回】リスクマネジメントと戦略的な災害への備えと対応
【第15回】まとめ

※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。

使用テキスト： 必要に応じて、授業中、インターネットで情報を検索してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。

授業時間外の連絡手段： メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。

留意事項： 前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。
また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合もあります。

科目コード：10150 **科目ナンバリング：LA10C51K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **災害と人間 b（Disasters and Humanity b）**

担当者： **川又 啓蔵**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：金曜4限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 10. 資料調査課題

授業の概要： 【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型

災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる地球規模の新興感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方を用いて学修します。
なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者［ソフト事業］、地域づくり研究者［地域資源・地域づくり・防災など］、企業経営者）を生かして、次のようなテーマも授業に含みます。
1. 東日本大震災と福島第一原発事故
講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。
2. 災害と情報
科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて積極的に論じます。
3. 環境変化や災害が社会・経済・地域（農業などの地域資源等）に及ぼす影響
環境変化や災害が社会・経済・地域（農業などの地域資源等）に及ぼす影響について、身近な実例（茨城県内の事象等）を通して論じます。
また、地球規模の新興感染症（新型コロナウイルス感染拡大とその影響）についても、災害という観点から論じます。

キーワード： 災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、

地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる地球規模の新興感染症などをはじめとする実例を通して学び、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。

評価方法: 学期末課題　　**評価割合:100%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や、正しい日本語が使われているかなども評価の対象となります。

評価方法: 学期末課題　　**評価割合:0%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。
ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしません。
ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。
ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。
また、不適切な引用(いわゆる「コピペ」)等については、厳しくに対応します(試験における不正行為への対応に準じます)。

評価割合:0%

▼その他

授業への参加(出席)は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。
学期末課題等の評価をもとに、成績評定を行います。

※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。

評価割合: **授業への参加(出席)は、最低限**

授業計画:
【第1回】オリエンテーション・イントロダクションなど
【第2回】災害についての概論(災害とは、歴史・法制度など)
【第3回】東日本大震災−1(概論、全体像など)
【第4回】東日本大震災−2(福島第一原発事故)
【第5回】東日本大震災−3(復旧・復興[震災全体])
【第6回】東日本大震災−4(復旧・復興[原発事故関連])
【第7回】これまでの振り返りとまとめ

【第8回】近年の災害（総論・災害の傾向など）
【第9回】災害級の大規模感染症−1（新型コロナ感染症）
【第10回】災害級の大規模感染症−2（家畜感染症）
【第11回】拡大する二次災害と相当因果関係的被害
※いわゆる「人造災害」（人災とは要区別）を含む。
【第12回】環境変化や災害が社会・経済・地域に及ぼす影響
【第13回】災害と情報
【第14回】リスクマネジメントと戦略的な災害への備えと対応
【第15回】まとめ

※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。

使用テキスト： 必要に応じて、授業中、インターネットで情報を検索してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。

授業時間外の連絡手段： メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。

留意事項： 前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。
また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合もあります。

科目コード：10152 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **はじめての統計学（Introduction to Statistics）**

担当者： **有澤　正樹**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜5限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 18.その他

授業の概要： 統計学とは、アンケートや観測によって採取された大量のデータの中に存在する法則性を扱う科学的分析方法であり、自然科学、社会科学、人文科学等の分野で広く利用されている。例えば教育の分野においては、大勢の学生、生徒、児童に関するデータ（試験の点数かも知れないし、身長や体重などの健康に関するデータ、児童の心理を調べるための調査データかも知れない）を客観的（科学的）に扱っていく上で、統計学は必要不可欠である。
また経営の分野においては、データの分析に多変量解析（複数のデータを統計的に分析し、その関係性を明らかにする方法）がよく用いられるが、多変量解析を理解するためには、統計学の基礎を十分に理解していなければならない。
さらに介護福祉や栄養管理の現場においても、日々の変化や成果を客観的に評価し、報告することは大切な仕事のひとつであり、客観的な評価のために統計処理は必要不可欠といえるだろう。
このように、どのような領域においても、データを客観的・科学的に分析・評価するためには、統計学が必要不可欠といえるのである。そこでここでは、どのような領域においても共通する統計学の基礎について、演習（教科書の例題と同様の簡単な課題）を取り入れながら解説する。

キーワード： 統計学、分布の特性値（平均、分散、標準偏差…）、確率、分布（二項分布、正規分布、t 分布、$\chi 2$ 分布）、母数の推定、仮説検定

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 統計学の分析概念を理解し、基本的な統計処理を行うことができる。

評価方法: 課題、定期試験　　**評価割合:** 86%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」と合わせて評価する。

評価方法: 課題、定期試験　　**評価割合:** 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

章末毎に実施する簡単な課題に積極的に取り組み、遅滞なく課題を提出する。(課題がすべて提出されていれば、最低でも 14 点が成績に加算される。)

評価割合: 14%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:
【第01回】統計学はどのような学問か
【第02回】標本分布の特性値 1(標本抽出、度数分布表、ヒストグラム)、課題 1
【第03回】標本分布の特性値 2(平均、分散、標準偏差など)、課題 2
【第04回】確率と確率分布(二項分布、ポアソン分布)
【第05回】復習および課題 3
【第06回】一様分布と正規分布
【第07回】復習および課題 4
【第08回】標本平均の分布と母平均の推定
【第09回】復習および課題 5
【第10回】t 分布と母平均の推定
【第11回】復習および課題 6
【第12回】$\chi 2$ 分布と母標準偏差の推定
【第13回】復習および課題 7
【第14回】仮説検定
【第15回】復習および課題 8
定期試験

使用テキスト: 鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社、1994年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 章末に実施する課題が復習のポイントとなっているので、採点返却時の解説と、返却後研究室前に常時掲示する模範解答により理解を深めること。
なお、上記の「課題、定期試験の評価割合86%+学修の主体的に取り組む態度14%」の内訳は(1)課題50%＋定期試験50%による総合評価と(2)定期試験100%のみによる評価を行い、評価の高い方を最終評価とするので、定期試験に不安を覚える方は課題をしっかり抑えておくことが、また、課題が思わしくなかった方は定期試験で挽回することが重要である。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: 出席は Teams 内の出席確認フォーム(Forms)から入力していただくため、Teams にアクセス可能なデ

バイス(スマートフォン等)を携帯すること。また、課題は Teams 上で PDF 形式で掲出され、課題 PDF への直接書き込み(タブレット＋スタイラスペン)、または PDF を印刷して直接鉛筆等で記入の後、スマホ等で撮影して作成した画像または PDF を Teams 課題に添付・提出となる(難しい作業ではない)。基本的に課題は授業時間外での作業が中心となるため、スマホ以外のタブレットや PC 等のデバイスは必携ではない。
数学が不得意な者は、四則演算、分数 など、受講までに各自で簡単な復習を行っておくこと。平方根(ルート)計算ができる電卓を持参すること。ただし、定期テストではスマホの電卓アプリは利用できない(スマホ持ち込み禁止)ので、物理的な電卓を用意すること。
数学が苦手であっても理解できるように、できるだけ丁寧にわかりやすく解説する。
なお、**定期試験は教科書・ノート・課題プリント・電卓の持ち込みが可能である。**

科目コード:10153　**科目ナンバリング:**　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 宇宙のはなし a(About the Universe a)

担当者: 神谷 宏治、池田 博、夏目 恭平

基本情報

年次:1　**単位数:2**　**授業形式:講義**

曜時:月曜2限　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格:　**AL要素:** 17.発問と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)
宇宙について人類が研究してきた歴史的な流れを習得する。
ニュース等で報じられる地球環境やエネルギー問題を理解する。
南極や北極における人類の活動や低温・超伝導という最新の科学現象について理解を深める。

キーワード: 天文学、宇宙開発、地球温暖化、エネルギー、南極北極、超伝導重力計

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で取り上げた重要キーワードを暗記し80%解答できる。

評価方法: 講義ごとの小テスト。
学期末筆記試験。
評価割合: 80～90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 宇宙、環境、エネルギー問題に対して自分の専門性を活かした提案ができる。

評価方法: 学期末筆記試験。
評価割合: 10～20%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的学習により成果が認められた場合は、上記「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

以下の対象者は減点対象とする。
1. 遅刻者　2回で1回欠席とする。
2. 早退者　2回で1回欠席とする。
3. 授業中の私語
4. 人権侵害、差別的発言をした者

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　人類と宇宙の歴史（神谷）
第2回　人類の宇宙進出までの道のり（神谷）
第3回　太陽系の探査とボイジャー計画（神谷）
第4回　銀河系、星雲、地球外生命（神谷）
第5回　宇宙の誕生、インフレーション、ビックバン（神谷）
第6回　宇宙開発の現在（夏目）
第7回　これからの宇宙開発（夏目）
第8回　地球温暖化とは−世界の取り組み−（夏目）
第9回　夢の核融合エネルギー（夏目）
第10回　再生可能エネルギーとその課題（夏目）
第11回　低温ふしぎ現象（池田）
第12回　南極観測（池田）
第13回　北極観測（池田）
第14回　超伝導現象（池田）
第15回　超伝導重力計（池田）
定期試験（池田）

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業計画にある各回のテーマについて関心を持っておくこと。
宇宙、エネルギー問題、地球環境に関するニュースを意識しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段： 学務部等に連絡。

留意事項： 履修人員100人。
超過した場合は上級生優先、場合によっては抽選を行う。
抽選は初回授業で実施。
初回授業に来ていない場合は履修を認めない。
初回授業に公欠事由のあるものは事前に連絡必要。

科目コード：10154　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：本を読む（自然）（Reading Appreciation (Nature)）

担当者：助川　宏子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：

ＡＬ要素： 受講生の個人的な興味を大切にするとともに、適切な読書指導により更なる探究心に繋げたい。授業毎に、簡単なレポートを提出させる。

授業の概要： 自然系の学科の学生はもちろん、人文、社会系学科の学生も念頭に置いた教養講座（自然科学）です。自然科学の領域で、素人でも読め、しかも面白い（これが大切）本を読んでみたいと思う人のための授業です。素人のわがままで、数式や化学式は苦手だが、「宇宙の境涯（はて）はあるのか？」とか「ピラミッドは何のために作られたのか？」とか、「人と犬の対話はどこまで可能か？」といったような高度（素朴？）な疑問に答えてくれたら嬉しい、そう思っている人は少なくないでしょう。そうした人のために、専門家が素人向けに書いてくれる「科学読み物」というジャンルがありますので、これを紹介することにします。

また、書籍中の内容についての理解につながるよう、自然科学の基礎的な内容の解説も行います。
この授業は演習の形式をとりますので、受講する場合、誰にも最低2回は報告発表の機会をもってもらいます。自分の興味にしたがって読みたい本を選び、その本について報告してください。報告を聞く側はその報告についてメモをとり、質問をし、授業中に簡単なレポートにして、教員に提出してもらいます。

キーワード： 自然　科学　科学読み物　宇宙　生物　人体　読書の楽しみ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自然科学の専門書ではなく、「科学読み物」のレベルで、面白い本、知的好奇心を刺激してくれる本を探し、読み、世界の広さ、知ることの楽しさを味わってもらう。そんな授業を目指します。
また、基本的な自然科学のお話も交て講義も行います。

評価方法： 学生の報告を重視します。読んだ本の面白みをどれだけ仲間に伝えられるか、が大切な点です。報告を聞く側はその報告についてメモを取り、質問をし、簡単なレポートにまとめて提出してもらいます。

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 科学読み物のジャンルで名著とされる本を紹介しますので、実際に読んでみて得た実感を報告するもよし、これまで読んで影響を受けた自分にとって価値ある本を紹介するもよし、学生一人一人の主体性を大事にします。
自分の実体験と自然科学をむずびつけた発表でも結構です。

評価方法： 上掲のとおり。

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

演習なので、報告の際は当然として、報告を聞く機会にも積極的に参加することが大切です。受講生全員が授業毎に報告者の報告をメモし、質問をし、授業終了時にレポートとして提出してもらいます。
とにかく、仲間の報告を集中して受けとめ、できれば知的好奇心を触発される経験をしてほしい。

評価割合： 20%

▼実践的ボランタリズム

特になし。

評価割合： 0%

▼公正性

特になし。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回　顔合わせと演習の進め方について説明　興味のある書籍について紹介してください。
第2回　テキストその1.「これだけは読んでおきたい科学の10冊」紹介
第3回　報告の順番を決め、報告する書籍の確認と報告の方法についての説明。
第4回～14回　指定された報告者の報告と質疑応答

第15回　まとめ

なお、例年、受講生の数にバラつきがあります。報告の時間は短くて15分、長くて30分ぐらいを想定して下さい。

使用テキスト： 岩波ジュニア新書「これだけは読んでおきたい10冊の本」池内　了　著
現在、絶版の可能性がありますので、アマゾンで中古本を探すとよいでしょう。入手できない場合、教師が対応します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
初級　岩波ジュニア新書（自然系）のリストから選ぶ。
中級　インターネットで[科学読み物」と検索してください。
上級　古典の名著リストを演習初日に配付します。

障がいのある履修者への対応： 学務部の担当者と連絡をとりながら対応します。

授業時間外の連絡手段： 授業のある日のみ出講しています。連絡は、IC-mailを基本とし、それでも連絡がつかない場合は、学務部の担当者に相談して下さい。

留意事項： 特になりません。

科目コード：12042　**科目ナンバリング：EN20C20K**　**主な使用言語：英語**

授業名（英文）： **エアライン英語（English in Airline Business）**

担当者： **沼館　ジェニー**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：金曜2限　**履修可能学科・専攻：** E

関連資格：

AL要素： 4：課題解消
8：協同学習
11：討論
13：役割演技と擬似体験
17：発問と回答

授業の概要：

この授業では、航空業界や機内サービスに関する英語を中心に学びます。教科書を使用し、グループワーク、クイズ、ロールプレイを行います。この授業を修了すると、エアライン英語とサービス産業に関する知識を深め、エアラインやカスタマーサービス関連の仕事に応用できるようになります。

This class will focus on learning English related to the airline industry and service inside the airplane. Students will study from a textbook, do group work, quizzes, and perform role-plays. Upon completion of this course, the students will have greater knowledge of Airline English, the service industry and will be able to apply this knowledge for an airline or customer service-related career.

キーワード： Airline, English, Hospitality, Cabin Attendant, Service

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： この授業で学んだことを使って、エアラインに関する語彙力が高まる。Students will learn vocabulary related to the airline industry.

評価方法： クイズ　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業に積極的に参加し、クラスメートの前でロールプレイシナリオを行うよう求められます。エアラインサービス業界で成功するために必要な英語とテクニックを学びます。

Students will participate actively in class and be asked to perform role-play scenarios in front of classmates. Students will learn the English and techniques needed to succeed in the Airline Service Industry.

評価方法： ロールプレイング（2回）
宿題

評価割合：70%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業に積極的に参加、英語で発言、宿題を取り組む、グループワークに参加する。英語でのコミュニケーションを図りながら、課題を解決してゆく思考力・判断力・表現力を評価に直接含まないが上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象となることがある。Every class, students are expected to participate, speak English, do homework, and work in groups. Using English, they will learn how to come up with ideas, judge those ideas and express themselves.

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

先生と積極的に授業に参加することによって、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象となることがある。Interaction with teachers in class will have a positive effect on the grades included in the ″Ability to think, judge and express″ section.

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。但し、授業中の発言や筆記試験の記述等において人種侵害・差別的など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。This will not be directly added to the grade. However, discriminatory comments or expressions, or acts of plagiarism or cheating will result in warnings and reduction in grades.

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

Week 1 ? Course Introduction
Week 2 ? Unit 1 “Airline Flight”
Week 3 ? Unit 2 “Aircraft”
Week 4 ? Unit 3 “Aircraft Crew”
Week 5 ? Unit 4 “Pre-flight Boarding”
Week 6 ? Unit 5 “Boarding”
Week 7 ? Review / Preparation for Role-play 1
Week 8 ? Role-play 1
Week 9 ? Unit 6 “Take-off”
Week 10 ? Unit 7 “Food& Drinks”
Week 11 ? Unit 8 “In-flight Problems”
Week 12 ? Unit 9 “Emergencies”
Week 13 ? Unit 10 “Landing”
Week 14 ? Review / Preparation for Role-play 2
Week 15 ? Role-play 2

使用テキスト：

タイトル：Communicate in the Cabin 1
著者：Simon Cookson
ISBN: 9798454903671

各自でAmazonで購入してください。第2週から使いますので早めに購入することを薦めします。Kindleバージョンでも紙の本でも構いません。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

毎週の授業の前に教科書を予習する。クイズやテストの前にも復習が欠かせない。Prior to every class, students should review the textbook material and do homework. Reviewing before quizzes is essential.

障がいのある履修者への対応： 可能な限る対応しますので、まずは学務部等に連絡ください。
Any help necessary will be provided. Please talk to the Academic Affairs office.

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回におしらせします。
大学のメールシステムでも連絡ができます。
The teacher will be available during office hours as explained in the first class. The teacher can also be reached through the university email system.

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

Students should bring their own devices to do research on the internet.
インターネットでリサーチができるようタブレット、パソコン、スマートフォンを持参する。

This class will use moodle for quizzes and homework
この授業ではmoodleでクイズや宿題を出してもらいます。

履修人数や状況によってシラバスは変更する可能性がある。

科目コード：12047　**科目ナンバリング：EN20C05K**　**主な使用言語：英語、日本語**

授業名（英文）： **異文化間コミュニケーション（Intercultural Communication）**

担当者： **Dzyabko, Yuliya**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 日本語

AL要素： AL要素
08. 協同学修
11. 討論
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要： この授業では、異文化間コミュニケーションの基礎となる言語と文化の関係、異文化接触、カルチャーショック、文化の価値観、ステレオタイプなどについて学びます。そして、日本人と英語話者のコミュニケーションの特徴をはじめ、文化の異なる人たち同士の間でミスコミュニケーションが起きないように、コミュニケーションをどのように図れば良いのかを考えながら、実践的な異文化間コミュニケーション能力を高めることを目指します。

キーワード： 異文化間コミュニケーション、異文化理解、多文化、ダイバーシティ、文化価値観、ステレオタイプ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1）異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。
2）文化的多様性のメカニズムを明らかにすること。
3）日本の文化の多様性に気づき、異文化理解を深めることができる。

評価方法： 授業への参加度、ディスカッション、グループワーク、中間試験、期末試験　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： それぞれの文化の違いを尊重しながら、コミュニケーションを図ることができる。

評価方法：「知識・技能」とあわせて評価する　**評価割合：0%**

▼学修に主体的に取り組む態度

業への取り組み姿勢、授業への貢献度（発言、質問）を評価対象とする。

評価割合：40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回. ガイダンス。
第2回. Communication
第3回. Culture
第4回. Nonverbal Communication
第5回. Communicating Clearly
第6回. Culture and Values
第7回. Culture and Perception
第8回. 中間とりまとめ
第9回. Diversity
第10回. Stereotypes
第11回. Culture Shock
第12回. Culture and Change
第13回. Talking about Japan
第14回. Becoming a Global Person
第15回. 総まとめ
定期試験

使用テキスト： Peter Vincent (2017). Speaking of Intercultural Communication.南雲堂（2,090円）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 教科書と配布資料の読解と課題への取り組みが求められます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項：
1）この授業は英語と日本語の両方で行われます。
2）授業には必ず、教科書と辞書（電子辞書可）を持参してください。
3）授業中のアクティビティやディスカッションへの積極的な参加を求めます。
4）履修希望者多数の場合は、人数を調整する可能性があります。

科目コード：12049　**科目ナンバリング：EN20C34E**　**主な使用言語：日本語|英語**

授業名（英文）： **通訳入門（Introduction to Interpretation）**

担当者： **舘野 真**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜 時：月曜4限　　**履修可能学科・専攻**： Ｅ Pe Pc Ｃ Ｗ Ｆ Ｎ Ｍ

関 連 資 格：日本語　　**ＡＬ 要 素**：07.発表
08.共同学修
13.役割演技と模擬体験

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業（同時双方向型）

日本に住む外国人の数が増え、英語で通訳をする機会も多くなってきました。本講義は、通訳を理論的に学びつつ、通訳の準備、訓練、練習を行います。通訳に関連する一連の作業を通して、総合的な英語力の向上を図ることも目的とします。

毎週の授業は基本的に、前半で（1）教科書に沿って通訳訓練方法を実践し、後半で（2）時事を取り扱ったテーマについて通訳の準備と練習を行います。一つの出来事や対象に対して日英両言語で同時に取り組む一連の作業を通して、英語と日本語双方向の「正確な理解」と「分かり易い表現」が出来るようになることを目指します。

キーワード：逐次通訳、 クイックレスポンス、シャドーイング、リテンション、イメージ、サイト・トランスレーション（サイトラ）、ノートテーキング

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標：通訳の準備、発話の仕方などを理解し、英文を一行ごとに逐次で通訳できるようにする。

評価方法：課題
小テスト
定期試験

評 価 割 合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業中で解説を受けた部分を基礎として、聞き手に分かりやすい訳出を考え出すことができる。

評価方法：課題
質問と応答
通訳演習

評 価 割 合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。但し、自主的な学修によって得た知見や訳出などが通訳復習発表時のパフォーマンスで見られた場合、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがあります。

評 価 割 合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしません。

評 価 割 合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしません。但し授業中の発言やテストなどにおいて著しく公正性を欠く言動やカンニングなどの不正行為があった場合は、厳重注意や減点の対象となります。

評 価 割 合：0%

▼そ の 他

特にありません。

評 価 割 合：特にありません。

授 業 計 画：第01回　オリエンテーション
第02回　通訳訓練方法紹介と練習

第03回　英語リプロ（1）、時事テーマ（A）原稿の翻訳
第04回　英語リプロ（2）、時事テーマ（A）内容の理解

第05回　英語リプロ(3)、時事テーマ(A)イメージから表現へ
第06回　英語リプロ(4)、時事テーマ(A)訓練
第07回　英語リプロ(5)、時事テーマ(A)逐次通訳演習

第08回　英語リプロ(6)、時事テーマ(B)原稿の翻訳
第09回　英語リプロ(7)、時事テーマ(B)内容の理解
第10回　英語リプロ(8)、時事テーマ(B)イメージから表現へ
第11回　英語リプロ(9)、時事テーマ(B)訓練
第12回　英語リプロ(10)、時事テーマ(B)逐次通訳演習

第13回　時事テーマ(C)逐次通訳の準備と演習
第14回　時事テーマ(C)逐次通訳の準備と演習
第15回　まとめ・総括

定期試験

※「英語リプロ」:教科書を使用した、英語リプロダクション・トレーニングのこと
※上記授業計画は、授業の進行状況に応じて変更されることがあります。

使用テキスト: 小倉慶郎『増補版　英語リプロダクション　トレーニング　入門編』(2022年)
ISBN　978-4-88724-666-9

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【予習】授業前に、該当する教科書のLesson、および、課題で取り扱った語彙や慣用句をよく覚えておきましょう。基本、毎回の授業中に小テストを行います。

【復習】基本的に毎週MOODLE上に課題が出題されますので、真摯に取り組み、期限までに提出してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後等に対応。LINE、および、メール。

留意事項: 学習効果の維持のため、履修者の人数が制限される場合があります。履修希望者の数が制限人数を上回った場合は、基本的に4年次の学生を優先して受け入れ、2～3年次の学生は抽選となりますのでご了承ください。

科目コード:12072　**科目ナンバリング:EN10C05K**　**主な使用言語:英語を素材にして**

授業名(英文): **言語習得論(Studies in Language Acquisition)**

担当者: **Le Pavoux, Mari**

基本情報

年次:カリキュラム　**単位数:2**　**授業形式:講義**

曜時:月曜3限　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職　小学英語　日本語　**AL要素:** 17発問と回答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】課題研究型。UC-UNIPAに資料・課題をアップします。

第1言語習得、第2言語習得、外国語習得における文法、語彙、音声の習得、および年齢・認知スタイル・学習のストラテジー・動機付けなどの学習者要因を取り上げ、解説する。

キーワード: 第2言語習得、文法の習得、語彙の習得、音声の習得、動機付け

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英語教育の分野の中で、「ことばの習得」に関わりのある諸問題と、それらを研究するための基

礎となる理論を理解できる。

評価方法: 学期末筆記試験　　**評価割合:** 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 直接的な評価対象とはしない。

評価方法: なし　　**評価割合:** 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

該当しない

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

この授業は、主に日本語で講義を行います。具体例などの素材は、英語です。

評価割合:この授業は、主に日本語で講義を

授業計画:
第1回:この授業の扱う範囲と、15回分の講義についての概説
第2回:言語の定義の歴史的変遷・人間の進化という視点から見た言語の役割
第3回:構造主義とは・生得主義とは・認知主義とは
第4回:行動主義心理学から認知心理学(有意味学習・認知ストラテジーなど)までの研究の流れ
第5回:学習に関する心理学の変遷に伴う日本における指導法の変化
第6回:母語習得と外国語習得および第二言語習得の類似点と相違点
第7回: 形態素の習得順序と言語発達
第8回:否定形の習得順序と言語発達
第9回:関係節の習得と、関係節化の可能性の階層・言語の有標/無標
第10回: 中間言語という考え方と、文法の指導、文法の意識化
第11回:音韻の習得その1(閉鎖音の声出しの時間の習得)
第12回:音韻の習得その2(子音連結時の語中音添加などのL2学習者の中間言語的発音の特徴)
第13回:語彙の習得(母語話者、L2学習者の持つ語彙数と語彙のタイプ・心的辞書)
第14回:語彙の習得その2 (語彙指導のあり方と記憶)
第15回:学習者要因(動機付け・年齢・認知スタイル)
定期試験

使用テキスト: 授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業で扱った項目について、各自参考書などで理解を深めるようにしましょう。
参考書:Rod Ellis著「Second Language Acquisition」(Oxford University Press)

障がいのある履修者への対応: まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: なし

科目コード:12078　**科目ナンバリング:EN20C39K**　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 英語文学概論A(Introduction to English Language Literature A)

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年 次 :2　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 木曜5限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職　　**AL要素 :** 発表　討論

授業の概要 : イギリス文学を文化的事象のひとつとして，イギリスの歴史・社会・文化との関連から通時的・共時的に捉え，その豊饒な文学的世界について理解を深めることを目標にします．各時代を代表する作家の作品を原文（抜粋）で読んで，その実際を確かめながら授業を進めます．

キーワード : イギリス文学，ルネサンス，古典主義，ロマン主義，モダニズム，文化史，観念史

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 古代から現代までのイギリス文学の主要作品について，その内容と文学的価値を時代の文化的影響（関係性）のなかで理解し，それを敷衍して説明できる．

評価方法 : 学期末筆記試験　　**評価割合 : 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 指定された文学テキストについて，授業で身につけた知識を最大限に活かしながら分析し，その内容を適切な文章で表現できる．

評価方法 : 学期末筆記試験　　**評価割合 : 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが，発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には，「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする．

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象とはしない．

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが，授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には，減点や厳重注意の対象とする．

評価割合 : 0%

▼その他

とくになし．

評価割合 : とくになし.

授業計画 :

第1回「古英語・中英語の文学（15世紀まで）」
［古英語，中英語，『ベオウルフ』，古英詩］
第2回「古英語・中英語の文学（15世紀まで）」
［ジェフリー・チョーサー『カンタベリー物語』，ウィリアム・ラングランド］
第2回「ルネサンスの文学（15世紀-16世紀）」
［トマス・モア，フィリップ・シドニー，エドマンド・スペンサー］
第3回「演劇の時代（16世紀後半）」
［トマス・キッド，クリストファー・マーロウ］
第4回「ウィリアム・シェイクスピアの時代（1564-1616）」
［ウィリアム・シェイクスピア］
第5回「清教徒革命と共和制（17世紀前半）」
［フランシス・ベーコン，ベン・ジョンソン，形而上派詩人，王党派詩人］

第6回「王政回復期の文学（17世紀後半）」
［ジョン・ミルトン，ジョン・バニヤン，ジョン・ドライデン］
第7回「18世紀の散文，詩，演劇」
［ジョナサン・スウィフト，アレキサンダー・ポープ，サミュエル・ジョンソン］
第8回「小説の誕生と成長（18世紀）」
［ダニエル・デフォー，サミュエル・リチャードソン，ローレンス・スターン，ジェイン・オースティン］
第9回「ロマン主義時代の光と影（19世紀前半）」
［ウィリアム・ブレイク，ウィリアム・ワーズワス，S・T・コールリッジ，P・B・シェリー，ジョン・キーツ］
第10回「ヴィクトリア朝の散文と詩（19世紀後半）」
［アルフレッド・テニソン，ロバート・ブラウニング，ジョン・ラスキン，ウォルター・ペイター］
第11回「ヴィクトリア朝の小説（19世紀後半）」
［チャールズ・ディケンズ，シャーロット・ブロンテ，エミリー・ブロンテ，オスカー・ワイルド，トマス・ハーディ］
第12回「20世紀の詩と演劇（20世紀前半）」
［G・M・ホプキンズ，W・B・イエイツ，T・S・エリオット，W・H・オーデン］
第13回「20世紀の小説（20世紀前半）」
［ジョセフ・コンラッド，ヴァージニア・ウルフ，ジェイムズ・ジョイス，E・M・フォスター，D・H・ロレンス］
第14回「戦後の文学（20世紀後半）」
［ディラン・トマス，ジョージ・オーウェル，サミュエル・ベケット］
第15回「新世紀の文学」
［カズオ・イシグロ，イアン・マキューアン］

使用テキスト： とくにテキストは指定せず，授業資料はすべて担当者が準備．

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習では，シラバスを参照して，授業で取り上げる作家や時代について概要をつかむ．復習では，資料をもとに授業内容を整理するとともに，興味をもった作家を中心にその作品にふれてみる（はじめは日本語訳，次にできれば原文で）．参考書として，まずは次のものを―イギリス文学初心者には読みやすい，ジョン・サザーランド著（河合祥一郎訳）『若い読者のための文学史』（すばる舎，2020年）．イギリス文学史のかくれた名著，齋藤美洲編著『イギリス文学史序説』（中教出版，1978年）．小説家の書いた文学的香りがして写真も豊富な，マーガレット・ドラブル著（奥原宇・丹羽隆子訳）『風景のイギリス文学』（研究社，1993年）．内容が詳細かつ包括的で図版も多く盛り込んだ，パット・ロジャーズ編（櫻庭信之監訳）『図説イギリス文学史』（大修館書店，1990年）．その他の参考文献については，授業中に適宜紹介．

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので，まず学務部に連絡してください．

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが，必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます．

留意事項： この授業は基本的に日本語で行いますが，一部英語も使います．

科目コード：12079　**科目ナンバリング：EN20C42K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **児童文学（英語圏）（Children's Literature (English-language Countries)）**

担当者： **菅野 弘久**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：木曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　**AL要素：** 輪読活動

授業の概要： 英語圏における児童文学の展開を具体的な作品を読みながら確認します．語学的に正しく

作品を読むこと，次に想像力をふくらませながら作品を読むこと，とくにこの2点を意識して読んでいきます．原文で作品を読める語学力を養うとともに，英語圏の児童文学の背景にある歴史や文化についても学んでいきます．

キーワード： イギリス文学，児童文学，文化史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 英語圏の児童文学を読んで味わえるための英語力を身につける．児童文学の文化的背景について理解し，それを敷衍して説明できる．

評価方法： 学期末筆記試験　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 文学作品を読んで，その主題を文化的・歴史的背景に照らして分析し，その内容を適切な文章で表現できる．

評価方法： 学期末筆記試験　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが，発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には，「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする．

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象とはしない．

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが，授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には，減点や厳重注意の対象とする．

評価割合：0%

▼その他

とくになし．

評価割合：とくになし．

授業計画：

第1回：児童文学とは何か
第2回：『マザーグース』
第3回：『三匹のこぶたのお話』
第4回：『ピーターラビットのおはなし』
第5回：『クマのプーさん』
第6回：『ホビットの冒険』
第7回：『不思議の国のアリス』
第8回：『秘密の花園』
第9回：『トムは真夜中の庭で』
第10回：『ピーター・パン』
第11回：『くまのパディントン』
第12回：『床下の小人たち』
第13回：『ホビットの冒険』
第14回：『ライオンと魔女』
第15回：全体のまとめ

使用テキスト： とくにテキストは指定せず，授業資料はすべて担当者が準備．

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習では授業で読むテキストの当該箇所を，辞書を使って語学的に不明な点をなくしておくこと．復習では解説した語彙・表現を整理して使えるようにすること．またできるだけ児童文学作品を読む機会（日本語訳で可）を増やすこと．参考書として，瀬田貞二・猪熊葉子・神宮輝

夫『英米児童文学史』(研究社, 1971), 谷本誠剛『児童文学入門』(研究社, 1995), 日本イギリス児童文学会編『英米児童文学ガイド』(研究社, 2001). その他の参考文献については, 授業中に適宜紹介.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まず学務部に連絡してください.

授業時間外の連絡手段: 随時IC-Mailにより対応しますが, 必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます.

留意事項: この授業は基本的に日本語で行いますが, 一部英語も使います.

科目コード:12111 **科目ナンバリング:EN10C06E** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **翻訳入門(Introduction to Translation)**

担当者: **菅野 弘久**

基本情報

年次:カリキュラム **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:月曜5限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 討論 レポート指導

授業の概要: 日本の近代化を進める上で大きく影響した翻訳について, 背景にある翻訳論と実際に翻訳されたものをもとに考えます.

キーワード: 翻訳, 翻訳論, 異文化コミュニケーション, 近代化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 明治時代からの主要な翻訳論について, その内容を時代の文化的影響(関係性)のなかで理解し, それを敷衍して説明できる.

評価方法: 学期末レポート **評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: それぞれの翻訳論の相違点と共通点を理解した上で, それらを現在の文化的状況から評価し, その内容を適切な文章で表現できる.

評価方法: 学期末レポート **評価割合:50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが, 発展的学修によって得られた知見が学期末レポートの記述内容から認められる場合には,「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする.

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象とはしない.

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが, 授業中の発言や学期末レポートの記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には, 減点や厳重注意の対象とする.

評価割合:0%

▼その他

とくになし.

評価割合:とくになし.

授業計画: 第1回:翻訳の理論

第2回:文化と翻訳
第3回:文明開化と翻訳
第4回:明治・大正の翻訳論
第5回:近代科学と翻訳
第6回:聖書・讃美歌の翻訳
第7回:詩歌の翻訳
第8回:小学唱歌と翻訳
第9回:翻訳と翻案
第10回:シェイクスピアの翻訳(1)(明治・大正)
第11回:シェイクスピアの翻訳(2)(昭和・平成)
第12回:児童文学と翻訳
第13回:昭和・平成の翻訳論
第14回:職業としての翻訳
第15回:翻訳文化

使用テキスト: とくにテキストは指定せず, 授業資料はすべて担当者が準備.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習ではシラバスを参照して, 授業で取り上げる翻訳論について概要をつかむ. 復習では, 言及されている作品・事項について確認し, 原典への理解を深める. 参考書として, 柳父章『翻訳とはなにか―日本語と翻訳文化』(法政大学出版, 1976年), 亀井俊介編『近代日本の翻訳文化』(中央公論社, 1994年), 柳父章『近代日本語の思想―翻訳文体成立事情』(法政大学出版局, 2017年).

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まず学務部に連絡してください.

授業時間外の連絡手段: 随時IC-Mailにより対応しますが, 必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます.

留意事項: この授業は基本的に日本語で行いますが, 一部英語も使います.

科目コード:12115 **科目ナンバリング:EN20C41E** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 英語文学講読(Readings in English Language Literature)

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次:カリキュラム **単位数:2** **授業形式:演習**

曜時:月曜5限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 **AL要素:** 輪読活動

授業の概要: 20世紀イギリス文学を代表する作家の短編作品を精読します. 語学的に正しく作品を読むこと, 次に想像力をふくらませながら作品を読むこと, とくにこの2点を意識して読んでいきます. 原文で作品を読める英語力を養うとともに, 物語の背景にあるイギリスの歴史や文化について学んでいきます.

キーワード: イギリス文学, 20世紀, 短編小説, モダニズム, 文化史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 20世紀イギリス文学の短編小説を読んで味わえるための英語力を身につける. 20世紀イギリス文学・文化の基本的な背景について理解し, それを敷衍して説明できる.

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 文学作品を読んで, その主題を文化的・歴史的背景に照らして分析し, その内容を適切な文

章で表現できる.

評価方法:学期末筆記試験　　**評価割合**:50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが，発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には，「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする.

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象とはしない.

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが，授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には，減点や厳重注意の対象とする.

評価割合:0%

▼その他

とくになし.

評価割合:とくになし.

授業計画:
第1回:20世紀イギリス小説について
第2回:Kazuo Ishiguro, “A Family Supper” (1)
第3回:Kazuo Ishiguro, “A Family Supper” (2)
第4回:Kazuo Ishiguro, “A Family Supper” (3)
第5回:Muriel Spark, “The House of the Famous Poet” (1)
第6回:Muriel Spark, “The House of the Famous Poet” (2)
第7回:Muriel Spark, “The House of the Famous Poet” (3)
第8回:Graham Greene, “The Invisible Japanese Gentleman”
第9回:David Lodge, “Hotel des Boobs” (1)
第10回:David Lodge, “Hotel des Boobs” (2)
第11回:David Lodge, “Hotel des Boobs” (3)
第12回:Julian Barnes, “One of Kind” (1)
第13回:Julian Barnes, “One of Kind” (2)
第14回:Julian Barnes, “One of Kind” (3)
第15回:全体のまとめ

使用テキスト: Malcolm Bradbury, ed., The Penguin Book of Modern British Short Stories (Penguin Books, 1987).
使用する箇所については担当者が準備.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習では授業で読むテキストの当該箇所を，辞書を使って語学的に不明な点をなくしておくこと. 復習では解説した語彙・表現を整理して使えるようにすること. またできるだけイギリスの小説を読む機会(日本語訳で可)を増やすこと. 参考書として，イギリス文学初心者には読みやすい，ジョン・サザーランド著(河合祥一郎訳)『若い読者のための文学史』(すばる舎，2020年). その他の参考文献については，授業中に適宜紹介.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので，まず学務部に連絡してください.

授業時間外の連絡手段: 随時IC-Mailにより対応しますが，必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます.

留意事項: この授業は基本的に日本語で行いますが，一部英語も使います.

科目コード:12131　　**科目ナンバリング**:EN20C37K　　**主な使用言語**:講義は日本語を中

授業名(英文): 英語学概論A(Introduction to English Studies A)

担当者: 高橋　教雄

基本情報

年 次 :2　　**単位数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 木曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職　　**AL 要 素 :** 資料調査課題

授業の概要 : 外国語(英語)学習、とりわけ<コミュニケーション能力>を身に付けるためには、音声学習がその基礎として重要な意味を持つ。また、言語の歴史的変遷において、音声がどのように変化してきたのかを理解することは、人間と言語とのかかわりの中で捉えることによってより深く理解できる。

本授業では、日本語(母語)と比較し、また歴史的変遷を扱いながら、現代英語の音声上の特徴を理解できるようになることを目指す。

キーワード : 外国語学習、国際共通語、音韻構造、コミュニケーション能力

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標 : (1)言語学習(外国語学習)における音声学習がもつ意味・重要性を理解できるようになる。
(2)国際共通語として多様な分野で使用される現代英語の音声の特徴について、その実態を日本語との比較において理解できるようになる。
(3)現代英語の音韻構造について理解できるようになる。
(4)現代英語の音声、音韻構造の背景となる歴史上の変遷を理解できるようになる。
(5)英語の音声と綴り字の関係およびその背景となる歴史的変遷について理解できるようになる。
(6)英語の様々な方言に対応することができるようになる。

評価方法 : (1)授業時に提示される課題と、定期試験の結果を合わせて評価します。　**評価割合 : 100%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : (1)国際共通語として多様な分野で使用される現代英語の音声の特徴について説明することができるようになる。
(2)現代英語の音韻構造について説明することができるようになる。
(3)現代英語の音声、音韻構造の背景となる歴史上の変遷について説明することができるようになる。
(4)英語の音声と綴り字の関係およびその背景となる歴史的変遷について説明することができるようになる。

評価方法 : 上記「知識・技能」参照　**評価割合 : (100%)**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、授業内容を十分理解できるように、各自整理しておくことが望まれる。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 : 第01回　言語(英語および母語としての日本語)における音声の重要性
第02回　言語音の(一般的)分類およびその基準

第03回　英語のリズムと日本語のリズム、およびその背景となる歴史的変遷
第04回　現代英語における強母音と弱母音、およびその背景となる歴史的変遷
第05回　英語の母音(1):前舌母音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
第06回　英語の母音(2):後舌母音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
第07回　英語の母音(3):中舌母音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
第08回　英語の子音(1):閉鎖音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
第09回　英語の子音(2):摩擦音、破擦音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
第10回　英語の子音(3):鼻音、側音とその綴り字、およびその背景となる歴史的変遷
第11回　子音結合
第12回　音声環境と単音(1):現代英語および英語の歴史的変遷過程で見られる同化
第13回　音声環境と単音(2):現代英語および英語の歴史的変遷過程で見られる異化
第14回　音声環境と単音(3):現代英語および英語の歴史的変遷過程で見られる添加
第15回　音声環境と単音(4):現代英語および英語の歴史的変遷過程で見られる脱落
定期試験

使用テキスト:　特定のテキストは使用せず、担当者作成のプリント資料を随時配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:　(参考書)
A.C. Gimson, An Introduction to the Pronunciation of English
その他の参考書等については、必要に応じて授業時に紹介する。

障がいのある履修者への対応:　可能な限り対応しますが、事前に学務部および担当者に相談してください。

授業時間外の連絡手段:　出講日の休み時間に兼任講師室(11号館2階)で、あるいはメールで対応します。

留意事項:　講義形式の授業ですが、普段から周囲の言語音に注意を払い、授業で扱う様々な現象の具体例を探しておく姿勢が求められます。

科目コード:12132　**科目ナンバリング:EN20C06K**　**主な使用言語:英語、日本語**

授業名(英文):　英語学概論C(Introduction to English Studies C)

担当者:　Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次:2　**単位数:2**　**授業形式:講義**

曜時:木曜3限　**履修可能学科・専攻:**　E Pe Pc C W F N M

関連資格:　教職　**AL要素:**　05　既時応答
11　討論
17発問と回答

授業の概要:　この授業では、国際共通語としての英語でのコミュニケーションについて理解を深める。特に、意味論
や語用論の分野の視点から、英語でのコミュニケーションにおける話し手の意図する意味とその解釈の
メカニズムについて学習する。
まず初めに、グローバル化する世界における英語の役割について学ぶ。次に、語の意味、意味関係、文
脈上の意味、話し手の意図、話し手と聞き手との関係や文化的背景などに注目し、様々な英語の会話や
文章を分析しながら、日本語・英語の使用上の違いを明らかにする。

キーワード:　国際英語論、意味論、語用論、意味、文脈、話し手の意図、会話分析

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 英語学の諸領域のうち、「国際英語論」、「意味論」、「語用論」の基礎を学習する。
2. 日本語・英語の使用上の違いについて理解し、英語の会話に関する授業指導に活かす。

評価方法： 授業への参加度・宿題（Moodleを利用して）、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 英語の会話や文章を分析しながら、日本語・英語の使用上の違いの理解を深めます。

評価方法： 授業への参加度，
宿題（Moodleを利用して）、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回：世界共通語としての英語（1）（グローバル化する世界における英語の役割について）
第2回：世界共通語としての英語（2）（国際英語論、世界の英語変について）
第3回：意味論とは何か？（語の意味、意味関係について）
第4回：語用論とは何か？（意味論と語用論の関係、文脈上の意味、話し手の意図について）
第5回：会話の含意（1）（言外の意味、協調の原理について）
第6回：会話の含意（2）（会話の格率、ヘッジ表現について）
第7回：直示（人称的直示、空間的直示、時間的直示について）
第8回：指示（指示表現、話し手の目的、話し手の信念について）
第9回：中間テスト
第10回：前提（1）（話し手の想定、命題について）
第11回：前提（2）（前提のタイプ、前提トリガーについて）
第12回：発話行為（1）（J.L.オースティンの発話高理論、発話行為の構成、遂行発話について）
第13回：発話行為（2）（J.R.サールの発話行為理論について）
第14回：フェイスとポライトネス（1）（社会的距離、権力距離、言語使用域について）
第15回：フェイスとポライトネス（2）（ネガティブ・フェイス、ポジティブ・フェイス、フェイスを脅かす行為・フェイスを保つ行為について）まとめ
期末テスト

使用テキスト： 必要な資料を授業中に配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習
1. Moodle上の課題を行う。
2. 講義中に配布した資料の内容を復習する。

参考文献
1. George Yule (1996). Pragmatics. Oxford University Press.
2.『ことばと発話状況ー語用論への招待』(2000) (オックスフォード言語研究叢書　ジョージ・ユール著, 高司　正夫翻訳、リーベル出版)。
3. O'Keeffe Anne, Clancy Brian& Adolphs Svenja (2019). Introducing Pragmatics in Use (2nd edition). Routledge.
4.『Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics』(2011) (Alan Cruse 著、Oxford University Press 出版)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項： 授業には必ず、辞書（電子辞書可）を持参してください。

科目コード：12158　**科目ナンバリング：EN10C03K**　**主な使用言語：英語、日本語**

授業名（英文）：コミュニケーション概論（Overview of Communication）

担当者： Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E

関連資格：　**AL要素：** 05 既時応答
11 討論
17発問と回答

授業の概要： この授業では、コミュニケーションという概念をわかりやすく紹介します。まず、コミュニケーションのメカニズムが理解できるように言語学的な理論を紹介します。次に、文化とコミュニケーションや社会とコミュニケーションというテーマを取り上げ、言語と文化の関係、異文化接触、日本人と英語話者のコミュニケーションの特徴、社会生活におけるコミュニケーションなどについて説明します。最後に、説得的コミュニケーションを基本とする要因、コミュニケーション・スタイル、コミュニケーションの丁寧さなどに注目していきます。

キーワード： コミュニケーション、ことばとコミュニケーション、非言語コミュニケーション、コミュニケーションと文化、コミュニケーションと社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： コミュニケーション学の基礎（コミュニケーションとは何か、文化・社会とコミュニケーションの関係など）について学習します。

評価方法： 授業への参加度・宿題（Moodleを利用して）、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 英語を用いて自己実現ができるように、コミュニケーションを構成する言語、文化、社会的な背景についての知識を深めます。

評価方法： 授業への参加度・宿題（Moodleを利用して）、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第1週: Introduction
第2週: What is Communication
第3週: Verbal Communication
第4週: Nonverbal Communication I
第5週: Nonverbal Communication II
第6週: Culture and Communication I
第7週: Culture and Communication II
第8週: Culture and Communication III
第9週: 理解確認（中間テスト）
第10週: Society and Communication I
第11週: Society and Communication II
第12週: Society and Communication III
第13週: Media, Technology and Communication
第14週: Informative and Persuasive Communication
第15週: 総まとめ
期末テスト

使用テキスト： 特にありません。必要な資料を授業中に配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

予習・復習
1. Moodle上の課題を行う。(30分)
2. 講義中に配布した資料を読むこと。(30分)

参考文献
1. 岡野雅雄（編著）(2008)『わかりやすいコミュニケーション学：基礎から応用まで』三和書籍
2. 辻大介,是永 論,関谷 直也(2014)『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項： 授業には必ず辞書（電子辞書可）を持参してください。

科目コード：12180 **科目ナンバリング：EN20C08E** **主な使用言語：英語と日本語**

授業名（英文）：グローバルイングリッシュ（Global English）

担当者：東海林 宏司

基本情報

年 次 :2　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 演習**

曜 時 : 木曜4限　　**履修可能学科・専攻:** E

関 連 資 格 :　　**ＡＬ要 素 :** 07. 発表
08. 協同学習
10. 資料調査課題

授業の概要: 世界的に見た場合、英語という言語は、第1言語として話される地域・国々、第2言語として使われる地域・国々、外国語として学校教育に取り入れられている国々で、それぞれ異なった様相を呈している。本授業においては、世界各国・地域における英語の置かれている現状を学び、それぞれの地域・国々による発音・語彙・語法・文法などの違いについて、映像や音声教材も使いながら学んでいく。

キーワード: 世界の英語
第1言語
第2言語
外国語

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で扱う世界の国々において、英語はどのような位置を占めているか、また、発音・語彙・語法・文法等にどのような特徴があるかを理解している。

評価方法: 授業内での発表と定期(期末)試験　　**評 価 割 合 : 75%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を通じて、英語が第1言語として使われる場合、第2言語として使われる場合、外国語として使われる場合の違いを、的確に区別し、表現することができる。

評価方法: 授業内での発表と定期(期末)試験　　**評 価 割 合 : 25%**

▼学修に主体的に取り組む態度

教科書の予習に積極的に取り組むにあたって、教科書以外の資料も積極的に利用することができる。

評 価 割 合 : 0%

▼実 践 的 ボ ラ ン タ リ ズ ム

直接的な評価対象とはしない。

評 価 割 合 : 0%

▼ 公 正 性

直接的な評価対象とはしないが、定期試験の際の不正行為には厳重に対処する。

評 価 割 合 : 0%

▼ そ の 他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 :
第01回 : Introduction
第02回 : Culture& Languages in India
第03回 : Culture& Languages in the Phillippines
第04回 : Culture& Languages in Thailand
第05回 : Culture& Languages in Vietnam
第06回 : Culture& Languages in Korea
第07回 : Culture& Languages in France
第08回 : Review 1
第09回 : Culture& Languages in Italy
第10回 : Culture& Languages in Denmark

第11回：Culture& Languages in Portugal
第12回：Culture& Languages in Turkey
第13回：Culture& Languages in Egyt
第14回：Culture& Languages in South Africa
第15回：Review 2

使用テキスト： Berlin, Scott & Kobayashi, Megumi (2021) World Adventures, KINSEIDO

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： わからない語彙を辞書で調べるなどして予習をしないと、授業の理解は難しい。また、教科書はオンラインビデオと連動しているので、授業前や授業後にも目を通すことが必要。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別面談で対応します。

留意事項： 授業時には辞書（電子辞書）を必ず持参すること。

科目コード：13028　**科目ナンバリング：PE11C02K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **児童文化I（Elementary Student Culture I）**

担当者： **宮崎　麻子**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F M

関連資格： 社教　**AL要素：** 17.発問と回答

授業の概要： 「児童文化」とは何か、そのことばの概念や歴史、児童文化がもたらす意義などを学ぶ。また絵本・児童文学などの作品を具体的に考察して、子ども文化に親しみ、その特性とは何かについて学ぶ。
その上で、子どもをとりまく社会・文化の状況や内包する問題を検討して、子どもがすこやかに主体的に育つことへの知見を深めてゆく。

キーワード： 児童文学、絵本、昔話、わらべうた、童謡、唱歌、あそびうた、アニメーション、子ども観

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1）子どもが出会う児童文化財（絵本・童謡・遊び・児童文学）を鑑賞・再体験することができる。
2）児童文化のゆたかな世界への理解を深めると共に、保育者としての感性を磨き、想像力を養うことができる。

評価方法： 授業態度とリアクションペーパー　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：

「文化」の視点から子どもと社会（世界）とのかかわりを探り、時代が子どもにどのようなまなざしを向けているか理解して、説明できるようになる。

評価方法： 学期末の課題執筆　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

講義形式ではあるが、小課題の執筆と発表、製作なども行う。
絵本の読み聞かせや遊び歌などでは、実技を行うため、授業への積極的な参加姿勢が求められる。上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクションペーパーや課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題執筆等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

1. オリエンテーション／「児童文化」とは何か
2. 絵本_1）／ブックスタートと赤ちゃん絵本
3. 絵本_2）／物語と読書・レオ・レオニの作品
4. 絵本_3）／表現の広がり・老いや死をテーマにした絵本
5. 絵本_4）／バリアフリー絵本
6. 昔話と子どもの成長
7. 子どもの歌／わらべうた・日本の童謡史
8. 児童文学／児童文学入門・物語の魅力
9. 児童文学／英米の作品_1）ピーターラビットとポター『ミスポター』鑑賞
10. 児童文学／英米の作品_2）ポター振り返りとイギリス児童文学
11. 児童文学／英米の作品_3）くまのプーさんとミルン
12. 児童文学／日本の作品_1）『ぼくのお姉さん』を読む
13. 児童文学／日本の作品_2）つながる世界と児童文学の特質
14. 子どもと現代／ショーン・タン・ヨシタケシンスケ
15. まとめ／「児童文化」のあした

使用テキスト： 授業内で適宜プリントを配布

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、絵本や昔話、児童文学の作品をなるべくたくさん読むことが望ましい。
授業後は、授業資料等を復習して知識の定着をはかるとともに、関連作品を通読・鑑賞して所見メモ等を作成することが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業にてお知らせする。

留意事項： 【2023年度入学生 】【2022 年度以前の入学生】
・可能ならデバイスを持参すること（必携ではない）
→初回にデバイスの扱いについて、説明する予定。

科目コード：13029 **科目ナンバリング：PE12C02K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **児童文化II（Elementary Student Culture II）**

担当者： **塩谷　亮**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：火曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F M

関連資格： 社教 **AL要素：** 07. 発表
08. 協同学修

16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答
18. その他

授業の概要： この授業では朗読や簡単な演技を体験しながら、リラックスした「遊び」感覚で、人前でしゃべることなどの自己表現や、共同作業のコミュニケーションの技術を習得します（後半、絵本をもとに小さなパフォーマンスをグループで創作、表現感覚を磨きます）。
発声トレーニング、身体コントロール、声の表現も行います。

過去の履修者からは「アルバイトに応用できた」「就活面接の役に立った」「人前で話すことに少し抵抗がなくなった」「協力して成し遂げることを学んだ」などの感想がありました。

なお、演劇や演技について全く知らなくても、自己表現が苦手でも、大丈夫です。各人に合わせて丁寧に指導いたします。

（私は、茨城県水戸市の公共施設である『水戸芸術館』の専属俳優です。1992年に入団以来、舞台出演をメインに、教育・普及活動［訪問公演やワークショップなど］にも力を入れています。30年以上の舞台経験をもとに、演劇の手法を使い、日常生活や教育現場などで役に立つ表現方法を伝えたいと思っています。
プロフィール→ https://www.arttowermito.or.jp/theatre/acm/）

キーワード： 伝える、ボイストレーニング、表現、プレゼンテーション、演劇、朗読劇、パフォーマンス

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ内容を、実生活で活用し、その見解と発展について、期末に提出の最終レポートに、指定された書式・マナー（引用など）を踏まえ記述することができる（独自性があることを期待します）。

評価方法： 期末のレポート提出　　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 毎回の振り返りのレポートに当日の授業内容・自身の実感を記入し、次回への連想・発想をすることができる。

評価方法： 毎回、授業の終わりに振り返りのレポートを記入し、提出していただきます。　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

表現力をアップさせるための授業なので、積極的な態度を高評価する。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション／自己紹介
第2回：朗読をやってみよう～表現の基本(1)
第3回：発声のトレーニング～表現の基本(2)
第4回：音声表現の基本テクニック～表現の基本(3)

第5回:なんでもプレゼンテーション～一人で表現する強さを持つ
第6回:パフォーマンスの実際
第7回:「前説(まえせつ)」をしてみよう～観客との交流
第8回:絵本を持ち寄る＆作品の決定～上手な話し合いとは(1)
第9回:キャスティングと方向性の確認～上手な話し合いとは(2)
第10回:小作品づくり(1)
第11回:小作品づくり(2)
第12回:小作品づくり(3)
第13回:小作品づくり(4)
第14回:作品発表
第15回:ふりかえり、表現教育について

※履修者の人数次第で多少の変更があります。

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:授業の前日までに、当日の内容についてリサーチする(1時間程度)。
復習:授業内容を当日中に振り返る(1時間程度)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 履修登録者に私のメールアドレスを通知いたします。

留意事項: 動きやすい服装(ジャージなどでなくてもよい)、上靴、飲み物(喉を潤すため)、ハンカチ等(汗拭き)をご用意ください。

科目コード:13030 **科目ナンバリング:PE11C03K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **言語教育I(Language Education I)**

担当者: **渡邊 洋子**

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:金曜4限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F M

関連資格: 教職 日本語

AL要素: 02模擬実践
07発表
08共同学修
10資料調査課題
11討論

授業の概要: ○授業は実践的な内容で進められます。
○義務教育課程で必要な「発表」、「話すこと・聞くこと」等の力をつけるために、どのようなアプローチが考えられるか、体験的に学べる授業となっています。
○「言語教育Ⅰ」は、特に口頭での発表を取り上げます。
なお、実務経験を生かし、学び手に確実に力のついていく模擬実践、発表練習のあり方、共同学修、討論の仕方をともに探究していく授業となります。

キーワード: 発表、群読、韻文、散文、グループディスカッション、仲間から学ぶ。

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 聴き手に伝わる「発表」、「話すこと」、「聞くこと」、「群読」をするために必要な要素を理解している。
例 声の抑揚、内容の取り出し方、まとめ方、その時の思いを伝えることの重要性等。
また、発表内容(韻文や散文)の的確な理解と解釈がなされること。

評価方法: ○授業・発表準備の姿勢 **評価割合:30%**

○授業・発表時の態度
○発表内容
○発表へのコメント
○リアクションペーパー

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ○師範発表や、アドバイス、仲間の発表、前回までの自分の発表を振り返り比較することにより、自分の発表の良さ、特徴等を言葉で的確に表現することができる。
○師範発表や、アドバイス、仲間の発表、前回までの自分の発表を振り返り、比較することにより、聴き手に伝わる発表をするためにどのようにしたらよいか、実践的に学び、仲間の発表の変化を適切に評価することができ、自分の発表の質の変化を言葉で表現することができる。

評価方法: ○授業・発表準備の姿勢　　**評価割合:** 70%
○授業・発表時の態度
○発表内容
○発表へのコメント
○リアクションペーパー

▼学修に主体的に取り組む態度

○より良い発表のあり方について、自ら検討し、準備・練習に積極的に取り組んでいる。また、それにより、回数を追う毎に発表が上達している。
○義務教育過程において、どのような方法をとれば、子どもたちがより良い発表の仕方を確実に習得していけるか、自分自身や仲間の学び方、上達の状況を参考にしながらその方法論を検討することができる。

評価割合: 授業・発表の準備や練習、発表の状況などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力

▼実践的ボランタリズム

○授業を円滑に進めるため、またより充実したものにするため、まわりの履修者に声を掛け、協力を促している。
○この授業の履修者が相互にコミュニケーションをとり、お互いの考え方・思い・経験から積極的に学び合っている。

評価割合: 授業・発表準備や練習、姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・

▼公正性

義務教育課程において求められる、「だれとでも」、「いつでも」を基本的な姿勢として、公平・公正に履修者どうしが関われる環境づくりに配慮している。

評価割合: 授業・発表準備や練習、姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:
第01回　ガイダンス・好きな言葉を紹介しよう①準備・発表練習
第02回　好きな言葉を紹介しよう②グループ内で発表　発表内容を磨こう。
第03回　好きな言葉を紹介しよう③発表しよう。群読に挑戦しよう①グループ決め・練習しよう。
第04回　群読に挑戦しよう②発表しよう。
第05回　韻文を紹介しよう～和歌・短歌・俳句の世界①～　概要説明・資料づくり・発表練習
第06回　韻文を紹介しよう～和歌・短歌・俳句の世界②～　発表1番～5番
第07回　韻文を紹介しよう～和歌・短歌・俳句の世界③～　発表6番～10番
第08回　韻文を紹介しよう～詩①～　概要説明・資料づくり・発表練習
第09回　韻文を紹介しよう～詩②～　発表1番～5番
第10回　韻文を紹介しよう～詩③～　発表6番～10番
第11回　散文を紹介しよう①　概要説明・資料づくり・発表練習
第12回　散文を紹介しよう②　発表1番～5番
第13回　散文を紹介しよう③　発表6番～10番

第14回　グループディスカッションをしよう①　概要説明・準備
第15回　グループディスカッションをしよう②　振り返り　全体のまとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は基本的にはこちらで用意し、配布いたします。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ○授業の終わりに、次回までに行う課題について説明いたします。作品選び、資料の準備、発表の練習、グループでの打ち合わせ、振り返り等を行ってください。
○中学校・高等学校で使用した『国語便覧』等がありましたら、第5回～第13回までご持参ください。
○『群読をつくる』 家本芳郎　高文研

障がいのある履修者への対応： 履修者の状況に合わせて、学びが充実するよう個別対応をいたします。そのためにも、まずは学務部等にご連絡ください。

授業時間外の連絡手段： メールでの対応を行います。初回に連絡先を提示いたします。

留意事項： ○教職履修者対応の授業となっておりますが、他学科の学生のみなさんにも役立つ内容になっています。「前に立って発表するのが苦手」という方も力をつけられる授業です。よい機会にしてください。
○受講人数や学年、受講学生の状況によって、授業計画を変更する場合があります。

科目コード：13031　　**科目ナンバリング：PE12C03K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：言語教育II（Language Education II）

担当者：渡邊　洋子

基本情報

年次：1　　**単位数：2**　　**授業形式：講義**

曜時：金曜5限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F M

関連資格： 教職　日本語　　**AL要素：** 02模擬実践
07発表
08共同学修
10資料調査課題
18文章表現

授業の概要： ○【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】遠隔授業（同時双方向型）
○【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業
で行います。
○授業は実践的な内容で進められます。
○義務教育課程で必要な「文章表現」、「書くこと」等の力をつけるために、どのようなアプローチが考えられるか、体験的に学べる授業となっています。
○「言語教育Ⅱ」は、特に文章での表現活動を取り上げます。
なお、実務経験を生かし、学び手に確実に力がついていく模擬実践、文章表現指導のあり方、共同学修の方法を探究していきます。また、書くことを厭わない学び手を育てるためにはどうしたらよいかをともに検討していく授業を行います。

キーワード： 文章表現指導、描写表現指導、登場人物の性格を考える、「会話」、シナリオ制作、仲間から学ぶ。

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 読み手に伝わる「文章」、「シナリオ」、「絵本」を作成するために必要な要素を理解している。
例 「は」と「が」の違い、「自然描写」「情景描写」「心情描写」「心理描写」等の違い、「会話」の役割、「登場人物の性格づけ」等の知識理解。
また、「シナリオ」作成のための知識理解。

評価方法： ○講義内容の理解度　　**評価割合：30%**

○授業や文章表現への準備の姿勢
○書いた文章の内容
○仲間の文章へのコメント
○リアクションペーパー

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ○サンプルやアドバイス、仲間の文章、前回までの自分の文章を振り返り比較することにより、自分の文章の良さ、特徴等を言葉で的確に表現することができる。
○サンプルやアドバイス、仲間の文章、前回までの自分の文章を振り返り比較することにより、読み手に伝わる文章表現をするためにどのようにしたらよいか、実践的に学び、仲間の文章の変化を適切に評価することができ、自分の文章の質の変化を言葉で表現することができる。
○書くことを厭わない文章表現指導の方法を検討することができる。

評価方法: ○書いた文章に講義内容がどれだけ反映されているか。
○視点・観点に基づいた文章表現の練習が効果的に進められているか。
○書かれた文章内容
○仲間の文章へのコメント
○リアクションペーパー

評価割合: 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

○より良い文章表現のあり方について、自ら検討し、準備・練習に積極的に取り組んでいる。また、それにより、回数を追う毎に書いた文章の質が向上している。
○サンプルや仲間の文章から積極的に学び取り、自分の作品に効果的に反映させている。
○義務教育過程において、どのような方法をとれば、子どもたちが書くことを厭わず、しかも書く力を確実に習得していけるか、自分自身や仲間の学び方、質の向上の状況を参考にしながらその方法論を検討することができる。

評価割合: 授業・書く準備、書いた内容、授業に臨む姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「

▼実践的ボランタリズム

○授業を円滑に進めるため、またより充実したものにするため、まわりの履修者に声を掛け、協力を促している。
○この授業の履修者が相互にコミュニケーションをとり、お互いの考え方・思い・経験から積極的に学び合っている。

評価割合: 授業・書く準備、書いた内容、授業に臨む姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「

▼公正性

義務教育課程において求められる、「だれとでも」、「いつでも」を基本的な姿勢として、公平・公正に履修者どうしが関われる環境づくりに配慮している。

評価割合: 授業・書く準備、書いた内容、授業に臨む姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:
第01回　ガイダンス・「は」と「が」の違いを考えよう。
第02回　一枚の絵からストーリーを創ろう①　サンプルを読みながら書き方を学び、絵を選ぼう。
第03回　一枚の絵からストーリーを創ろう②　実際に書いてみよう。
第04回　一枚の絵からストーリーを創ろう③　仲間の作品から学び合おう。
第05回　シナリオを書こう①　サンプルを読みながら書き方を学び、書きたいテーマや内容を考えよう。
第06回　シナリオを書こう②　構想を練ろう。
第07回　シナリオを書こう③　あらすじ・下書き・意見交換をしよう。
第08回　シナリオを書こう④　照明・音・背景等も書き込もう。

第09回　シナリオを書こう⑤　仕上げをしよう。
第10回　シナリオを書こう⑥　仲間の作品から学び会おう。
第11回　絵本を創ろう①　サンプルから学び、世界に一冊の本としてテーマや内容を考えよう。
第12回　絵本を創ろう②　構想を練ろう。
第13回　絵本を創ろう③　「説明と描写」・「オノマトペ」・「会話」・「人物の性格」などを工夫しながら一冊の絵本にまとめよう。
第14回　絵本を創ろう④　仕上げをしよう。
第15回　絵本を創ろう⑤　仲間の作品から学び合おう。全体のまとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は基本的にはこちらで用意し、配布いたします。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ○授業の終わりに、次回までに行う課題について説明いたします。テーマ選び、内容の精選、書き進め、振り返り等を行ってください。

障がいのある履修者への対応： 履修者の状況に合わせて、学びが充実するよう個別対応をいたします。そのためにも、まずは学務部等にご連絡ください。

授業時間外の連絡手段： メールでの対応を行います。初回に連絡先を提示いたします。

留意事項： ○教職履修者対応の授業となっておりますが、他学科の学生のみなさんにも役立つ内容になっています。「書くのが苦手」という方も力をつけられる授業です。よい機会にしてください。
○受講人数や学年など、受講学生の状況によって、授業計画を変更する場合があります。

科目コード：13035　**科目ナンバリング：PE10C09K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：自然科学教育（Natural Science Education）

担当者：飯田　利明

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：月曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F M

関連資格： 教職　**AL要素：** オンライン授業に慣れる

授業の概要： 小学校の「理科」の時間では、植物を育てて観察し、さらにその植物をめぐる他の生き物の相互関係を観察するということが、当たり前のように行なわている。水辺の「ビオトープ」さえも、学内に普通にある時代だ。
だが、子供達を含めて、自然に親しむ機会を持っていないのも事実だ。

そのために主に三つに焦点を絞りたい。

まずは各自が育てやすい生き物を自分で育てながら、その観察を行う。理科の時間の「小学生と先生」になったつもりで、実際にやってみたい。理科=自然科学では、まずは現場で自分でやってみることが最初に大切なことだ。たとえ失敗したとしても良い、この栽培と観察に取組めば、後々「理科 」を担当する時に役立つと考える。

全体の広かりを持った観点から、茨城の自然の特性とそこの生き物の生活も説明したい。自然と向き合うのには、安全性や生物の特徴やその名前の決め方などの最低限の知識も必要なので、後で役立つように、わかりやすく説明したい。

「自然体験型教育」である「森のようちえん」などのやり方を実例に基づいて紹介したい。幼児期から自然に親しむことが自然科学の第一歩であり、それ無くして理科＝自然科学は成り立たない。また「自然体験型教育」は、現代で少なくなってきた人と人の 間の関係性の成長をも促すと考えます。

キーワード： 自然観察、栽培、自然体験型教育、茨城の自然、安全性

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 教員となって理科を担当する時に、最低限必要とされる基本的な知識だけでなく、その知識を得る「方法」を知る。

評価方法: 期末レポート　　**評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自然科学的な観察、判断等を行い、それを子ども達に教えられるようになる。

評価方法: 期末レポートに含む　　**評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

自分で蒔いた植物を、積極的に育てて観察する。昆虫などを含めた身の回りの自然を観察する。

評価割合: 30%

▼実践的ボランタリズム

具体的な評価対象とはしない。
ただし授業に関連する内容のボランティア活動や観察会等に参加しているのならば、その経緯、成果をレポートにまとめることは大歓迎します。高く評価の対象としたい。

評価割合: 0%

▼公正性

自他に対する公正性の確保は当然のことであり、通常の評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特に無し。

評価割合: 特に無し。

授業計画:
[第01回] はじめに
[第02回] 実際に自分で植物を育てて+観察してみたい /予定では、ミニトマト、野菜、草花などから選ぶ
[第03回] ここ茨城の自然の特徴について
[第04回] 野外での自然観察のやり方を具体的に /実例としてタンポポの生態と分布
[第05回] 危険な生き物への対応について
[第06回] 身近な昆虫や野鳥などの小動物の観察
[第07回] 水辺の生き物(両生類や魚類)の観察/実例としてカエルの生態
[第08回] 「森のようちえん」などの自然体験型教育について
[第09回] ホタルの生態と分布 /実例としてヘイケボタルとゲンジボタル
[第10回] 夏によく見かけるトンボの生態と観察 /秋の風物の赤とんぼは
[第11回] 食うものと食われるもの /天敵は敵か味方か
[第12回] 草や樹木の観察と夏に目立つ花
[第13回] 外来生物を知る/身近な生き物の大半は外来生物
[第14回] 歴史的変化を新旧航空(空中)写真と地形図の利用で知る
[第15回] まとめ /合わせてレポートの取りまとめについての相談、指導
[第16回] 可能ならば教室でのレポート提出 、ICUNIPAでの提出も両立させます

使用テキスト: 参考資料を、紙とICUNIPAで配布します。
必要な本やWebは、授業時に紹介します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配布された資料に眼を通し、わからないことは自分で調べることによって、深く理解することが可能です。
また自分なりに、身の回りの自然観察に取り組んでいたたきたい。

障がいのある履修者への対応: 多様性の一つと考えますので、積極的に対応させていただきます。

授業時間外の連絡手段: ICメール　ida_toshiaki@icc.ac.jp　へどうぞ

留 意 事 項： 成績評価の中心は、期末に提出されたレポートで行います。レポートのテーマ及び、内容、まとめ方については、随時相談する時間を持ちます。
季節の進み具合に応じて、内容の順番が変更される可能性があります。

科 目 コ ー ド：13125 **科目ナンバリング：PC20C15K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **発達障害学（Developmental Disabilities Studies）**

担 当 者： **三橋 翔太**

基本情報

年 次：2 **単 位 数：2** **授業形式：講義**

曜 時：水曜1限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格： 保育 **ＡＬ要素：** 03.実験・実技・体験
04. 課題解決
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 学校教育や保育において特別な支援が必要とされる障害の中から、代表的なものをいくつか取り上げ、その障害の特性について各心理機能の基礎的事柄と共に概説する。具体的には、知能や認知機能に関わる障害(知的障害，学習障害，注意欠陥多動性障害)、運動行為に関わる障害(脳性マヒ，発達性協調運動障害)、社会性やコミュニケーションに関わる障害(自閉症スペクトラム障害)を取り上げる。

キーワード： 特別支援教育，発達障害，心理機能

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 様々な発達障害の基礎的事柄を理解する。

評価方法： 学期末課題 **評価割合：**85%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 個に応じた支援の在り方についての知識を応用することができる。

評価方法：コメントペーパー **評価割合：**15%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に発達障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が授業終了時に回収するコメントペーパーなどに記載されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

評価割合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授 業 計 画： １ はじめに

2 心理機能の生涯発達とその障害
3 知的障害とは何か？①知的発達・認知発達の基礎的事柄
4 知的障害とは何か？②適応機能
5 知的障害とは何か？③知的発達障害の原因_生理型
6 知的障害とは何か？③知的発達障害の原因_病理型
7 限局性学習障害とは何か？
8 自閉症スペクトラム障害とは何か？①社会性発達の基礎的事柄
9 自閉症スペクトラム障害とは何か？②自閉症の歴史・定義
10 自閉症スペクトラム障害とは何か？③自閉スペクトラム症について
11 注意欠如多動性障害について
12 運動障害とは何か①運動発達の基礎的事柄
13 運動障害とは何か②脳性マヒについて
14 運動障害とは何か③発達性協調運動障害について
15 まとめ

使用テキスト： 適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習については、初回に紹介する発達障害児・者全般に関係する文献に目を通しておくことが望ましい。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。障害に関する参考文献：滝川一廣，子どものための精神医学，ISBN-10: 426003037X.

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については第1回目にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：14147 **科目ナンバリング：CC20C11K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **西洋史（Western History）**

担当者： **森下　嘉之**

基本情報

年次：カリキュラム **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜2限 **履修可能学科・専攻：** Ｅ Pe Pc Ｃ Ｆ

関連資格： 教職 **ＡＬ要素：** なし

授業の概要： 【まん延帽子等重点措置期間中の授業形態】遠隔授業（同時双方向型）
ヨーロッパが世界の歴史の中で、なぜ重要な役割を果たすことになったのか、それによって世界にどのような問題が引き起こされたのか。現代の「グローバル化」に潜む課題をヨーロッパの歴史から考え直す。

キーワード： グローバリズム、資本主義、社会主義、帝国、冷戦、ネイション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： (1) 世界史という広い視野に立って、ヨーロッパの社会を理解できるようになる。(2)ヨーロッパ近現代史を学ぶことによって、歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける。(3)ヨーロッパ近現代史の最近の研究動向について理解できるようになる。

評価方法： 毎回の授業時に知識確認のためのコメントを求める。 **評価割合：各回のコメントの割合は全体の30**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 21世紀のグローバル世界がどのように形成され、どのような問題が生じているのかを知るとともに、歴史的な大事件だけでなく、地域に生きる人々の歴史と文化を学ぶことで、「世界の俯瞰的理解」を得る

評価方法： 総合的な思考力を確認するために期末レポートを課す。

評価割合：期末レポートの比率は70%とする。

▼学修に主体的に取り組む態度

20分以上の遅刻は出席とは認めない。

評価割合：特になし

▼実践的ボランタリズム

特になし

評価割合：特になし

▼公正性

特になし

評価割合：特になし

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. ガイダンス:「ヨーロッパ」とはなにか
2. 16-17世紀ヨーロッパ「大航海/大交易」時代
3. 17-18世紀ヨーロッパ「環大西洋革命」の時代
4. 18世紀後半ヨーロッパ「フランス革命」の時代
5. 19世紀ヨーロッパ「帝国主義」の時代
6. 19-20世紀ヨーロッパ「ナショナリズム」の時代
7. 第一次世界大戦勃発と「ロシア革命」の時代
8. 第一次世界大戦終結と「ヴェルサイユ体制」の時代
9. 1920-30年代ヨーロッパ「両大戦間期」という時代
10. 1930-40年代ヨーロッパ「 ナチス・ドイツ」台頭の時代
11. 第二次世界大戦と「ホロコースト」
12. 第二次世界大戦の終結とヤルタ会談
13. 1950-60年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代1」
14. 1970-80年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代2」
15. 授業のまとめと21世紀のヨーロッパ

使用テキスト： 教科書は用いない。授業レジュメを毎回配信する。
授業を理解するための参考書としては、以下を挙げておく。
北村厚『教養のグローバル・ヒストリー：大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎回の授業レジュメを事前に配信するので、ダウンロードの上確認すること。また、授業後の確認コメントについても、提出を怠らないこと。

障がいのある履修者への対応： 受講希望者がいた場合には適宜対応する。

授業時間外の連絡手段： UNIPAの記載に準ずる。

留意事項： 特になし

科目コード：14187　**科目ナンバリング：CC10B02K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：文化人類学B（Cultural Anthropology B）

担当者：鈴木　晋介

基本情報

年 次 :1　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 水曜3限　　**履修可能学科・専攻:** ＥPe Pc ＣＦＮＭ

関 連 資 格 : 学芸　日本語　　**ＡＬ要 素 :** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: この講義では主として「宗教」をテーマとして取り上げ、文化人類学的アプローチによって世界の多様な宗教的事象に接近する。講義は大きく三つのパートに分けて行う。第1部（第1回～4回）では文化人類学という学問について概説する。第2部（第5回～11回）は宗教への社会科学的アプローチを主題に、定義や宗教概念そのものの有する問題点を論じる。第3部（第12回～）は宗教文化のすそ野の広がりへと目を向ける。妖怪文化やアニミズム、呪術が講義の題材となる。本講義は全体として、わたしたちがもつ素朴な宗教観の相対化へと向けられるものである。

キーワード: 宗教概念、現代社会と宗教、アニミズム、呪術

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で学んだ宗教文化に関する種々の概念や議論を概ね80％理解し解答することができる。

評価方法: 定期試験　　**評 価 割 合 :** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ概念や語彙を適切に用いて、自ら問題意識を深め、思考し、表現することができる。

評価方法: レポート、リアクションペーパー　　**評 価 割 合 :** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

レポート等の記述において著しく偏見や差別的表現がある場合、個別的な指導の対象となりうる。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 :

第1回　イントロダクション
第2回　概説　文化人類学とは何か（1）フィールドワークとエスノグラフィー
第3回　概説　文化人類学とは何か（2）学問の体系
第4回　概説　文化人類学とは何か（3）文化概念をめぐって
第5回　「宗教的なもの」へのアプローチ
第6回　世界の宗教分布
第7回　宗教概念について
第8回　現代日本人の宗教に対する「曖昧さ」
第9回　宗教を社会科学的に研究する
第10回　福沢諭吉のいたずらと千里眼事件
第11回　宗教という社会現象への視角
第12回　妖怪文化
第13回　アニミズム
第14回　呪術的世界

第15回　まとめ

使用テキスト： 『よくわかる文化人類学』(第2版)、綾部恒雄・桑山敬己編、ミネルヴァ書房、2010年。
（＊「文化人類学A」の授業と同じテキストを使用します。）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献については各トピックごとに授業中に適宜紹介します。受講者には積極的にそうした文献に目を通し、自ら知見と考察を深める努力が求められます。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項： 「文化人類学A」と合わせて履修することが望ましい。

科目コード：14188　**科目ナンバリング：CC10B03K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：社会学A（Sociology A）

担当者：勝山　紘子

基本情報

年次：カリキュラム　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C

関連資格： 教職　日本語　福祉主　**ＡＬ要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード： 人間と社会、個人と集団、家族、性、労働、消費

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問や発表など、その内容に学修の成果が認められる場合には評価の対象とします。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　社会学とは何か
第2回　社会学の歴史(1)
第3回　社会学の歴史(2)
第4回　社会と「私」(1)ー個人と集団、自我と他者
第5回　社会と「私」(2)ー社会的人間と社会集団
第6回　家族と社会(1)ー家族のあり方と変容
第7回　家族と社会(2)ーDV、ケア、新しい家族の形
第8回　出生前診断について
第9回　性と社会(1)ージェンダーとセクシュアリティ
第10回　性と社会(2)ー多様化する性のあり方と東京オリンピック
第11回　労働と産業ーAIと人間の共存可能性と日本人の働き方
第12回　消費行動と社会ーマクドナルド化する社会とわたしたち
第13回　デジタルメディアと社会学
第14回　環境と社会学ー高度経済成長と公害問題
第15回　振り返りと総括

使用テキスト： 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
【予習】毎回の授業に関わる箇所について、テキストをよく読んできてください。
【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の試験に向けてノート等にまとめておいてください。
【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をするよう心がけてください。

科目コード：14189　**科目ナンバリング：CC10B04K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **社会学B(Sociology B)**

担当者： **勝山　紘子**

基本情報

年次：カリキュラム　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C

関連資格： 教職　日本語　福祉主　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード： 人間と社会、教育、多文化共生、地域社会、宗教、医療

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法: 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法: 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問や発表など、その内容に学修の成果が認められる場合には評価の対象とします。

評価割合: 10%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

第1回 ガイダンス
第2回 教育と社会学(1)ー教育と社会学、日本の教育
第3回 教育と社会学(2)ー共同体主義と教育、ドイツの教育
第4回 逸脱行動と逸脱者
第5回 世界における移民・難民問題
第6回 多文化共生社会を考えるー映画『クラッシュ』①
第7回 多文化共生社会を考えるー映画『クラッシュ』②
第8回 格差についてー階級と階層、格差社会
第9回 地域と社会ー社会集団としてのコミュニティとアソシエーション
第10回 グローバリゼーションとエスニシティ
第11回 宗教と社会(1)ー世界の宗教と日本人
第12回 宗教と社会(2)ー新興宗教と宗教2世の問題
第13回 医療と社会(1)ー病気と医療
第14回 医療と社会(2)ー社会学からみた医療
第15回 振り返り

使用テキスト: 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:
【予習】毎回の授業に関わる箇所について、テキストをよく読んできてください。
【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の試験に向けてノート等にまとめておいてください。
【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をするよう心がけてください。

科目コード：14204　**科目ナンバリング：CC20C09K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： 民俗学（Folklore）

担当者： 清水　博之

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F M

関連資格： 学芸　**AL要素：** 16.振り返りと応答

授業の概要： 民俗学は「内省の学」ともいわれています。私たちの生活の中で伝えられてきたさまざまな事象を掘り下げて考察し、現代を生きる私たち自身の思考や行動の根源を探求しようとする学問です。

この授業のテーマは、民俗学という学問を通して「日本人とは何か」を解明することです。具体的には、私たちが日常生活の中で経験するさまざまな物事を民俗学ならではの視点と方法で考究します。

とはいっても、民俗学は私たちが日頃から当たり前と思っていることの本来の意味を解き明かしてくれる身近な学問でもあります。自分自身の幼い頃からの経験を思い出しながら楽しく学修しましょう。

授業では、毎回テーマに沿って講義をしますが、時には履修生と質疑応答をすることもあります。毎回の授業終了後にはリアクションペーパーを課します。これらは成績評価の対象となります。

茨城県内はもとより、日本のみならず海外のさまざまな民俗事象も紹介します。

キーワード： 日本民俗学、柳田國男、沖縄、移民、マチとムラ、口承伝承、通過儀礼、年中行事、お祭り、結婚、つきあい、学校の怪談、生と死、日本人

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 民俗学の基本的な知識と考え方を理解して、説明することができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度（発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など）およびリアクションペーパー、定期試験などにより総合的に評価する。　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度（発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など）およびリアクションペーパー、定期試験などにより総合的に評価する。　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが発表やリアクションペーパーの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象に

することがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

【第01回】オリエンテーション：民俗学への招待
【第02回】民俗の心を探る（民俗学史）
【第03回】装飾と入れ墨
【第04回】沖縄の民俗
【第05回】移民の民俗
【第06回】マチとムラの祭り
【第07回】学校の怪談
【第08回】結婚と親戚
【第09回】通過儀礼と俗信
【第10回】墓参りと先祖供養
【第11回】地区のつきあい・職場のつきあい
【第12回】ムラの過疎化
【第13回】コンビニで知る年中行事
【第14回】あの世への旅立ちといのちの誕生
【第15回】まとめ：日本人とは
定期試験

※ 諸般の事情により、授業計画の日程や内容を変更する場合がある。

使用テキスト： 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

【予習】1時間以上
・あらかじめ、当日の授業テーマについて主体的に学修しておく。
【復習】1時間以上
・毎回のリアクションペーパーは、成績評価の対象なので必ず期限内に提出する。
・定期試験に備えて授業で取り上げた事柄をノートなどにまとめる。
【参考文献】
・市川秀之・中野紀和・篠原徹・常光徹・福田アジオ編著『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房、2015年、2,800円＋税
・その他の参考文献については、授業時に紹介する。
【資料】
その都度、配布する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 別途、お知らせします。

留意事項： ・毎回のリアクションペーパーは、定期試験とともに成績評価の対象となるので、しっかりと取り組んで期限までに提出してください。

科 目 コ ー ド :14225　　**科目ナンバリング : CC10C11K**　　**主な使用言語 : 日本語**

授業名(英文): 特殊講義B(Special Lecture B)

担 当 者 : 鈴木 晋介

基 本 情 報

年 次 :1　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 火曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :　　**A L 要 素 :** 07発表
08協働学習
10資料調査課題
11討論
17発問と回答

授 業 の 概 要 : 履修者は、原則として「日本語教育実習」を履修済(あるいは履修中)の学生(4年生)に限る。留学生の場合は日本語検定2級以上のものが履修できる。
履修生は留学生とチームを組み、日本語レベル初級の外国人児童(もしくはICHへの留学生)に対し、毎週指定された時間に、日本語学習支援および学科科目学習支援(宿題のサポートなど)を行う。毎回の授業では、支援の記録をもとに改善点や改善案などを話し合う。多文化の中で協働(協力して働く) のスキルを磨くことを目的としている。
※この授業は4年生用の授業です。

キ ー ワ ー ド : 多文化、協働、共生

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 留学生と共に課題に取り組み、話し合い、結果を出す、協働のスキルを身につける。

評価方法: レポートと支援の記録　　**評 価 割 合 : 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 異文化を尊重し多文化の中で決断、実行することができる。

評価方法: レポートと支援の記録　　**評 価 割 合 : 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

特になし

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

特になし

評 価 割 合 : 0%

▼そ の 他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 :
第1回　ガイダンス
第2回　日本語支援の計画立案
第3回　日本語支援の改善点と改善案①
第4回　日本語支援の改善点と改善案②
第5回　日本語支援の改善点と改善案③
第6回　日本語支援の改善点と改善案④

第7回　日本語支援の改善点と改善案⑤
第8回　日本語支援の改善点と改善案⑥
第9回　日本語支援の改善点と改善案⑦
第10回　日本語支援の改善点と改善案⑧
第11回　日本語支援の改善点と改善案⑨
第12回　日本語支援の改善点と改善案⑩
第13回　日本語支援の改善点と改善案⑪
第14回　日本語支援の改善点と改善案⑫
第15回　振り返りと総括

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 特になし

障がいのある履修者への対応： 合理的な配慮をします。

授業時間外の連絡手段： 直接あるいはメール等でアポイントメントを取ってください。

留意事項： この授業は、「日本語教育実習」履修済あるいは履修中の4年生を対象とした授業です。ご注意ください。

科目コード：14231　**科目ナンバリング：CC10C01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **海外事情（Foreign Affairs）**

担当者： **鈴木　晋介**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F M

関連資格：　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： グローバル化の時代、私たちは観光や留学あるいはスタディーツアーといったさまざまな仕方で海外での経験を積むようになっています。そうした経験はどのような仕組みの上に成り立ち、またどのような意味を持っているのでしょうか？本講義では、「観光」と「異文化適応」という二つのテーマでこの問題を考えます。また、海外渡航に関わる基礎知識の概説を通じて、海外に行ってみたいと考えている受講者のみなさんの素朴な疑問に答えていきます。

キーワード： グローバリゼーション、観光、異文化交流、異文化適応

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学ぶ「観光」や「異文化適応」の諸概念や基礎的知識について理解し適切に論述することができる。

評価方法： 定期試験　**評価割合：70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ内容について問題意識を深め、自らの言葉で論理的に表現することができる。

評価方法： リアクションペーパー　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等がレポートやリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしリアクションペーパーやレポートの記述において著しい偏見や差別的表現がある場合は減点対象となりうる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　ガイダンス
第2回　海外との交流（1）グローバリゼーションの時代
第3回　海外との交流（2）統計数値でみる世界
第4回　海外を訪ねよう―観光という社会現象
第5回　観光の歴史
第6回　観光の行動類型と心理
第7回　多様化する現代の観光（1）マス・ツーリズムから「持続可能な観光」へ
第8回　多様化する現代の観光（2）新たな観光のカタチ
第9回　多様化する現代の観光（3）「ウィズ・コロナ」時代の模索
第10回　世界遺産とユネスコ
第11回　異文化イメージとステレオタイプ
第12回　異文化適応とカルチャーショック
第13回　海外渡航の基礎知識（1）
第14回　海外渡航の基礎知識（2）
第15回　まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後、配布資料について復習するとともに、インターネット等を通じて関連する諸情報を自ら調べ知識を深めることが望まれる。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 必要があれば個別に相談してください。日時等を確定し、研究室で対応します。

留意事項： なし

科目コード：14232　**科目ナンバリング：CC10C04E**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **伝統文化と現代アート（Traditional Culture and Contemporary Art）**

担当者： **山中　仁美**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：月曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F M

関連資格：　**AL要素：** 03実技、04課題解決、07発表、08協同学修、11討論、15レポート指導、16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要： アクティブラーニングとしてのカンボジア舞踊。
本授業担当者は、カンボジアの芸術学校を卒業し、日本で舞踊団体を主宰し様々な舞踊活動を行ってきました。その実務経験を活かし、以下のように授業します。

カンボジアの民衆舞踊（誰もが踊れる踊り）を皮切りに、それを元にしたカンボジアのヒップ

ホップダンス、または、民俗舞踊（ココナッツダンス）https://www.youtube.com/watch?v=gS0hxSGaOzs
を、踊ってみる。また、関連のあるカンボジアの歴史や文化的背景も学び、身体・知性・心を使って、異文化への知見を深める。
仲間と協同して、自分達の発表機会の企画書を作成し、その計画を実施する。
発表機会を振り返り、グループで成果報告書を作成・発表し、討議を行い、来年度に向けての提案を行う。
最後に今までの活動を振り返り、そこで得た学びと気づきを800字以上1500字までのレポートにまとめる。

ダンスの上手下手は評価しません。

自らの意志で、身体を使って異国の文化を学びながら、ある一つの目標に向かって、各人の尊厳と個性を大切にしつつ、それぞれの強みを持ち寄り仲間と一緒に何かを達成した時の喜びを体験しましょう！
今までやった事のない事に挑戦し、小さな失敗をし、話した事のない人と関わる事こそが、学生時代を豊かにし、やがて社会という大海原を航海する力を育ててゆくのだと、私は信じています。
「ツマラナイ、ハズカシイ、ツライ」時にも、どこかに楽しみを見つけ自らの限界に挑戦する勇気、チーム内で自らの役割を見つけ協同作業をして得られる気づき、誰かに「ヤラサレル」のではなく主体的に物事に取り組む際の手応え、これらの「生きる力」を一緒に深めてゆきましょう。（「生きる力」は生涯を通して誰もが深めてゆく必要があり、満足感のある人生や仕事の礎であると、私は思っています）

キーワード： カンボジアの伝統舞踊、現代舞踊。履修者の主体性の尊重、育成。発表機会の主催。

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： カンボジアの伝統舞踊に触れ、背景を理解しながら実際に踊ってみる。
不明な点は、周囲の人にきく、何度も復習する、等の工夫をして、発表機会では例え間違っても最後まで踊りきる。

評価方法： 実技、振り返り用紙、発表機会、学期末レポート　**評価割合：25%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 進んで意見を発表し、強みを出し合い、弱みに適宜対応する力をつけ、各自が生き生きと活動しながら、チーム全体で協力して一つの物事を達成する。

評価方法： 振り返り用紙、発表機会（準備を含む）、グループワークにおける企画書と提案書の作成。学期末レポート。　**評価割合：25%**

▼学修に主体的に取り組む態度

できるだけ休まないようにしてください。馴染みのない文化でも、主体的に、継続的に、仲間と一緒に努力を積み重ねる事で、「何とか達成できる」という経験を、「身体と頭と心」を使って得ることが、授業の狙いです。

評価割合：25%

▼実践的ボランタリズム

「各自の強みを生かしながら、チーム全体で協力して、一つの発表機会を持つ」という意識を持ち、周囲に

貢献し、仲間と協同作業を行う力を養う。

評価割合：20%

▼公正性

皆で協力して、一つの発表機会を持つ際、好き嫌いに関わらず公正な態度で周囲の仲間と関わる力を養う。
人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、個別に話し合う機会を持つ。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：アイスブレイク。カンボジア文化体験（挨拶）。カンボジア舞踊の概略・DVD鑑賞・実技体験。及び、授業の狙いの周知。
第2回：チームビルディング（カンボジア語のニックネーム作成。ペアリング）、リラックスヨガ。カンボジア民衆舞踊。カンボジアの動画（暮らし）鑑賞。
第3、4回：リラックスヨガ。カンボジア民衆舞踊。民衆舞踊メドレーの完成。カンボジアの動画（社会）鑑賞。
第5～8回：リラックスヨガ、または皆で選んだ好きなダンス。カンボジアのヒップホップまたは、ココナッツダンス（民俗舞踊）。
第9回：発表機会についての協議、企画書作成。カンボジアの衣装の着付け体験。
第10～12回：皆で選んだ好きなダンス。カンボジアのヒップホップまたは、ココナッツダンス（民俗舞踊）。発表機会の役割分担等決定。
第13回：発表会準備。着付け等。（13，14回は連続して開講できるよう調整）
第14回：発表会本番。本番の確認。グループワークによる振り返り討論。成果報告書作成。
第15回：学期末レポート指導。

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習は特に必要ありませんが、必要な方は、動画を撮ってダンスの自習をしてください。
また、発表機会の企画書作成、発表機会本番、提案書作成においては準備やまとめ作業が発生する事もあります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 質疑等は、大学に滞在する間に対応します。
また、メールアドレスを初回授業時に公開しますので、提出物等はそちらにお願いいたします。

留意事項： 現地では裸足で踊りますが、この授業では靴着用でも問題ありません。ただし、ヒール等の靴は踊りにくいので、各人の判断でご注意ください。

科目コード：14238　**科目ナンバリング：CC10C07K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ボランティア論（Volunteer Studies）

担当者：鈴木　晋介

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F M

関連資格：　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 1995年の阪神・淡路大震災、そして2011年の東日本大震災を経て、ボランティア活動の重

要性の認識がますます深まるとともに、実践のフィールドも多様な広がりをみせるようになっています。本講義では、ボランティア活動の思想の根本にある「自発性」・「非営利性」・「公共性」について歴史的背景とともに学び、国内外のさまざまなボランティア活動の実践事例にふれることで、「わたしたちにできること」について考えていきます。なお、授業では映像資料を用いてボランティアの現場に関する理解を深め、みなさんひとりひとりが自分の力で考え、実践する心構えを養うことを目指します。自分なりの問題意識をもって授業にのぞむことが求められます。

キーワード： ボランティアの歴史・思想・実践、現代ボランティアのフロンティア

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだ事項や現代ボランティアをめぐる諸問題に関して概ね80％を理解し解答することができる。

評価方法： 定期試験　　**評価割合：** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学ぶ個々のトピックに関して、自ら問題意識を深め、自分なりの考察と表現を行うことができる。

評価方法： リアクションペーパー　　**評価割合：** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等が定期試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

ボランティア実績を評価対象とすることはない。ただしリアクションペーパーの記述において、授業で学んだことを種々のボランティア活動に活かしていこうとする強い意欲を受講者からうかがうことができる場合、あるいは授業を通じてボランティアの実践に向けた意思の形成が受講者に認められた場合、評価の対象としたい（上記リアクションペーパーと合わせて評価する）。

評価割合： 10%

▼公正性

リアクションペーパーに極端な偏見や差別的表現がある場合、個別的な指導の対象となりうる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回　ガイダンス―ボランティア論とはなにか
第2回　ボランティアという言葉をめぐって
第3回　ボランティアの定義
第4回　ボランティアの条件（1）3つの必要条件
第5回　ボランティアの条件（2）5つの要点
第6回　地域の課題を発見すること―参考資料読解
第7回　日本におけるボランティアの歴史（1）歴史に散らばる「ボランティア的なもの」
第8回　日本におけるボランティアの歴史（2）近代以降における展開
第9回　日本におけるボランティアの歴史（3）1995年「ボランティア元年」以降
第10回　さまざまなボランティアの組織と用語
第11回　ボランティアの心理と動機―ひとはなぜボランティアをするのか
第12回　ボランティアの思想（1）「当事者性」の問題
第13回　ボランティアの思想（2）利他主義の向こう側へ
第14回　日本の国際ボランティア―映像資料で考える国際ボランティア（1）
第15回　映像資料で考える国際ボランティア（2）

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献等は授業時に適宜提示します。ボランティア活動の要点のひとつに自発性というものがあります。ボランティアはひとに言われてやるものではありません。ただ身近なボランティア活動に参加してみること（大学にも様々なボランティアの募集があります）は、この講義を実感として理解することに資するでしょう。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項： なし

科目コード：14249　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **法学 a（Law a）**

担当者： **古屋　等**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜1限　**履修可能学科・専攻：** C

関連資格： 教職　福祉主　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれません。しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。

キーワード： 法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法（財産法）、意思主義、契約、民法（家族法）、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合：5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1 ガイダンス
2 法とは何か
3 法の種類と存在形式
4 法の段階的構造
5 罪刑法定主義
6 犯罪の成立要件Ⅰ
7 犯罪の成立要件Ⅱ
8 刑事手続の基本原理
9 裁判手続の基本構造
10 民法の基本構造Ⅰ
11 民法の基本構造Ⅱ
12 財産関係と法Ⅰ
13 財産関係と法Ⅱ
14 家族関係と法Ⅰ
15 家族関係と法Ⅱ
16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕(成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：14249 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **法学 b(Law b)**

担当者： **古屋 等**

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜2限 **履修可能学科・専攻：** C

関連資格： 教職 福祉主 **AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに

違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれません。しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。

キーワード： 法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法（財産法）、意思主義、契約、民法（家族法）、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　　**評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合： 0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合： 5%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1　ガイダンス
2　法とは何か
3　法の種類と存在形式
4　法の段階的構造
5　罪刑法定主義
6　犯罪の成立要件Ⅰ
7　犯罪の成立要件Ⅱ
8　刑事手続の基本原理
9　裁判手続の基本構造
10 民法の基本構造Ⅰ
11 民法の基本構造Ⅱ
12 財産関係と法Ⅰ
13 財産関係と法Ⅱ

14 家族関係と法Ⅰ
15 家族関係と法Ⅱ
16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕(成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：14249 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：法学 c(Law c)

担当者：森本 敦司

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜3限 **履修可能学科・専攻：** C

関連資格： 教職 福祉主 **AL要素：** 18その他

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれません。しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている民法を通じて学んでいきます。

キーワード： 法、権利、自由、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 毎回の課題演習 **評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法という身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法： 期末テスト **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第01回】オリエンテーション：法とは何か・民法の沿革
【第02回】民法概説：財産法と家族法
【第03回】権利能力・意思能力・行為能力（1）未成年
【第04回】権利能力・意思能力・行為能力（2）成年後見
【第05回】権利の主体と客体
【第06回】代理
【第07回】時効
【第08回】物権と登記制度
【第09回】担保物権・抵当権
【第10回】契約と法（1）契約の種類
【第11回】契約と法（2）債務不履行／不法行為
【第12回】親族
【第13回】婚姻と離婚
【第14回】親子
【第15回】相続
定期試験

使用テキスト：授業で使用する資料はすべてオンラインで配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：次回のプリントは事前に配付するので、授業前に目を通しておくこと（2時間）。
また授業終了後に配布プリントによる演習問題を中心に復習をすること（2時間）。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段：講義の前後に教室にて対応します。

留意事項：デバイスを持参すること。

科目コード：14250　**科目ナンバリング**：　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）：生活と政治（Life and Politics）

担当者：林　寛一

基本情報

年次：2　**単位数**：2　**授業形式**：講義

曜時：月曜2限　**履修可能学科・専攻**：C

関連資格：教職　**AL要素**：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要：この授業は、中学校社会科教員を志望する学生のために特別に用意された科目です。講義の具体的内容は以下の原則に則したものとなります。
中学校学習指導要綱と中学校社会科教科書の内容に沿ったかたちで講義内容が設定され、授業が進められます。また、受講生が将来中学校の社会科授業を担当することを想定して、「公民」の範囲内の、主に国内外の政治について、教員として必要な基礎的な知識の修得と考え方について講義します。

キーワード： 教職、中学校社会科、公民、現代社会、民主政治、地球社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート　　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしなし。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が、学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしなし。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述において、人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回　オリエンテーション
第2回　民主政治の起源(1)
第3回　民主政治の起源(2)
第4回　民主政治の変容
第5回　福祉と政治
第6回　民主政治の様々な仕組み
第7回　選挙
第8回　議会と政党(1)
第9回　議会と政党(2)
第10回　政策過程と官僚・利益集団
第11回　世論とマスメディア
第12回　地方自治(1)
第13回　地方自治(2)
第14回　グローバル化(1)
第15回　グローバル化(2)
定期試験

使用テキスト： 出川良枝・谷口将紀編『政治学(第2版)』東京大学出版会、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと(60分)。
授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい(60分)。
参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業等でお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：20003　**科目ナンバリング：WP10C19K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **生命と倫理(Bioethics)**

担当者： **銭谷　秋生**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜5限　**履修可能学科・専攻：** W

関連資格： 教職　**AL要素：** 11. 討論

授業の概要： 今日、人間の生命の尊重は社会のもっとも基本的な規範となっています。しかし、重大な犯罪を犯した者を死刑に処することや望まない妊娠を中止することなどは、一定の条件のもとで認められています。さらに、動物の生命を奪い食することもごく普通になされています。こうしたことは、生命の尊重という社会規範と整合するものなのでしょうか。そもそもなぜ、犯罪者でも胎児でも家畜でもない、そういう人間の生命だけが尊重の対象になるのでしょうか。
この講義では、このような問題意識のもと、生命の処遇をめぐる現代の倫理的諸問題を考察します。

キーワード： 命の尊重、動物の権利、死刑、安楽死、代理出産、クローン人間の産生、殺人の禁止の根拠

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で説明を受けた「生命の処遇をめぐる現代的問題」の内容をよく理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験による。　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 同上　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【進め方】毎回、講義内容に関して学生同士の討議を行う。
【内容】
第1回：生命と倫理をめぐる今日的状況
第2回：動物にも権利を認めるべきか（1）
第3回：動物にも権利を認めるべきか（2）
第4回：死刑制度は存続させるべきか(1)
第5回：死刑制度は存続させるべきか(2)
第6回：人工妊娠中絶は認められるか(1)
第7回：人工妊娠中絶は認められるか(2)
第8回：代理出産を法的に認めてよいか(1)
第9回：代理出産を法的に認めてよいか(2)
第10回：クローン人間を産みだしてよいか(1)
第11回：クローン人間を生みだしてよいか(2)
第12回：結合双生児の分離手術をめぐって
第13回：重度障害新生児の安楽死を認めるべきか(1)
第14回：重度障害新生児の安楽死を認めるべきか(2)
第15回：精神的苦痛を理由とした安楽死の要請に応えるべきか
学期末試験

使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・毎時間学生同士の討議を導入するので、自分の考えをしっかりとまとめる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。
・参考資料は多岐にわたるので、適宜授業の中で紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、先ずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：20004 **科目ナンバリング：WP10C20K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **人間と哲学（Human and Philosophy）**

担当者： **銭谷　秋生**

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：金曜5限 **履修可能学科・専攻：** W

関連資格： 教職 **ＡＬ要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： 「単に生きるのではなく、よく生きることが大切である」という古代ギリシャのソクラテスの言葉と

ともに本格的な哲学の探究は始まりました。この講義は、「よく生きる」とはどういうことなのか、また「よく生きようとする人々を守る、正義にかなった社会」とはどのような社会なのかという問題を、原理的なところから考察することで、ソクラテスの問いかけに応答していこうとするものです。

キーワード： 魂の気づかい、刻まれぬ法としての正義、最大多数の最大幸福、幸福に値すること、自己所有権、類的権利

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で説明を受けた「よき生」や「正義にかなった社会」などの内容をよく理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験による。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 同上 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第1回：イントロダクション：よく生きることを考えるべき理由
第2回：ソクラテスの問い：魂を気遣うこと
第3回：ソフィストの問い：事柄を善らしくみせること
第4回：アリストテレスの正義論(1)：刻まれぬ法
第5回：アリストテレスの正義論(2)：その問題性
第6回：功利主義(1)：ベンサムの立場
第7回：功利主義(2)：シンガーによる展開および功利主義の問題性
第8回：カントの道徳論(1)：幸福に値すること
第9回：カントの道徳論(2)：定言命法と「目的の国」
第10回：ロールズの正義論(1)：正義の二原理の導出
第11回：ロールズの正義論(2)：正義にかなった社会
第12回：ノージックの正義論(1)：自己所有権
第13回：ノージックの正義論(2)：最小国家論
第14回：ゲワースの類的権利論(1)：権利の導出
第15回：ゲワースの類的権利論(2)：支援国家論

定期試験

使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次のものを推薦する。
『入門講義　倫理学の視座』新田孝彦著（世界思想社）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、先ずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：20006　**科目ナンバリング：WP10C21K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **人権と教育（Human Rights and Education）**

担当者： **古屋　等**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：月曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 「義務教育」とは何でしょうか。子どもが学校に行かなくてはならない義務、と誤解されていませんか。子どもは学習の主体であり、自ら学べる主体です。ですが、何を学ぶかは未知数ですので、教育の主体としての親が存在します。すなわち、学校に行かせるのは親の義務なのです。しかし、親の職業や家庭の経済状況により、就学機会に格差も生じかねないため、国が授業料の負担や教科書の無償提供など、財政的な支援を通じて子どもを中心とした家庭を支援しています。その一方、機会均等は教育成果の一定限度の実現とも読み替えられて、教育内容についても、国が学習指導要領や検定教科書を通じて介入することにより、教育を親を中心とした私的な営みから、公的な性質に転化されています。そのような中にあって、教師はどのような役割を果たすべきなのでしょうか。これから教員を目指そうとする皆さんを一緒に考えていきたいと思います。

キーワード： 憲法第26条、教育の機会均等、学習権、教育を受けさせる義務、親（教師）の教育権、国の教育権、教育委員会、学習指導要領、教科書検定、いじめ、不登校、少年法、児童虐待

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学ぶ主体としての子どもの自由を法的にいかに保障するのか、また、権利の主体として子どもの意思をいかに尊重するべきなのかを、憲法の人権論や子どもの権利条約を通じて理解するとともに、教育をめぐる法制度と子ども、親および地域住民との関係について認識できる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 教育制度や教育法制を子どもを中心にして理解できるとともに、教育の主体としての親の役割や地域住民との協働のあり方について自己の意見を持つことができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

教育において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度

を身につける。

評価割合：5%

▼実践的ボランタリズム

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

教育をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較衡量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1 ガイダンス
2 教育法規の基礎知識
3 教育の機会均等と学習権
4 子どもの人権と権利条約―4つの原則―
5 公教育と教育権論争
6 教育基本法と学校教育法
7 学校教育と教育行政―教育委員会―
8 教育内容と学習指導要領
9 教育内容と教科書（検定）
10 学校教育と教員―教員免許・服務規律―
11 学校教育と運営―校務分掌・職員会議―
12 学校と保護者・住民
13 児童生徒をめぐる諸問題①―いじめ・不登校―
14 児童生徒をめぐる諸問題②―少年法・児童虐待―
15 まとめ
16 定期試験

使用テキスト： 古田薫・山下晃一編著『法規で学ぶ教育制度』（ミネルヴァ書房）2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：20013　**科目ナンバリング：WP10C16K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：社会学 a（Sociology a）

担当者：勝山　紘子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜4限　**履修可能学科・専攻：ＷＦＮ**

関連資格： 教職　福祉主　社福士　　**ＡＬ要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード： 人間と社会、家族、性、環境、災害、教育、逸脱行動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問やディスカッションなど、積極的に参加すること。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

第1回　ガイダンス・社会学とは何か
第2回　社会学の歴史(1)
第3回　社会学の歴史(2)
第4回　社会と「私」(1)ー個人と集団、自我と他者
第5回　社会と「私」(2)ー社会的人間と社会集団
第6回　家族と社会(1)ー家族のあり方と変容
第7回　家族と社会(2)ー結婚と出産
第8回　性と社会(1)ージェンダーとセクシュアリティ
第9回　性と社会(2)ー教育・スポーツ・労働とジェンダー
第10回　不平等と格差ー一億総中流意識にみる日本の格差意識
第11回　労働と産業ー未来の仕事と働き方
第12回　消費と社会ー消費行動とマクドナルド化
第13回　コミュニティと地域社会
第14回　宗教と社会ー世界の宗教と日本人の宗教観

第15回　振り返りと統括

使用テキスト： 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 【予習】毎回、授業の前日までに授業用資料をパワーポイントでUNIPAにアップします。各自ダウンロードして目を通しておいてください。
【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の課題レポートに向けてノート等にまとめておいてください。
【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をするよう心がけてください。

科目コード：20013　**科目ナンバリング：WP10C16K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：社会学 b（Sociology b）

担当者：勝山　紘子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜4限　**履修可能学科・専攻：** ＷＦＮ

関連資格： 教職　福祉主　社福士　**ＡＬ要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード： 人間と社会、家族、性、環境、災害、教育、逸脱行動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問やディスカッションなど、積極的に参加すること。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　ガイダンス・社会学とは何か
第2回　社会学の歴史(1)
第3回　社会学の歴史(2)
第4回　社会と「私」(1)ー個人と集団、自我と他者
第5回　社会と「私」(2)ー社会的人間と社会集団
第6回　家族と社会(1)ー家族のあり方と変容
第7回　家族と社会(2)ー結婚と出産
第8回　性と社会(1)ージェンダーとセクシュアリティ
第9回　性と社会(2)ー教育・スポーツ・労働とジェンダー
第10回　不平等と格差ー一億総中流意識にみる日本の格差意識
第11回　労働と産業ー未来の仕事と働き方
第12回　消費と社会ー消費行動とマクドナルド化
第13回　コミュニティと地域社会
第14回　宗教と社会ー世界の宗教と日本人の宗教観
第15回　振り返りと統括

使用テキスト： 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
【予習】毎回、授業の前日までに授業用資料をパワーポイントでteamsにアップします。各自ダウンロードして目を通しておいてください。
【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の課題レポートに向けてノート等にまとめておいてください。
【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をするよう心がけてください。

科目コード：21042　**科目ナンバリング：WP20C16K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **感情・人格心理学(Psychology of Emotion and Personality)**

担当者： **渡邊　彰一**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** W

関連資格： 認心理　福祉心理　公認心理

AL要素： 07.発表　13.役割演技と疑似体験　16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 【特例期間中の授業形態】課題研究型
下記に示した4点についての理解を本講の目的とする。

・パーソナリティの概念とその形成過程
・パーソナリティの類型論と特性論
・感情に関する理論及び感情が喚起されるメカニズム
・感情が行動や認知に及ぼす影響

本講においては，心理学領域の中でも「人格心理学」と「感情心理学」の基礎を学ぶ。
人格（パーソナリティ）の一側面に感情機能が含まれるため，主として人格に関する理論を先行して学び，その後，感情（情動・気分・情緒等）の生物学的基礎と神経生理学的秩序，およびそれらが認知や行動に及ぼす影響についての理解を深める。なお，指定したテキスト（受講者全員購入）を中心に，授業担当者としての実務経験を活かし，適宜事例を紹介しながら具体的な形で講義を進めることとする。
※授業開始までに指定教科書を購入しておくこと。

キーワード： パーソナリティとキャラクター　観察法　実験法　面接法　アイデンティティ　ストレス　引きこもり　性同一性障害等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ①人格の形成過程や基礎的な理論についての理解を深め，そのアセスメントや障害への心理的支援に役立てることができる。
②人の感情に関する心理学的知見を得て，それらを人の精神的健康の維持や増進に寄与する支援に活用することができる。

評価方法： 定期試験　　**評価割合：**60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 上記，「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法：・定期試験
・レポート
・コメントシート　　**評価割合：**40%

▼学修に主体的に取り組む態度

＜事前学修＞
次回の講義内容に向けて指示した教科書の部分を読み込むなどして自主的・主体的に授業に取り組むこと。
＜事後学修＞
講義・討議内容等の復習及び次回講義内容に向けた課題の予習並びに疑問点の確認を行っておくこと。基本的に毎講義時に，講義内容の復習，次回講義に向けた予習課題等の指示を行うので，講義のテーマに関連した学修を幅広く行っておくことが望まれる。

評価割合：上記「思考力・判断力・表現力」に含む。

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし，ボランティア活動等の実践により深められた知見等が定期試験，レポート，コメントシート等の記述内容に顕著に認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

講義中の言動や定期試験及びレポート並びにコメントシートの記述等において，人権侵害・差別的発言等，著しく公共性を欠く記述等が確認された場合，減点や厳重注意の対象とするので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

各人が日常感じていること，講義を通して感じたことなど，受講学生間での討議・発表等を行うので，積極的な参加姿勢・態度を期待したい。

評価割合：各人が日常感じていること，講義を

授業計画：
第1回：オリエンテーション（講義の目的・評価方法等）
第2回：パーソナリティの理論
第3回：類型論・特性論，パーソナリティの5つの次元（5因子モデル）
第4回：パーソナリティ測定方法1
第5回：パーソナリティ測定方法2
第6回：様々な心理学の立場によるパーソナリティのとらえ方
第7回：パーソナリティの発達とその関連要因
第8回：パーソナリティ障害（DSM−5・ICD10）
第9回：感情の定義と構成要素
第10回：感情喚起のメカニズムと理論
第11回：基本感情説と次元説
第12回：感情の生物学的基礎と神経生理学的メカニズム
第13回：感情の機能と役割
第14回：感情が行動や認知に及ぼす影響
第15回：まとめ（振り返り）
定期試験
なお，上記授業計画に関して変更する可能性がある。

使用テキスト：【教科書】島 義弘（編）『「パーソナリティと感情の心理学」ライブラリ心理学を学ぶ6』（サイエンス社 2017 本体 2200円）
※上記テキスト（教科書）が必須です。全員初回授業までに必ず購入・入手しておくこと。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
＜予習・復習＞
「学修に主体的に取り組む態度」の項目に同じ

＜参考文献・資料等＞
鈴木公啓 ほか 「パーソナリティ心理学入門 ストーリーとトッピックで学ぶ心の個性」（ナカニシア出版 2018）
二宮克美，子安増生ほか（編）「『パーソナリティ心理学』キーワードで学ぶパーソナリティ心理学」（新曜社 2006〜）
二宮克美 ほか（編）「パーソナリティ心理学ハンドブック」（福村出版 2013）
ほか，講義で用いる資料は適宜配布する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので，まずは学務部等に申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 授業・講義の前後に直接申し出てください。

留意事項： 特になし

科目コード：21048 **科目ナンバリング：WP20C18K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：深層心理学（Depth Psychology）

担当者：岩﨑 眞和

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：木曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：認心理 福祉心理 **AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要： 心理学は人の心（こころ）の理（ことわり）を探究する学問です。なかでも「深層心理学」は意識とは異なる私たちが普段は意識し得ないこころ（無意識）の動き，の法則性を探求する学問領域です。心理学領域では「無意識の心理学」とされ，1800年代後半にフロイトやユング，

アドラーといった力動的精神医学者たちによって確立され現在に至っています。本講義では，現代的なトピックや映画，作品などの視聴覚素材も活用しながら，現代のポストコロナ時代を生きる日本人の無意識について学びます。

キーワード： 意識、無意識、精神分析，分析心理学，分人主義，夢分析，文化，日本人 など

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で学んだ事柄について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 中間・学期末レポート(2本)　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・無意識や意識に関する心理学的知見について理解することができる。
・講義の学びを自身の体験と照合しながら考察できる。

評価方法： 中間・学期末レポート(2本)　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。公正性を欠く言動などが認められた場合は指導の対象となることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第01回】オリエンテーション―本授業のねらいと進め方―
【第02回】こころの成り立ち：分かち合うこころ
【第03回】日本人の無意識の原風景
【第04回】感情の役割(1)
【第05回】感情の役割(2)
【第06回】分析心理学(1)
【第07回】分析心理学(2)
【第08回】無意識と文化
【第09回】影との対峙
【第10回】影との対話
【第11回】文化と幸福感
【第12回】こころの発達(1)
【第13回】こころの発達(2)
【第14回】コロナと無意識
【第15回】まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は随時印刷・配布しますが，下記テキストをレポート素材としますので生協等でご購入ください。
平野啓一郎(2012)私とは何か―「個人」から「分人」へ　講談社現代新書

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： teamsを介してアナウンスすることが多いので，そちらでもあるいはメールでも結構です。

留 意 事 項： ・初回の講義には必ずご出席ください。15回の見通しをお伝えします。
・学習環境を保つため，他の受講生の迷惑になる行為（特に私語や携帯電話の使用など）をしないこと。
・W科以外の学生さんはオリエンテーション時にお伝えすることがありますので，初回の授業後にお集まりください。
・本講義は毎回出席を取ります，「出席状況（リアクション含む）」と「2本の中間＆最終レポート（teams上で電子媒体提出）」が大きな評価対象となりますのでご留意ください。
・何らかの実習等がある場合は，欠席届をご提出いただければ考慮します。
・コロナ感染状況や履修学生さんたちに応じて15回の講義編成内容に変更があるかもしれませんのでご理解ください。
・本講義では視聴覚素材を活用しますが，大きな音声や光に特異的な苦手さや苦痛を体験する学生さんはあらかじめお申し出ください（一時退出も検討します），出席状況等に問題が無いようでしたら代替レポートを準備したいと思います。

科 目 コ ー ド：21053　　**科目ナンバリング：WP30C04K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **癒しのセラピー（Therapy for Healing）**

担 当 者： **山川　誠司**

基 本 情 報

年 次 ：3　　**単 位 数：2**　　**授業形式：講義**

曜 時 ：火曜2限　　**履修可能学科・専攻：** Ｅ Pe Pc Ｃ Ｗ Ｆ Ｎ Ｍ

関 連 資 格： 福祉心理　　**ＡＬ 要 素：** 07 発表
11 討論
14 輪読活動
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授 業 の 概 要： 「癒し」を科学的視点から適切に捉えるとともに、それを日常生活に活用できる方法を体得するために、さまざまな体験を行います。体験の前後に解説とともに関連文献等の詳読を行い理解を深めます。

キーワード： Well-being　健康　QOL　自律神経　科学的根拠

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 現代社会において多様な観点から注目される「癒し」を科学的な視点から適切に捉えることができるようになる。あわせてその効果を自他の生活の質の向上や自己実現にいかすために必要な知識や技術について理解する。

評価方法： 発表
レポート
授業内確認テスト　　**評 価 割 合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義で取り上げた内容について、関連する講義や経験を含めて総合的な観点から考察し、論理的かつ倫理性を踏まえた視点をもって正しく表現することができる。

評価方法： 発表
レポート
授業内確認テスト　　**評 価 割 合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加，他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は，減点や厳重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合，問題があると判断された場合は，減点や厳重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. オリエンテーション
2. 体験を通して「癒し」を感じる
3. 体験の振り返りと解説
4. 「癒し」の定義
5. 現代社会における「癒し」の実際
6. セラピーの実際1（音楽療法）
7. セラピーの実際2（音楽療法体験）
8. セラピーの実際3（芸術療法とダンス）
9. セラピーの実際4（芸術療法と絵画）
10. セラピーの実際5（森林療法）
11. セラピーの実際6（森林療法体験）
12. セラピーの実際7（園芸療法）
13. セラピーの実際8（動物介在療法）
14. セラピーをめぐる現状と課題
15. まとめ

授業計画は、順序、回数、内容等が変更になることがあります。詳しくはIC-UNIPAによる配信でご確認ください。

使用テキスト： 授業に必要な資料はすべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 心理学の学びが基礎になる科目です。専門用語については、予習復習をしておくとよいでしょう。また、セラピーが実践されている主要な場や参加者として障害児・者やその家族が挙げられますが、それらの方々やその特性についての基本的理解についても事前学習の段階で行っておくとよりよい学びにつながるでしょう。なおセラピー体験の内容によっては、集合場所が教室以外であったり特別な持ち物が必要になる場合があります。持ち物については、コロナ等感染症拡大防止のために個別で持参することし、相互の貸し借りや貸し出しは行いません。忘れ物があると授業に参加できないことがあります。事前準備の段階で忘れ物や誤りのないよう、各自で確認を行ってください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので，まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 特になし。

科目コード：21062 **科目ナンバリング：WP21C06K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **心理福祉特講A（Special Lecture A）**

担当者： **山川 誠司**

基本情報

年 次 :2　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 火曜2限　　**履修可能学科・専攻:** Ｅ Pe Pc Ｃ Ｗ Ｆ Ｎ Ｍ

関 連 資 格 :　　**ＡＬ 要 素 :** 07 発表
08 協同学修
11 討論
17 発問と応答

授業の概要: コミュニケーションは日々の生活の中で必要なものです。語源では多くの人に共通のものとするいうニュアンスがあります。何かを伝える行為や聴き方だけではなく、コミュニケーションを通して、「意味を共有する」という視点を理解し、円滑な対人関係を築く土台にしていけることを主題として授業を進めていきます。

キーワード: 自己理解、他者理解、関係理解、多様性、

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: ・コミュニケーションの基本を理解し、実際に活用する土台をつくることができる
・コミュニケーションを通して、自己や他者理解を深める視点を得ることができる
・コミュニケーションによるストレスの仕組みと対処法を理解することができる

評価方法: 授業内での小テスト2回　　**評 価 割 合 : 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・コミュニケーションの多様性、多層性、多面性を理解し、対人関係に葛藤が生じた時に、その視点を踏まえた自己表現ができる。

評価方法: 課題レポート　　**評 価 割 合 : 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加，他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は，減点や厳重注意の対象となる。

評 価 割 合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。

評 価 割 合 : 0%

▼ 公 正 性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合，問題があると判断された場合は，減点や厳重注意の対象となる。

評 価 割 合 : 0%

▼ そ の 他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 :
第1回 オリエンテーション　:コミュニケーション概論で目指すもの
第2回コミュニケーションの基礎
第3回コミュニケーションをする自己理解
第4回コミュニケーションをする他者理解
第5回コミュニケーションをする関係性理解
第6回言語的コミュニケーション1:伝え方
第7回言語的コミュニケーション2:伝わり方
第8回非言語的コミュニケーション1:伝え方
第9回非言語的コミュニケーション2:伝わり方
第10回　インターネット・コミュニケーション
第11回　組織・集団内のコミュニケーション1

第12回　組織・集団内のコミュニケーション2
第13回　コミュニケーション効果
第14回　対人ストレスの自覚と対処法
第15回　授業全体のまとめ

使用テキスト： 授業に必要な資料はすべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： コミュニケーションは今までとは少し違った視点を持つだけでも対人関係が変化します。医療や福祉領域で仕事をする上でも必要になります。授業では自分自身の対人関係を振り返り、実際の生活の中で活用する意識で授業に臨んでください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので，まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 特になし

科目コード：21076　**科目ナンバリング：WP20C07K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：社会福祉調査の基礎（Methods for Social Research）

担当者：藤島　稔弘

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** W

関連資格： 福祉主　社福士　福祉心理

ＡＬ要素： 05.即時応答
07.発表
08.協同学修
10.資料調査課題
11.討論
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型
社会調査法の基本的なプロセスやデザイン、手法など解説していきます。社会調査のプロセスに沿った解説を行うとともに、グループ単位で調査のデザイン、実査、データ分析、報告などのプロセスを体験する。

キーワード： 社会福祉調査法、量的調査法、質的調査法、データ分析

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた社会調査の基本的な種類、プロセス、デザイン、方法、サンプリング、分析について、概ね80％の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： ワークシート
小テスト
期末試験

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート
期末試験

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加さえた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回：社会福祉調査の意義と目的(1)
第2回：社会福祉調査の意義と目的(2)
第3回：社会福祉調査における倫理と個人情報保護
第4回：社会福祉調査のデザイン(1)調査における考え方と論理
第5回：社会福祉調査のデザイン(2)調査のプロセス
第6回：社会福祉調査のデザイン(3)調査の目的と対象
第7回：社会福祉調査のデザイン(4)データ収集と分析
第8回：量的調査の方法(1)量的調査の概要
第9回：量的調査の方法(2)量的調査のデータ収集方法
第10回：量的調査の方法(3)量的調査の分析
第11回：質的調査の方法(1)質的調査の概要
第12回：質的調査の方法(2)質的調査のデータ収集方法
第13回：質的調査の方法(3)質的調査の分析
第14回：ソーシャルワークにおける評価(1)評価対象
第15回：ソーシャルワークにおける評価(2)評価方法

使用テキスト： 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉士養成講座　社会福祉調査の基礎』中央法規(最新版)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業終了時に事前課題を提示する場合があり、次回までに取り組んで参加すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：21099　**科目ナンバリング：WP11A01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： **心理学概論I(Introduction to Psychology I)**

担当者： **青木　万里**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** W

関連資格： 福祉主　社福士　認心理　福祉心理　公認心理

AL要素： 17：発問と回答

授業の概要： 心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きを心理学の様々な分野の紹介を中心に講義する。

キーワード： 心の成り立ち
心の仕組み
心の働き

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 心理学の主要分野を幅広く学ぶことで心理学を概観し、心理学の基礎知識を習得する。

評価方法： 定期試験
小テスト

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 人の心の機能について、基本的理解を深め、他人や自分の行動についての洞察力を養う。

評価方法： 定期試験
小テスト

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。
ただし受講態度が他の学生の学修の模範となる場合は、上記の項目「知識・技能」もしくは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
また逆に、受講態度が他の学生の学修や授業の円滑な進行に支障をきたすような場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。
ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】オリエンテーション
【第02回】心理学とは何か
【第03回】人は周りの世界をどのように知覚するのか-1
【第04回】人は周りの世界をどのように知覚するのか-2
【第05回】人は物事をどのように覚えるのか-1
【第06回】人は物事をどのように覚えるのか-2
【第07回】人は物事をどのように学ぶのか-1
【第08回】人は物事をどのように学ぶのか-2
【第09回】人は物事をどのように考えるのだろうか-1
【第10回】人は物事をどのように考えるのだろうか-2
【第11回】人はどのように成長するのだろうか-1
【第12回】人はどのように成長するのだろうか-2
【第13回】人はどのように言葉を話せるようになるのか-1

【第14回】人はどのように言葉を話せるようになるのか-2
【第15回】総括
定期試験

使用テキスト： 資料は適宜、印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業での学びをしっかり復習(90分)し、定期試験に備えて知識の定着(90分)を図ってください。
※授業で扱うテーマについて自分の心に照らし合わせて考え、心理学の視点から物事を理解する力を養うようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします

留意事項：

○卒業のための必修科目となります。
○授業を進めるにあたって大事な話をするため、初回の授業には必ず出席してください。
○やむを得ず初回の授業を休む場合は、事前に科目担当者(maoki@icc.ac.jp)にメールで欠席の理由などを連絡してください。
○初回の授業で座席の指定を行います。
○履修要覧の「授業を受ける際のマナー」を遵守してください。

※小テストの実施は受講生の学習状況に合わせて検討します。

科目コード：21100　**科目ナンバリング：WP12A01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **心理学概論II（Introduction to Psychology II）**

担当者： **青木　万里**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜2限　**履修可能学科・専攻：** W

関連資格： 福祉主　社福士　認心理　福祉心理　**ＡＬ要素：** 17：発問と回答

授業の概要：

心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きを心理学の様々な分野の紹介を中心に講義する。

キーワード： 心の成り立ち
心の仕組み
心の働き

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 心理学の主要分野を幅広く学ぶことで心理学を概観し、心理学の基礎知識を習得する。

評価方法： 授業時内試験もしくはレポート(複数回)　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 人の心の機能について、基本的理解を深め、他人や自分の行動についての洞察力を養う。

評価方法： 授業時内試験もしくはレポート(複数回)　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし受講態度が他の学生の学修の模範となる場合は、上記の項目「知識・技能」もしくは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
また逆に、受講態度が他の学生の学修や授業の円滑な進行に支障をきたすような場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。
ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第01回】人は周りの世界にどうやって適応していくのか-1
【第02回】人は周りの世界にどうやって適応していくのか-2
【第03回】人は周りの世界にどうやって適応していくのか-3
【第04回】人は周りの世界にどうやって適応していくのか-4
【第05回】人の性格はどうやって作られるのか-1
【第06回】人の性格はどうやって作られるのか-2
【第07回】人の性格はどうやって作られるのか-3
【第08回】集団・社会との関わりについて考える-1
【第09回】集団・社会との関わりについて考える-2
【第10回】集団・社会との関わりについて考える-3
【第11回】脳と心の働きについて考える-1
【第12回】脳と心の働きについて考える-2
【第13回】心の問題について考える-1
【第14回】心の問題について考える-2
【第15回】心の問題について考える-3

使用テキスト： 資料は適宜、印刷・配布もしくは配信する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業での学びをしっかりと復習(90分)し、試験やレポートに備えて知識の定着(90分)を図ってください。
※授業で扱うテーマについて自分の心に照らし合わせて考え、心理学の視点から物事を理解する力を養うようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします。

留意事項：
○卒業のための必修科目となります。
○「心理学概論Ⅰ」で学んだ知識を前提に授業が進みます。
○初回の授業からテーマに沿った学習をしていくので、必ず出席してください。
○一つのテーマを回数を重ねて深めていくため、授業を欠席すると試験やレポート作成に学習成果が期待できません。成績評価や単位取得に支障が出ます。

※受講状況に合わせて授業テーマの順番や回数などは変更する可能性があります。
※受講状況に合わせて評価方法を変更する可能性があります。

科目コード：21115　**科目ナンバリング：WP20C01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： 社会福祉発達史A（History and Development of Social Work A）

担 当 者： 田家　英二

基本情報

年 次 ：2　　**単 位 数 ：**2　　**授業形式：**講義

曜 時 ：月曜3限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N

関 連 資 格： 教職　福祉主　福祉心理　　**ＡＬ要素：** 10. 資料調査課題
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

欧米における社会福祉の発達過程についてふれることを通して、その先駆的な歴史の流れから、社会福祉の思想の変遷を学び、社会福祉における普遍的な思想や原理を理解する。社会福祉について時代背景を踏まえた理解を深め、その問題点や解決策を探る。

授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可（情報端末必携）。

質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。

授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。

評価は、授業内課題（レポート）で行う。

キーワード： エリザベス救貧法、新救貧法、慈善組織化運動、セツルメント運動、ベヴァリッジ報告

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 社会的事象の歴史的な見方や考え方を修得することができる。
社会福祉の歴史的展開過程を探究し、その発展の要因を考察することができる。

評価方法： 授業内課題で評価。　　**評価割合：**50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会福祉が、どのような社会状況のもとで、どのように成立し、いかに展開してきたかを知ることにより、現状を分析し、未来の展望を試みることができる。
授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 授業内課題で評価。　　**評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや期末試験等の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。課題レポートの記述においては社会的倫理に適う公正性に十分留意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【前期】
資料をUNIPAで提供します。質問は、メールでも受け付けます。
第1回：ガイダンスおよび社会福祉における歴史的研究の意義と課題
第2回：イギリスの社会福祉のあゆみ（1）中世社会の慈善事業
第3回：イギリスの社会福祉のあゆみ（2）キリスト教の慈善事業
第4回：イギリスの社会福祉のあゆみ（3）救貧法の成立
第5回：イギリスの社会福祉のあゆみ（4）新救貧法の成立
第6回：イギリスの社会福祉のあゆみ（5）社会事業の成立
第7回：イギリスの社会福祉のあゆみ（6）福祉国家と社会福祉の展開と福祉改革
第8回：アメリカの社会福祉のあゆみ（1）植民地時代の救貧体制から社会保障の成立まで
第9回：アメリカの社会福祉のあゆみ（2）専門社会事業の確立
第10回：アメリカの社会福祉のあゆみ（3）第二次世界大戦後の社会福祉と福祉権運動
第11回：スウェーデン・デンマークのの社会福祉と社会保障制度
第12回：西欧の歴史と人物、そして福祉（1）
第13回：西欧の歴史と人物、そして福祉（2）
第14回：西欧の歴史と人物、そして福祉（3）
第15回：西欧の歴史と人物、そして福祉のまとめ
適宜、授業内課題の提出を求める。

使用テキスト： 授業資料はUNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習：各回のテーマについて予め参考文献の関連事項を読んでおくと理解が深まります。(90分)
復習：配付された資料にでているキーワードを中心に関連項目について調べたり、さらに自主的に関連文献を読んでノートにまとめるなど能動的学修を進めてください。(90分)
参考文献：室田保夫編著『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房、2013年
右田紀久恵、高沢武史、古川孝順編『社会福祉の歴史−政策と運動の展開−』（新版）有斐閣選書、2012年
その他、授業時に随時紹介します。

障がいのある履修者への対応： 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応致します。来校ができない場合は、メールで対応します。

留意事項： 【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題にコメントを付与する。

科目コード：21116 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：社会福祉発達史B（History and Development of Social Work B）

担当者：田家　英二

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N

関連資格： 教職　福祉主　福祉心理 **AL要素：** 10. 資料調査課題
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業（遠隔授業を希望する学生はメールにて連絡をください）
わが国の社会福祉の歴史について、前史としての古代社会や封建社会の動向から、近代社会以降、さらに戦前と戦後の時代的変遷とその特徴を検討することで、社会福祉について

時代的背景を踏まえた理解を深め、その問題点や解決策を探る。
授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可（情報端末必携）。
質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。
授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。
評価は、授業内課題（レポート）で行う。

キーワード： 恤救規則、救護法、社会福祉三法と社会福祉事業法、社会福祉六法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会的事象の歴史的な見方や考え方を修得することができる。
社会福祉の歴史的展開過程を探究し、その発展の要因を考察することができる。

評価方法： 授業内課題で評価する　　**評価割合：**50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会福祉が、どのような社会状況のもとで、どのように成立し、いかに展開してきたかを知ることにより、現状を分析し、未来の展望を試みることができる。
授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：授業内課題で評価する　　**評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや期末試験等の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。課題レポートの記述においては社会的倫理に適う公正性に十分留意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【後期】
第1回：古代から中世社会の慈善救済
第2回：前期・後期封建社会と慈善救済
第3回：明治維新と公的救済制度（恤救規則）
第4回：社会事業の成立と展開（救護法）
第5回：社会事業から戦時厚生事業へ
第6回：戦後改革期の社会福祉
第7回：福祉三法の成立
第8回：社会福祉事業法と福祉の近代化
第9回：福祉六法体制

第10回:高度経済成長期の社会福祉
第11回:低成長期と福祉見直し論から現代社会福祉
第12回:日本の社会福祉と人物(1)
第13回:日本の社会福祉と人物(2)
第14回:日本の社会福祉と人物(3)
第15回:日本のソーシャルワークの歴史
適宜、授業内課題の提出を求める。

使用テキスト: 授業資料はUNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:各回のテーマについて予め参考文献の関連事項を読んでおくと理解が深まります。(90分)
復習:配付された資料にでているキーワードを中心に関連項目について調べたり、さらに自主的に関連文献を読んでノートにまとめるなど能動的学修を進めてください。(90分)
参考文献: 室田保夫編著『人物でよむ社会福祉の思想と理論』ミネルヴァ書房、2010年
右田紀久恵、高沢武史、古川孝順編『社会福祉の歴史-政策と運動の展開-』(新版) 有斐閣選書、2012年
その他、授業時に随時紹介します。

障がいのある履修者への対応: 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応致します。来校できない場合は、メールで対応します。

留意事項: 【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題にコメントを付与する。

科目コード:21124 **科目ナンバリング:WP10C30K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 健康・医療心理学(Health and Medical Psychology)

担当者: 渡邊 彰一

基本情報

年次:カリキュラム **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:水曜3限 **履修可能学科・専攻:** W

関連資格: 福祉心理 公認心理 **AL要素:** 11:討論
14:輪読活動
16:振返用紙・応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型
本講では公認心理師等の資格取得に必要な医療保健領域における実践的な心理学的知見について学ぶ(公認心理師学部養成課程必須科目)。心理学領域として, 健康心理学, 医療心理学の双方に焦点を当て, テキスト各単元について輪読活動, グループ討論, まとめのサイクルを繰り返す。社会福祉士や医療福祉領域への就職を考えている学部生においても有用な知見を共有する。さらに、学びを促進するために、授業担当者として医療領域等での臨床(実務)経験を踏まえ、医療現場の実態に裏づけられた内容の授業を行う。

＜授業の目的・ねらい＞
・ストレスの生理と心身の疾病の発症メカニズム
・医療現場における心理社会的課題と支援方法
・保健活動における心理的支援の実際
・災害時における心理的支援の方法と実際
＜達成課題＞
・ストレスと心身の疾病との関係について説明できる。
・医療現場における心理社会的課題について説明できる。

・医療現場における必要な支援方法，連携の在り方について説明できる。
・さまざまな保健活動における必要な心理的支援について説明できる。
・災害時などの有事に際し，必要な心理的支援について説明できる。

キーワード： 健康心理学，医療心理学，災害心理学，多職種協働など

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義内容に関して，おおむね8割の内容を理解した上で，グループレポート（含むプレゼンテーション）と定期試験において解答することができる。

評価方法： グループレポート，定期試験　　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義内容に関して，自主的な学びで得た知見や経験を踏まえて考察し，論理的かつ簡潔に解答することができる。

評価方法： 定期試験，リアクションペーパー　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学び，経験が授業態度や定期試験の記述内容に認められる場合は，上記項目の評価に含める。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

講義時や筆記試験等において，人権の侵害，差別的な内容など著しく公正性を欠く言動，記述等が認められた場合，またカンニング等の不正行為が認められた場合は，減点や注意の対象とするので十分留意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　オリエンテーション（講義の目的と評価方法，テキストの各章の決定等）
※初回授業時，輪読のグループ分けを行います。
第2回　健康心理学
第3回　健康心理学におけるアセスメントと支援
第4回　心の健康とストレスマネジメント
第5回　健康心理学における心理的支援法
第6回　医療心理学
第7回　医療心理学におけるアセスメントと支援
第8回　精神科と児童精神科
第9回　院内独立型心理室の実際
第10回　心療内科
第11回　小児期，周産期，緩和医療の領域
第12回　地域保健活動の実際
第13回　災害心理学
第14回　多職種協働と医療連携
第15回　まとめ
定期試験
※上記授業計画に関して，変更する可能性がある。

使用テキスト： 宮脇　稔，大野太郎他（編著） 2018 「公認心理師カリキュラム準拠　健康・医療心理学」医歯薬出版（株）
※上記テキスト(教科書)が必須です。テキストの各章を輪読しグループでまとめ，プレゼンテーションして授業を進めます。初回授業までに全員必ず購入してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業・講義時，適宜必要な文献等を紹介します。

障がいのある履修者への対応： ※可能な限り対応します。まずは学務部へ申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 授業・講義の前後に直接申し出てください。

留意事項： 本講は，グループでレポートを作成し，その内容をプレゼンテーションしながら各グループでの相互理解を深めていく輪読活動が必須です。各自が自主的・主体的に授業・講義に臨む姿勢が求められます。
※欠席回数が規定を超えると学則に基づき単位取得はできないので注意すること。

科目コード：21139　　**科目ナンバリング：WP11C06K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **児童・家庭福祉Ⅰ（Child Welfare・Child and Family Welfare Ⅰ）**

担当者： **田家　英二**

基本情報

年次：1　　**単位数：2**　　**授業形式：講義**

曜時：木曜5限　　**履修可能学科・専攻：** Ｅ Pe Pc Ｃ Ｗ Ｆ Ｎ Ｍ

関連資格： 教職　福祉主　社福士　福祉心理　　**ＡＬ要素：** 10.資料調査課題
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 【特例期間中の授業形態】課題研究型、授業内課題（UNIPAの課題管理での課題提出）。
少子・高齢化の進行とともに、児童虐待の問題等子どもや家庭をとりまく問題が複雑化してきているなかで、これからの児童福祉は、子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した子ども家庭福祉への転換が求められるようになってきています。そのような社会状況の変化を踏まえて、子ども家庭福祉の理念や歴史、制度に関する知識についての理解を深めます。講義内容は、現代社会における子どもや子育て家庭の現状、子ども家庭福祉の理念、日本および諸外国における児童福祉の歴史、法体系と制度、子ども家庭福祉サービスの現状などについての解説をします。
授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可（情報端末必携）。
質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。
授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。
評価は、期末試験及び授業内課題（レポート）で行う。

キーワード： 子ども家庭福祉の理念、少子高齢化、子どもの権利、児童福祉法、子育て支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 児童福祉関係法規の理解、子ども家庭福祉の現状とサービスの理解、並びに課題や実践に関する知識を修得し、理解を深めることができる。

評価方法： 授業内課題およびレポートにより評価。　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 児童福祉の理念や歴史、制度や子ども子育て支援についての知識を修得し、理解を深め、さらに、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：授業内課題およびレポートにより評価。　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題や期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それが課題や期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価 の上で考慮される。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

授業内課題（レポート）における不正行為、他者の論文等のコピーについては厳正に対処する。

評価割合：授業内課題（レポート）における不

授業計画：　資料をUNIPAで提供します。質問は、IC UNIPAのメールまたはTeamsを活用する予定。
第1回：子供の理解ー子ども家庭福祉を学ぶにあたって
第2回：子どもたちを取り巻く社会の現状
第3回：子どもとその家族が直面している問題ー子ども・子育てに関する問題ー
第4回：子ども家庭福祉とは
第5回：子どもの権利と子ども家庭福祉の理念
第6回：子ども家庭福祉の理念と概念
第7回：子どもの権利
第8回：西欧の児童福祉の歴史
第9回：日本の児童福祉の歴史
第10回：子ども家庭福祉に関する法制度
第11回：子ども家庭福祉の行財政と実施体制
第12回：児童福祉施設と専門職
第13回：少子化対策と保育施策
第14回：子どもの健全育成・地域子育て支援に関するサービス
第15回：現代社会と子ども家庭福祉についてのまとめ
　　授業内課題およびレポート

使用テキスト：　比嘉眞人監修『輝く子どもたち　子ども家庭福祉論【第2版】』みらい、2022.
＊必ず【第2版】を購入してください。
資料は、UNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：　予習：教科書や参考図書の関連項目に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます。（90分）
復習：新聞や雑誌で取り上げられた記事や社会福祉の他の専門科目で学んだ内容とリンクさせて復習すると一層理解が深まります。（90分）
参考書・参考資料等については授業時に随時紹介します。
情報端末機器の活用を認めます。

障がいのある履修者への対応：　合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段：　オフィスアワー、研究室で対応致します。来校できない場合は、メールを活用します。

留意事項：　本科目は心理福祉学科の福祉系専門科目ですので、受講希望者が多い場合は心理福祉学科所属の

学生の受講を優先します。

【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題などにコメントを付与する。

科 目 コ ー ド :21140　　**科目ナンバリング : WP12C04K**　　**主な使用言語 : 日本語**

授業名（英文）: 児童・家庭福祉Ⅱ（Child Welfare・Child and Family Welfare Ⅱ）

担 当 者 : 田家　英二

基 本 情 報

年 次 :1　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 木曜5限　　**履修可能学科・専攻:** Ｅ Pe Pc Ｃ Ｗ Ｆ Ｎ Ｍ

関 連 資 格 : 教職　福祉主　社福士　福祉心理　　**ＡＬ要 素 :** 10.資料調査課題
16.振り返り用紙と応答

授 業 の 概 要 : 【特例期間中の授業形態】課題研究型、授業内課題（UNIPAの課題管理での課題提出）。
少子・高齢化の進行とともに、児童虐待の問題等子どもや家庭をとりまく問題が複雑化してきているなかで、これからの児童福祉は、子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した子ども家庭福祉への転換が求められるようになってきています。そのような社会状況の変化を踏まえて、子ども家庭福祉の理念や歴史、制度に関する知識についての理解を深めます。講義内容は、現代社会における子どもや子育て家庭の現状、子ども家庭福祉の理念、日本および諸外国における児童福祉の歴史、法体系と制度、子ども家庭福祉サービスの現状などについての解説をします。
授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可（情報端末必携）。
質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。
授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。
評価は、授業内課題（レポート）で行う。

キーワード : 子ども家庭福祉の理念、児童福祉法、子育て支援、母子保健、社会的養護、障害児支援

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 児童福祉関係法規の理解、子ども家庭福祉の現状とサービスの理解、並びに課題や実践に関する知識を修得し、理解を深めることができる。
さらに、母子保健および子ども子育て支援、社会的養護、障害児支援の現状に関する知識を修得し、理解を深めることができる。

評価方法: 授業内課題　　**評 価 割 合 :** 50%

▼思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力

到達目標: 児童福祉の理念や歴史、制度や子ども子育て支援についての知識を修得し、理解を深め、さらに、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 授業内課題　　**評 価 割 合 :** 50%

▼学 修 に 主 体 的 に 取 り 組 む 態 度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題や定期試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼実 践 的 ボ ラ ン タ リ ズ ム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深め

られ、それが課題や定期試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価 の上で考慮される。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

授業内課題（レポート）における不正行為、他者の論文等のコピーについては厳正に対処する。

評価割合：授業内課題（レポート）における不

授業計画：
第1回：母子保健
第2回：障害児と家族への支援
第3回：児童健全育成
第4回：保育
第5回：子育て支援
第6回：ひとり親家庭の福祉
第7回：児童の社会的養護
第8回：非行児童と支援
第9回：情緒障害児と支援
第10回：児童虐待対策
第11回：女性福祉
第12回：子ども家庭への相談援助
第13回：施設ケア
第14回：子ども家庭福祉と地域援助
第15回：子ども家庭福祉についてのまとめ
授業内課題

使用テキスト： 比嘉眞人監修『輝く子どもたち　子ども家庭福祉論【第2版】』みらい、2022.
必ず【第2版】を購入してください。
授業資料はUNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習：教科書や参考図書の関連項目に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます。（90分）
復習：新聞や雑誌で取り上げられた記事や社会福祉の他の専門科目で学んだ内容とリンクさせて復習すると一層理解が深まります。（90分）
参考書・参考資料等については授業時に随時紹介します。
情報機器端末の活用を認めます。

障がいのある履修者への対応： 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー、研究室で対応致します。来校できない場合は、メールを活用します。

留意事項： 本科目は心理福祉学科の福祉系専門科目ですので、受講希望者が多い場合は心理福祉学科所属の学生の受講を優先します。

【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題などにコメントを付与する。

科目コード：21143　**科目ナンバリング：WP11C08K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **高齢者福祉I（Social Welfare for the Elderly I）**

担当者： **池田　幸也**

基本情報

年 次 : 1　　**単 位 数 :** 2　　**授業形式 :** 講義

曜 時 : 木曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 : 教職　福祉主　社福士　福祉心理　　**A L 要 素 :** 16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授 業 の 概 要 : 【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

前期の「高齢者福祉Ⅰ」では、高齢者に関する理解を中心に高齢者を取り巻く社会情勢の理解を深め、高齢者福祉の発展過程をたどる。高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。これらをもとに高齢者の生活実態を踏まえた、家族や地域社会の現状を理解し、介護サービスの実際の理解を深める。さらに介護保険制度の現状について、自ら考察できるように講義を進める。
本講義に引き続き、後期開講の「高齢者福祉Ⅱ」を継続して履修することが望ましい。

キーワード : 老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80％の事項を理解し、回答することが出来る。

評価方法: 試験　　**評 価 割 合 :** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現すること ができる。

評価方法: 試験　　**評 価 割 合 :** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。
提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。

評 価 割 合 : 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や厳重注意の対象となる。

評 価 割 合 : 0%

▼その他

特になし

評 価 割 合 : 特になし

授 業 計 画 :
【第01回】授業オリエンテーション、高齢者の定義と特性
【第02回】高齢化率と高齢社会
【第03回】日本の高齢化の特徴と課題
【第04回】高齢者の生活実態

【第05回】高齢者世帯の特徴と課題
【第06回】家族介護の現状と課題
【第07回】高齢者観の変遷
【第08回】社会福祉前史と高齢者福祉
【第09回】老人福祉法の誕生から在宅福祉への移行
【第10回】介護保険制度の誕生と地域包括ケアシステムの構築
【第11回】高齢者福祉の理念
【第12回】介護保険制度と財政
【第13回】介護認定の仕組みと介護保険事業計画
【第14回】地域支援事業
【第15回】介護保険サービスの体系　前期のまとめ
試　験

使用テキスト： 専門科目2『最新・社会福祉士養成講座　高齢者福祉』　編集　一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、 発行所　中央法規出版株式会社　ISBN978-4-8058-8245-0

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。
授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。
参考資料は、講義の中で必要の応じて適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。

科目コード：21144　　**科目ナンバリング：WP12C06K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **高齢者福祉II（Social Welfare for the Elderly II）**

担当者： **池田　幸也**

基本情報

年次：1　　**単位数：2**　　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　　**履修可能学科・専攻：** ＥPe Pc ＣＷＦＮＭ

関連資格： 教職　福祉主　社福士　福祉心理　　**ＡＬ要素：** 16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要： 【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

前期開講の「高齢者福祉Ｉ」の履修し単位を修得した者を対象に高齢者福祉論を展開する。
高齢者を取り巻く社会情勢を踏まえて 高齢者福祉の発展過程をたどる。老人福祉法や介護保険制度などを中心に高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。
これらを踏まえて、高齢者介護の実際に対する理解を深め、介護保険サービスの内容と今後の課題について自ら考察できるように講義を進める。

キーワード： 老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80％の事項を理解し、回答することが出来る。

評価方法： 試験　　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現すること ができる。

評価方法: 試験　　**評価割合:** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。
提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:
【第01回】高齢者保健福祉の法体系
【第02回】老人福祉法
【第03回】高齢者医療確保法
【第04回】高齢者虐待防止法
【第05回】バリアフリー法
【第06回】高齢者住まい法
【第07回】高年齢者雇用安定法
【第08回】育児・介護休業法
【第09回】市町村独自の高齢者支援
【第10回】高齢者と家族等の支援における関係機関の役割
【第11回】高齢者と家族等の支援における関連する専門職等の役割
【第12回】高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割
【第13回】家族の介護負担軽減と就労支援
【第14回】高齢者虐待や近隣トラブルがある高齢者への対応
【第15回】地域包括ケアシステムにおける居宅・認知症高齢者　まとめ
試　験

使用テキスト: 専門科目2『最新・社会福祉士養成講座　高齢者福祉』編集　一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所　中央法規出版株式会社　ISBN978-4-8058-8245-0

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。
授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。
参考資料は、講義の中で必要に応じて適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: ＊講義は前期開講の「高齢者福祉Ⅰ」を履修し単位を修得した者を対象に開講する。
＊教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。

科 目 コ ー ド :21147　　**科目ナンバリング:WP20C08K**　　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 社会保障I(Social Security I)

担 当 者 : 藤島 稔弘

基本情報

年 次 :2　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式:講義**

曜 時 : 火曜1限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 : 教職 福祉主 社福士 福祉心理　　**A L 要 素 :** 10.資料調査課題
11.討論
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 現代社会における生活と社会保障の関わりについて解説していきます。特に、社会保障の現状・体系・歴史的経緯など基本的な枠組みと医療保険制度と介護保険制度を中心としたテーマについて取り扱う。わが国で生じている医療、介護に関わる社会課題を取り上げながら、その制度の現状と課題について学びます。

キーワード: 社会保障、医療保険、介護保険

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で解説を受けた社会保障の基本的な理念・歴史・機能・構造について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: ワークシート
小テスト
期末試験

評 価 割 合 : 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート
期末試験

評 価 割 合 : 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加さえた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼ 公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼ そ の 他

特になし。

評 価 割 合 : 特になし。

授 業 計 画 : 第1回:現代社会と社会保障

第2回:社会保障の範囲と対象
第3回:社会保障の役割と意義
第4回:社会保障の方法
第5回:社会保障の史的展開(1)社会保障前史
第6回:社会保障の史的展開(2)社会保障の拡充
第7回:社会保障の史的展開(3)社会保障の再編と全世代型社会保障
第8回:医療保険(1)国民医療費
第9回:医療保険(2)加入と被扶養者
第10回:医療保険(3)保険診療と診療報酬制度
第11回:医療保険(4)保険給付
第12回:医療保険(5)海外の医療保障制度
第13回:介護保険(1)介護認定とケアマネジメント
第14回:介護保険(2)介護給付と予防給付
第15回:介護保険(3)地域支援事業

使用テキスト: 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉士養成講座　社会保障』中央法規(最新版)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:
【予習・復習】
・授業終了時に事前課題を提示する場合があり、次回までに取り組んで参加すること。

【参考資料等】
・『厚生の指標増刊　保険と年金の動向　2022/2023』厚生労働統計協会

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード:21148　**科目ナンバリング:**　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **社会保障II(Social Security II)**

担当者: **藤島　稔弘**

基本情報

年次:2　**単位数:2**　**授業形式:講義**

曜時:火曜1限　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職　福祉主　社福士　福祉心理

AL要素: 10.資料調査課題
11.討論
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型
現代社会における生活と社会保障の関わりについて解説していきます。特に、年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、社会手当を中心としたテーマについて取り扱う。わが国で生じている社会問題の現状について考える機会を提供し、今後の社会保障制度のあり方について考えます。

キーワード: 社会保障、所得保障、年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、社会手当

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた社会保障の基本的な理念・歴史・機能・構造について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: ワークシート
小テスト

評価割合:50%

期末試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：** 50%
期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加さえた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：
第1回：社会保障の財政(1)社会保障給付費と社会支出
第2回：社会保障の財政(2)社会保障の財源
第3回：年金保険(1)年金制度の沿革
第4回：年金保険(2)年金制度へ加入と負担
第5回：年金保険(3)高齢期の年金給付と在職老齢年金
第6回：年金保険(4)障害・遺族年金
第7回：年金保険(5)年金財政と世代間格差
第8回：年金保険(6)企業年金と個人年金
第9回：労働者災害補償保険(1)労災の責任の負担
第10回：労働者災害補償保険(2)労働災害の現状と給付
第11回：労働者災害補償保険(3)過労死・精神疾患の認定と給付
第12回：雇用保険(1)失業の現状と高年齢雇用
第13回：雇用保険(2)介護・育児休業の現状と支援
第14回：雇用保険(3)長期失業と求職者支援制度
第15回：社会手当：子どもと所得保障

使用テキスト： 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉士養成講座　社会保障』中央法規(最新版)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
【予習・復習】
・授業終了時に事前課題を提示する場合があり、次回までに取り組んで参加すること。

【参考資料等】
・『厚生の指標増刊　保険と年金の動向　2022/2023』厚生労働統計協会

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科 目 コ ー ド :22100　　**科目ナンバリング:FS10A01K**　　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 有機化学(Organic Chemistry)

担 当 者 : 福元 博基

基本情報

年 次 :1　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式:講義**

曜 時 :火曜5限　　**履修可能学科・専攻:** F

関 連 資 格 : 食衛　　**ＡＬ要 素 :** 17.発問と回答

授業の概要: 私たちの身の回りにある物質の多くは有機化合物から成り立っている。有機化合物の構造、性質および反応性を体系化した学問である有機化学は栄養学・生化学・食品学を学ぶ上でも重要である。
本学科の専門科目を学ぶのに最低限知っておくべき有機化学の基礎知識と基本概念を解説する。
高校で化学を履修していない、または履修していても内容の修得が十分でない受講生もフォローできるよう、丁寧な授業を展開することに努める。

キーワード: 原子、分子、化学結合、物質量、化学変化、反応熱、酸と塩基、炭化水素、アルコール、カルボン酸、エステル、アミン、異性体、糖質、脂質、タンパク質

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で解説を受けた有機化合物の構造、性質およびそれらの反応性について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: 小テスト(筆記)　　**評価割合:60%**
学期末試験(筆記)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標:
授業で扱った有機化合物の構造、性質およびそれらの反応性について、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に表現できる。

評価方法: 小テスト(筆記)　　**評価割合:40%**
学期末試験(筆記)

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって得た知識などが小テストや学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目の「知識・技能」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、小テストや期末試験においてカンニングなどの不正行為があった場合は減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし。

評価割合:特になし。

授 業 計 画 : 第1回:物質の構成Ⅰ(原子の構造)、化学習熟度確認テスト
第2回:物質の構成Ⅱ(原子の電子配置)

第3回:物質の構成Ⅲ(周期表と化学結合(イオン結合))
第4回:物質の構成Ⅳ(化学結合(共有結合と水素結合))
第5回:物質の変化Ⅰ(物質量と化学変化(中和反応))
第6回:物質の変化Ⅱ(化学変化(酸化還元反応)と反応熱)
第7回:物質の状態と性質Ⅰ(物質の三態、蒸気圧と溶解度)
第8回:物質の状態と性質Ⅱ(酸と塩基)
第9回:有機化合物Ⅰ(炭化水素の構造、命名法と性質)
第10回:有機化合物Ⅱ(炭化水素の反応性と分子軌道)
第11回:有機化合物Ⅲ(アルコールの構造、命名法、性質と反応性)
第12回:有機化合物Ⅳ(カルボン酸とエステルの構造、命名法、性質と反応性)
第13回:有機化合物Ⅴ(アミンの構造、命名法、性質、反応性と異性体の種類)
第14回:食品に見る有機化合物Ⅰ(糖質と脂質)
第15回:食品に見る有機化合物Ⅱ(タンパク質)
定期試験

使用テキスト: 食を中心とした化学　第5版
北原重登、塚本貞次、野中靖臣、水﨑幸一　著
東京教学社　2,420円(税込)

テキストとは別に講義資料も配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎回の授業開始から10分程度小テストを行う。
小テストは原則前回の授業内容から出題するので、復習を必ず行うこと。
授業終了時に次回の予習ポイントを説明するので、予習も必ず行うこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部まで連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項: 特になし。

科目コード:22121　**科目ナンバリング:FS10C02K**　**主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **食文化論(Food Culture)**

担当者: **西出　朱美**

基本情報

年次:1　**単位数:2**　**授業形式:講義**

曜時:月曜5限　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職　**AL要素:** 11.討論
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 食文化とは、食料生産や食料の流通、食物の栄養や食物摂取と人体の生理に関する観念など、食に関するあらゆる事項の文化的側面を対象としている。すなわち、人間が工夫を重ねて形成した食に関する生活様式を「食文化」といい、この食文化の伝承こそが、生涯の健康維持に必須である。
しかしながら、特に社会的弱者層では、生活の多忙さや貧困、また十分な食文化の伝承を受けた者が不在である生活環境のため、食文化を大事にする態度の希薄化がみられる。そのため、孤食や安易に食べられる加工食品やコンビニ食に偏る食習慣に至り(加工食品やコンビニ食を否定しているのでなく、偏ることを指す)、この習慣がこの層の経済面をさらに圧迫するほか、健康面にも悪影響を与えていると考える。この状況により、すでに始まっている日本における健康格差の広がりはさらに深刻化することが懸念される。
また、グローバル化が進み、多文化の受容がさらに必要となる状況を考えると、それぞれの土地に食文化が存在することを理解し、敬意を払うことは大切になる。
そこで、この授業では、食文化についてDVDなどの映像資料等を活用して様々な側面からとりあげ、各自の意見を持ち寄り、討論をとおして学びを深め、食文化が伝承され、共食を含

めた食文化を大事にする態度の大切さを学ぶこととする。

キーワード： 日本の食文化、海外の食文化、食文化の伝承

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた食文化について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験　　**評価割合：**70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容に興味を持って、意見を発表する。ほかの意見を聞き、理解する。

評価方法：討論　　**評価割合：**30%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象としない。ただし、自主学修によって得た知識をふまえた発表内容になっていることが認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象としない。ただし、授業中や発表の発言や筆記試験の記述において著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画：
第1回：食文化の定義
第2回：自分の周りの食文化
第3回：日本の食文化(1)
第4回：日本の食文化(2)
第5回：日本の食文化(3)
第6回：世界の食文化(1)
第7回：世界の食文化(2)
第8回：世界の食文化(3)
第9回：世界の食文化(4)
第10回：世界の食文化(5)
第11回：食のグローバル化（麺とファーストフード）
第12回：どのように多様な食文化を受け入れればよいか
第13回：家庭・地域・学校・社会における食育(1)
第14回：家庭・地域・学校・社会における食育(2)
第15回：まとめ
定期試験
※授業項目の順序が変更になる場合がある。

使用テキスト： (参考書)
日本からみた世界の食文化　−食の多様性を受け入れる−　第一出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 食文化に関する情報に関心を持って、収集するように心がけてください。海外の食文化については、場合により、英語による資料を使用する場合がありますが、日本語による説明を補足いたします。

障がいのある履修者への対応： 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。可能な限り対応を行います。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留 意 事 項： 3回から8回の授業において、パソコンを使用する予定です。

科 目 コ ー ド：40001　　**科目ナンバリング：MA10B01K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：公共哲学（Pubulic Philosophy）

担 当 者：北　夏子

基 本 情 報

年 次：1　　**単 位 数：2**　　**授業形式：講義**

曜 時：木曜3限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：　　**A L 要 素：** 11.討論
15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業ではまず公共哲学の形成と展開の歴史を辿ります。続いて、哲学者ハンナ・アーレントについて取り上げます。彼女が生きた時代、彼女が述べた思想、彼女の人生について、彼女の著作を辿りつつ見ていきます。テキストは日本語訳を使います。特に「悪の陳腐さ」の言葉と共に大変有名になった『エルサレムのアイヒマン――悪の陳腐さについての報告』を取り上げます。この授業では適宜映像資料も用います。
この授業を通して、私たちが直面している・直面するであろうと思われる具体的な諸問題を解決するために、自分自身の意見を持てるようになることを目指します。

キーワード： 公共性、ハンナ・アーレント、全体主義、悪の陳腐さ、善、愛

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 授業で解説を受けた公共哲学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法： 振り返り用紙　　**評 価 割 合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート　　**評 価 割 合：70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評 価 割 合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合：0%

▼そ の 他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　授業概要説明
第2回　公共哲学とはどのような学問か(1)
第3回　公共哲学とはどのような学問か(2)
第4回　ハンナ・アーレントとその時代(1)
第5回　ハンナ・アーレントとその時代(2)
第6回　アーレントを知るために──アウグスティヌスの愛(1)
第7回　アーレントを知るために──アウグスティヌスの愛(2)
第8回　アーレントの経験(1)
第9回　アーレントの経験(2)
第10回　アーレントの経験(3)
第11回　アイヒマンと私たち(1)
第12回　アイヒマンと私たち(2)
第13回　アイヒマンと私たち(3)
第14回　レポート執筆の際の注意事項と研究倫理
第15回　まとめ

使用テキスト： アーレント、ハンナ（2017）『エルサレムのアイヒマン──悪の陳腐さについての報告』（大久保和郎訳）みすず書房。
このテキスト以外で授業で使用する資料はすべて印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる（90分）。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい（90分）。
・参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。

留意事項： 課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード：40006　**科目ナンバリング：MA10B02K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：政治学（Politics）

担当者：林　寛一

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** M

関連資格： 教職　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 教養としての政治学を学びます。高校時代までに学んだ政治の単なる延長ではありません。皆さんは、デモクラシーと言えば、日本語で、民主主義と習っています。大学では、批判的に学ぶという知的作業も必須です。democracyは、〇〇ismではありません。〇〇cracyは何？と一歩深く考えてみます。主義という日本語おかしくない？と進めば、ちょっと大学生らしく生意気になります。この授業では、ヨハネによる福音書ではありませんが、はじめに言葉ありき、から始めます。政治の言葉を一歩深く考えるところから始めます。原則、教科書のテーマに沿って授業を進めますが、内容はそこから離れることもあります。

キーワード： 民主政治、福祉、内閣、選挙、議会、政党、政策、世論、地方自治、グローバリゼーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート　　**評価割合：**60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法：　　**評価割合：**40%

学期末筆記試験又は課題・レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回　オリエンテーション；民主政治の起源(1)
第2回　民主政治の起源(2)
第3回　民主政治の変容(1)
第4回　民主政治の変容(2)
第5回　福祉と政治
第6回　民主政治の様々な仕組み
第7回　政治権力とリーダーシップ
第8回　選挙
第9回　議会と政党
第10回　政策過程と官僚・利益集団
第11回　世論とマスメディア
第12回　地方自治
第13回　グローバル化(1)
第14回　グローバル化(2)
第15回　民主政治の現在
定期試験

使用テキスト： 川出良枝・谷口将紀編『政治学(第2版)』東京大学出版会、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと(60分)。
授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい(60分)。
参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業等でお知らせします。

留 意 事 項： 特になし

科 目 コ ー ド：40008　　**科目ナンバリング：MA10B04K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：コミュニケーションと言語学（Communication and Linguistics）

担 当 者：三上　司

基本情報

年 次：1　　**単 位 数：2**　　**授業形式：講義**

曜 時：火曜2限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：　　**ＡＬ要素：** 09,10,13,15

授業の概要： 【特例期間中の授業形態】課題研究型
言語はコミュニケーションの道具である、と一般に言われている。しかし、言語はすべての種類の情報伝達に向いているとは限らない。このことは、パイロットと管制官の交信が原因で事故が起こるという事実、ひもやネクタイの結び方を言葉だけで説明することは至難の業であることなどを考えてみても分かることである。言語は空間や感覚・感情に関する情報を伝達することは苦手なのである。また、言語は真実だけではなく嘘も伝えることができるという側面も持っている。この講義では、コミュニケーションの様々な側面について、言語学の視座から観察・分析し、コミュニケーションの仕組みについて考えることが目標である。

キーワード： コミュニケーション、言語学、語用論、直示表現、協調の原理、言語行為、談話分析、ポライトネス。関連性理論

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： コミュニケーションの様々な分析の仕方を理解し、説明することができる。

評価方法： 授業への参加、課題提出　　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 言語学の知識に基づいて、効果的なコミュニケーションをおこなうことができる。

評価方法： 授業への参加、課題提出　　**評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授 業 計 画：
1. はじめに
2. 表現と場面：語用論の考え方
3. 直示表現：場所の直示・時間の直示
4. 協調の原理：Griceの4つの公理
5. 言語行為：Austin(1962)の主張

6. Searleの言語行為・間接発話行為
7. Harris(1952)の談話分析、Hallidayの結束性
8. Leechの丁寧さの理論
9. Brown& Levinsonのポライトネス理論
10. 関連性理論(1)
11. 関連性理論(2)
12. 語用論の応用(1):ジョークの語用論
13. 語用論の応用(2):レトリックの語用論
14. 言語コミュニケーション論
15. 言語コミュニケーションと社会

使用テキスト: 印刷物を配布する予定です。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考書等は授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 最初の授業で提示します。

留意事項: 特になし。

科目コード:40011 **科目ナンバリング:MA10B05K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 倫理学(Ethics)

担当者: 北 夏子

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:木曜2限 **履修可能学科・専攻:** M

関連資格: 教職 福祉主 **AL要素:** 11.討論
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 本講義では、「生命の終わり」「環境」「家族」といった主題に関して、現在私たちが置かれている社会的な状況について可能な限り多角的に把握した上で、今・ここから「よく生きる」ことを目指して、具体的に私たちには何ができるのか考えていきます。この授業を通して、私たちが自分の足で力強く歩んでいくために必要な倫理学的知識を身につけ、自分の意見を持てるようになることを目指します。
授業では、指定テキストの第II部を扱い「倫理学史」を概観してから、テキストの第I部を扱います。映像資料等を含め、教員が準備する補助資料も用いて進めます。

キーワード: 幸福、安楽死、環境問題、動物解放論、動物虐待、動物実験、自然保護論、共生、家族、ケア、いじめ、ヤングケアラー、経営倫理学、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた倫理学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法: 振り返り用紙 **評価割合:30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート **評価割合:70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート

課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回　倫理学とはどういう学問か(授業概要説明含む)
第2回　倫理学史(1)古代
第3回　倫理学史(2)キリスト教
第4回　倫理学史(3)近現代への影響
第5回　生命倫理学(1)安楽死を考える
第6回　生命倫理学(2)安楽死を考える
第7回　環境倫理学(1)人間と動物
第8回　環境倫理学(2)人間と動物
第9回　現代の問題(1)集団といじめ
第10回　現代の問題(2)家族の問題
第11回　現代の問題(3)ヤングケアラー?
第12回　経営倫理学(1)
第13回　経営倫理学(2)
第14回　レポート指導と研究倫理
第15回　まとめ

使用テキスト： 小坂国継・岡部英男（編）(2005)『倫理学概説』ミネルヴァ書房。
このテキスト以外で授業で使う関連資料は、授業中に印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(90分)。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。
・参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。メールアドレスは初回授業時にお知らせします。

留意事項： 課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード：40020　**科目ナンバリング：MA10B08K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：哲学の歴史（History of Philosophy）

担当者：北　夏子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　　**ＡＬ要素：** 15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、第2回及び第3回の授業で、まず、古代からデカルトに至るまでの哲学の歴史の大まかな流れを示します。4回目からは、カントからベルクソンの時代までの代表的な哲学者を取り上げ、彼らの哲学のエッセンスと人間的魅力を扱います。テキストは日本語訳を使います。哲学者たちの人生及び考えを吟味することで、彼らの哲学に対して自分の意見を持てるようになることを目指します。

キーワード： アンチノミー、物自体、自己意識、自由、絶対知、ニヒリズム、力への意志、超人、無意識、死の欲動、持続、笑い、社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた哲学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法： 振り返り用紙　　**評価割合：** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート　　**評価割合：** 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：
第1回　イントロダクション
第2回　古代からデカルトまで (1)
第3回　古代からデカルトまで (2)
第4回　カントの哲学について
第5回　カント『純粋理性批判』を読む
第6回　ヘーゲルの哲学について
第7回　ヘーゲル『精神現象学』を読む
第8回　ニーチェの哲学について
第9回　ニーチェ『ツァラトゥストラ』を読む
第10回　フロイトの哲学について
第11回　フロイト『夢判断』を読む
第12回　ベルクソンの哲学について

第13回　ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』を読む
第14回　ベルクソン『笑い』を読む
第15回　まとめ

使用テキスト： 授業中に扱う資料は全て印刷・配付しますが、授業で扱う全ての作品について、書籍でも手元に置いておくことをすすめます。
全部揃えるのが難しい場合は、
・アンリ・ベルクソン（2002）『意識に直接与えられたものについての試論』（合田正人・平井靖史訳）ちくま学芸文庫。
・アンリ・ベルクソン（1938）『笑い』（林達夫訳）岩波文庫。
を特におすすめします。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる（90分）。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい（90分）。
・参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学内メールで対応します。メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。

留意事項： 課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード：40023　**科目ナンバリング：MA10B09K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：宗教学（Science of Religion）

担当者：北　夏子

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職

AL要素： 11.討論
14.輪読活動
15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、世界の宗教と宗教的課題について概観することから始めます。続いて、身近な体験から宗教を考えるために、指定テキストとして渡辺和子『置かれた場所で咲きなさい』を扱い、吟味していきます。このテキストで取り上げられている様々な思想についても扱い、渡辺の考えを辿っていきます。日本人に親しみをもって受け入れられているこのテキストを手掛かりに宗教について改めて考えることによって、人々の支えとなっているとともに批判対象ともなっている宗教について、自分の意見を持てるようになることを目指します。

キーワード： 宗教、生、死、老い、愛、神、人格

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた宗教学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法： 振り返り用紙　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート　**評価割合：70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第1回　はじめに(授業概要説明含む)
第2回　世界の宗教(1)
第3回　世界の宗教(2)
第4回　宗教の課題(1)
第5回　宗教の課題(2)
第6回　自分自身に語りかける(1)：マザー・テレサ
第7回　自分自身に語りかける(2)：マザー・テレサ
第8回　明日に向かって生きる(1)：東日本大震災
第9回　明日に向かって生きる(2)：ヴィクター・フランクル
第10回　美しく老いる(1)：老いについて考える
第11回　美しく老いる(2)：老いについて考える
第12回　愛するということ(1)：人格
第13回　愛するということ(2)：人格
第14回　レポート執筆の際の注意と研究倫理
第15回　まとめ

使用テキスト：
渡辺和子『置かれた場所で咲きなさい』幻冬舎、2012年。

上記にあげたテキスト以外で授業で使用する資料はすべて印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(90分)。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。
・参考文献
『宗教学入門』棚次正和、山中弘編、ミネルヴァ書房、2005年。
中村圭志『教養としての宗教入門　基礎から学べる信仰と文化』中公新書、2014年。

上記以外の参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応：
可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：
メールで対応します。メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。

留意事項：
課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード：41003　　**科目ナンバリング**：MA11B01K　　**主な使用言語**：日本語

授業名（英文）： 会計学入門I(Introduction to Accounting Ⅰ)

担 当 者： 長島 正浩

基本情報

年 次：1　　**単位数：**2　　**授業形式：**講義

曜 時：月曜4限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職　　**AL要素：** 16、17

授業の概要： 原則としてテキストに沿って授業計画どおりに進行するが、そのときの社会情勢なども取り上げ、必要な場合は適宜資料を配付して、理解の助けとすることもある。また、テキストに載っているケース・スタディの記入用紙を別途配付することもある。毎回学習した範囲で、ミニテストや簡単な口頭試問を実施する予定。

キーワード： ディスクロージャー、金融商品取引法、会社法、財務諸表、資産、負債、純資産、費用、収益、認識と測定、複式簿記、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 会計や簿記を全く知らないということを前提にして、会計を使った会社の実態の把握、複式簿記の原理、財務諸表の作成までを学修する。まさに入門の入口ぐらいのところで、会計という学問対象について知ることを目標とする。

評価方法： 記述方式による学期末試験　　**評価割合：**70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 会計の知識および技能の初歩を学びつつ、企業会計のもつ普遍的な理屈を学修し、会計思考力を身に付けることを目標とする。

評価方法： 記述方式による学期末試験　　**評価割合：**30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 イントロダクション──会計を勉強するとどんな良いことがあるか
【第02回】 会社と会計──家計簿と会計帳簿の役割
【第03回】 上場会社と大会社──小さくても優良企業はある
【第04回】 貸借対照表と損益計算書──会社の実態を報告する
【第05回】 財務ディスクロージャー制度──なぜ粉飾決算はなくならないのか

【第06回】 単式簿記と複式簿記──500年以上前の人類最高の発明
【第07回】 複式簿記の本質──事実には必ず二面性がある
【第08回】 複式簿記の原理──仕訳の原則を押える
【第09回】 ケース・スタディ──環境会計
【第10回】 決算整理──毎日記帳できないこともある
【第11回】 貸借対照表──バランスシートにはどんな情報が載るのか
【第12回】 資産・負債・純資産──目に見えない財産がある
【第13回】 損益計算書──会社の成績には様々な種類がある
【第14回】 キャッシュ・フロー計算書──黒字でも倒産することがある
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト: 千代田邦夫『新版 会計学入門(第7版)』中央経済社、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 標準的には、予習は30分程度、復習は90分程度の学習時間が必要であろう。授業時間中にしかできなことと、自宅学習時間中にしかできないことを明確化し、質の高い充実した時間を過ごすこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項: 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後、採点が終わり次第、匿名で点数データ(点数分布、平均点、標準偏差)を公表する。

科目コード:41004 **科目ナンバリング:MA12C02K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): **会計学入門II(Introduction to Accounting Ⅱ)**

担当者: **長島 正浩**

基本情報

年次:1 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:月曜4限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 **AL要素:** 16,17

授業の概要: 原則としてテキストに沿って授業計画どおりに進行するが、具体例や数値例が必要な場合には適宜補助プリントを配付して、理解の助けとする。また、テキストだけでなく、そのときの経済ニュースなどで取り上げられたホットな話題を論じていくこともあるので、会計学を広く学習することとなる。毎回学習した範囲で、ミニテスト、口頭試問またはレポート作成を実施する予定である。

キーワード: 有価証券報告書、貸借対照表、損益計算書、時価基準、原価基準、低価基準、国際会計基準、リース会計、減損会計、減価償却、原価概念

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 「会計学入門Ⅱ」では、「会計学入門Ⅰ」を前提にして、会計制度、会計原則、企業会計基準、公認会計士監査の概略を学んでいく。そのためより細かい会計基準・会計手続の知識を深めていく。

評価方法: 記述方式による学期末試験 **評価割合:60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 今度は入門の入口だったところから、門の中に入る「会計学」の学問領域へと足を踏み入れることになる。いよいよ自分の頭を使って、しっかり考えなければならない局面へとさしかかった。

したがって、企業会計のもつ普遍的な理屈の理解を深めると同時に、それに基づく批判的な視野を持って論じることができる。

評価方法： 記述方式による学期末試験　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 会社法会計──なぜ会社法に会計規定があるのか
【第02回】 金融商品取引法会計──有価証券報告書とは
【第03回】 企業会計と法人税法──利益と所得は別物
【第04回】 企業会計原則──GAAPは法律ではない
【第05回】 資産評価の基本原則──物の価値をどうやって測るか
【第06回】 金融資産の会計──有価証券の価値はいくら？
【第07回】 棚卸資産の会計──在庫品の価値はいくら？
【第08回】 有形固定資産の会計──建物の価値はいくら？
【第09回】 引当金の会計──退職金は給料の後払い
【第10回】 税効果会計──会計には税金の前払いがある
【第11回】 原価計算のプロセス──製品の製造過程も帳簿記入する
【第12回】 ケース・スタディ──1個いくらで作ったかを計算してみる
【第13回】 財務諸表監査──なぜ公認会計士が必要か
【第14回】 法定監査制度──法律が監査を義務付ける理由
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト： 千代田邦夫『新版 会計学入門（第7版）』中央経済社、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テキストを読むとか、ノートをまとめるとか、授業時間外にできることは予習・復習として自宅などで行えばよい。
標準的には、予習を30分、復習を60分は必要とし、定期試験直前はさらに試験対策のための学修時間を相当に割かなければならない。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後、採点が終わり次第、匿名で点数データ（点数分布、平均点、標準偏差）を公表する。

科 目 コ ー ド :41023　　**科目ナンバリング : MA22C03K**　　**主な使用言語 : 日本語**

授業名（英文）: 人材マネジメント論II（Human Resource Management II）

担 当 者 : 笠原　一絵

基本情報

年 次 :2　　**単 位 数 : 2**　　**授業形式 : 講義**

曜 時 : 木曜2限　　**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :　　**A L 要 素 :** 11 討議

授業の概要: 経営資源はヒト、モノ、カネ、情報と言われる中で、ヒトは最も重要な資源です。本講座では企業が目標達成に向けて、組織を構成する「ヒト（人的資源）」をいかにマネジメントしていくかについて学習することを目的とします。
近年の日本企業は、時代の変化と共に大きな転換期を迎えています。かつては終身雇用や年功序列を特徴として、企業に入社すれば雇用が確保され、年齢と共に昇進し給与も右肩上がりでした。しかし現代の企業はグローバルな競争環境で急速な変化への対応を迫られる、雇用の多様化や流動化、成果主義への移行と課題など、ヒトをマネジメントする方法や考え方を模索し、大きな変化を遂げてきています。
そこで、本講座ではこのような変化の中での人材マネジメントの現状や課題を学習し、今後への展望を検討していく予定です。

キーワード: 人材マネジメント、戦略的人的資源管理、グローバル化、労働の多様化、ワークライフバランス、働き方の新潮流、ピープルアナリティクス

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 日本企業の人材マネジメントの現代敵特徴を理解し、多様な角度から企業の人材マネジメントを分析・検討することができる。

評価方法: レポート　　**評価割合 : 70%**
クラスでの発言

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 企業の人材マネジメントに関して、論理的に考察し、表現することができる。

評価方法: レポート　　**評価割合 : 30%**
クラスでの発言

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により深められた知見等が授業中の発言やレポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実戦により深められた知見等が授業中の発言やレポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。

評価割合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述において人権侵害・差別的発言など著しく公正を欠く行動や、レポートにおける盗用等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
1. オリエンテーション
2.人材マネジメント論の概要
3.人事評価／パフォーマンス・マネジメント
4.報酬
5.事例　従来からの働き方改革
6.事例　成果主義の課題の理解
7.事例　人材育成のついての今日的課題
8.事例　人材マネジメントと企業戦略
9.企業の求める人材
10.グローバル化と人材マネジメント
11.働き方の多様化、ワークライフバランス
12.HRテクノロジーとピープルアナリティクス
13.人材マネジメントに関する今日的課題
14.人材マネジメントに関する新潮流
15.まとめ
※　状況により内容は変更する場合があります。

使用テキスト： 特に指定しません。必要に応じて資料等を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
＜事前準備学習＞
資料を事前に配布する場合には、全て読み各自で考えをまとめておいてください。この場合、予習をしていないと授業は全く理解できませんので、必ず行ってきてください。

＜参考文献＞
ハーバード・ビジネス・レビュー(2020)『人材育成・人事の教科書』ダイヤモンド社
HRインスティテュート(2020)『人材マネジメントの基本』日本実業出版社
上林 憲雄編著『人的資源管理』中央経済社　2015
小池和男『仕事の経済学第3版』東洋経済　2005
守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞出版社　2004　他
上記の本の購入は必須ではありません。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー等で対応する予定です。詳細は授業内で伝えます。

留意事項： 特になし

科目コード：41041　**科目ナンバリング：MA21B02K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：マーケティング論I（Marketing I）

担当者：澤端　智良

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：水曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： 教職　**AL要素：** 11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要： 企業が事業を維持していくためには継続的に顧客を獲得することが必要であり、マーケティングはその意味で企業活動において極めて重要な役割を担っている。この授業では教科書を活用しながらマーケティングの基礎概念・理論について解説する。マーケティング実務経験に基づく具体例や、身近な商品やサービスの例なども用いながら、できるだけ理解しやす

いように説明する。

キーワード： マーケティング概念の変遷、消費者理解、STP、Product、Price、Promotion、Place

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説したマーケティングの基礎的な概念および理論を正しく理解し、マーケティングとは何か，企業経営の中でどのような位置づけを占め、各実行段階でどのような方法を用いるものなのかについても説明できる。

評価方法： 学期末筆記試験　　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだマーケティングの基礎的な概念・理論を用い、企業の実際のマーケティング活動について解釈・分析し、論理的に説明できる。

評価方法： 学期末筆記試験　　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み、提出すること。また、教員から呈示された課題や問いに対しては、討論に積極的に参加し発言すること。レポートや討論への参加状況についても成績評価の対象とする（20％）。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回：イントロダクション
第2回：マーケティングとはなにか
第3回：消費者の行動
第4回：購買意思決定の影響要因
第5回：マーケティング・リサーチ
第6回：経営環境の把握
第7回：セグメンテーション，ターゲティング，ポジショニング
第8回：製品と製品ミックス
第9回：新製品開発
第10回：価格の設定
第11回：戦略的価格
第12回：プロモーションの理解
第13回：プロモーションの手段
第14回：マーケティング・チャネル ／ メーカーと流通
第15回：まとめ
定期試験

使用テキスト： 黒岩健一郎・水越康介 著『マーケティングをつかむ［第3版］』有斐閣，2023年，2,200円＋税。
【注意】2023年発行の［第3版］を使います。入手の際は書名や「版」をよく確認し、間違えないように注

意してください。なお、[第3版]は2023年3月発売予定となっていますが、出版が予定より遅れるなど4月の時点で[第3版]を入手できない状況にある場合は、2018年発行の[新版]へ変更する場合があります(その場合は初回の授業で指示します)。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前にテキストの該当箇所に目を通し、内容を理解しておくこと(60分)。また、授業後は学習した内容を振り返ったうえで、テキストのケースや演習問題等に取組むことが望ましい(60分)。
その他、別途資料を提示した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。
課題が出された場合は〆切までに提出すること。
参考文献などは必要に応じて授業の中で随時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項: ①「学期末定期試験」(80%)と、②「授業期間中に複数回課す予定の課題(ミニ・レポート類等)」(20%)とを総合して評価する。
授業中に簡単なアンケートやワーク等を課すこともあるが、一人一人がしっかりと取り組み、意見を求められた場合には自らの考えを発言できるようにすること。なお、授業期間内に課したレポート類については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。
BYOD導入に伴い、講義資料はUNIPA等へアップすることとし、原則として紙では配布しない。手元に資料が必要な場合はデバイスを持参するなど各自で対応をして下さい。

科目コード:41042 **科目ナンバリング:MA22C03K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): マーケティング論II(Marketing II)

担当者: 田口 尚史

基本情報

年次:2 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:火曜2限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 **AL要素:** 10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要: 1950年代に体系化された伝統的なマーケティングの理論枠組みは，その後，1970年代にはソーシャル・マーケティング，さらには1980年代以降，サービス・マーケティング，リレーションシップ・マーケティング，生産財マーケティングへとその領域を拡張してきた。最近では，グローバル化の進展やインターネットの普及によって，グローバル・マーケティングやデジタル・マーケティングといった領域も台頭している。本科目では，そのような拡張されたマーケティング領域について解説する。

キーワード: マーケティングの拡張，サービス・マーケティング，生産財マーケティング，ソーシャル・マーケティング，グローバル・マーケティング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けたマーケティングの拡張領域に関する基本的な理論枠組みについて，専門用語用いて論述することが。

評価方法: 学期末レポート **評価割合:30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について，実際の企業活動を観察し，参考文献等を参照しながら考察し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末レポート **評価割合:70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
第01回 イントロダクション
第02回 基本戦略
第03回 製品ライフサイクル戦略
第04回 市場地位別戦略
第05回 事業領域と成長戦略
第06回 資源展開
第07回 ブランド
第08回 リレーションシップ・マーケティング
第09回 サービス・マーケティング
第10回 生産財マーケティング
第11回 グローバル・マーケティング
第12回 ソーシャル・マーケティング
第13回 デジタル・マーケティング
第14回 サービス・ドミナント・ロジック
第15回 まとめ

使用テキスト： 黒岩健一郎・水越康介 著『マーケティングをつかむ［第3版］』有斐閣，2023年，2,420円。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業中に配布したレジュメは，ファイル等で大切に保管し，毎回の授業に持参すること。参考文献等は，適宜，授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41043 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：流通システム論（Distribution System）

担当者：田口 尚史

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：火曜2限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要： 我々の日常生活は，無意識に流通と深く関わっている。消費者の消費行動や消費文化は，流通が下支えしている。そこで本科目では，わが国の流通システムを構成しているさまざまな小売業態について観察し，過去から現在への変遷を辿りながら，それらの小売業態の特徴を理解する。また，流通システムは時代の流れと共に常に変化していることから，小売業態だけでなく卸売業者や取引慣行も含めて，それらがどのように変化していくのか，担当教員の実務経験を活かしながら将来を展望する。

キーワード： 流通システム，流通フロー，卸売業者，小売業者，業態

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた流通システムに関する基本的な理論枠組みについて，概ね80％の事項を暗記し，解答することができる。

評価方法： 学期末レポート　　**評価割合：** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について，実際の流通構造を観察し，参考文献等を参照しながら考察し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末レポート　　**評価割合：** 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

第01回　流通とは
第02回　百貨店と総合スーパー
第03回　食品スーパーとコンビニエンス・ストア
第04回　ディスカウント・ストアとSPA
第05回　商店街とショッピングセンター
第06回　小売業態とは何か
第07回　小売を支えるロジスティクス
第08回　インターネット技術と新しい小売業態
第09回　小売を支える卸
第10回　流通構造とその変容
第11回　日本的取引慣行
第12回　小売を中心とした取引慣行
第13回　売買集中の原理と品揃え形成
第14回　商業とまちづくり
第15回　製販連携の進展

使用テキスト： 石原武政・竹村正明・細井謙一 編著『1からの流通論(第2版)』碩学舎，2018年，2,400円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テキストの他，適宜，参考資料としてプリントを配布する。授業中に配布したプリントは，ファイル等で大切に保管し，毎回の授業に持参すること。参考書等は，適宜，授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし。

科目コード：41044　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：流通経営論（Distribution Management）

担当者：田口　尚史

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：月曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 10.資料調査課題
17.発問と回答

授業の概要： 小売業は，流通構造の末端に位置し，消費者の嗜好や購買行動の変化に柔軟に適合していくことで成長し続けている。小売業者は，新たな業態の開発のために，常に，立地，マーチャンダイジング，プロモーションといったマーケティング・ミックスを調整している。本科目では，前半では小売業の業態開発に関する理論的枠組みについて概説し，後半では近年の新しい小売業態とビジネス・モデルについて考察する。

キーワード： 小売業態，リテール・マネジメント，マーチャンダイジング，サプライチェーン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた小売業経営に関する基本的な理論枠組みについて，概ね80％の事項を理解し説明することができる。

評価方法： 学期末レポート　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について，特定の小売業態を観察し，参考文献等を参照しながら考察し，論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末レポート　**評価割合：70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は，上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は，減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第01回　流通フローと流通機関
第02回　小売業態の進化
第03回　立地選択と出店戦略
第04回　仕入活動の管理
第05回　インストア・プロモーション
第06回　延期と投機の原理
第07回　POSシステム
第08回　サプライチェーン・マネジメント
第09回　小売業の商品開発
第10回　小売業の海外進出
第11回　ドラッグストア
第12回　均一価格店
第13回　ECとオムニチャネル
第14回　プラットフォーマー
第15回　まとめ

使用テキスト： テキストは使用しない。毎回，レジュメを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 前期の流通システム論を同時に履修することを推奨する。授業中に配布するレジュメは，ファイル等で大切に保管し，毎回の授業に持参すること。参考文献等は，適宜，授業中に配布するレジュメの中で紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので，まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし

科目コード：41049　**科目ナンバリング：MA20C10K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：応用簿記論（Advanced Bookkeeping）

担当者：長島　正浩

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：金曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 16,17

授業の概要： 記帳技術といってもいろいろあるが、本講義では仕訳ができるようにすることが第一優先である。したがって、テキストにしたがって仕訳を中心に講義をすすめていく。多少の勘定科目を覚えなければならないが、仕訳とは取引をあるがままの姿で描写するものであるので、そのことを理解することが肝要である。

キーワード： 銀行勘定調整表、クレジット売掛金、電子記録債権、電子記録債務、分記法、総記法、三分割法、売上原価対立法、値引、割戻、返品、割引、役務収益、役務原価、売買目的有価証券、満期保有目的債券、子会社株式及び関連会社株式、その他有価証券

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 経済的に複雑で高度な取引であっても、簡単に仕訳ができる技能が身につく。また、自然と電卓計算技術が向上する。

評価方法: 記帳方式による学期末試験　　**評価割合:** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 商品売買の会計処理について、歴史的変遷を理解することにより、現在のコンピュータ入力時代の複式簿記の有用性を考えることができる。複式簿記が単に500年以上の歴史を積み重ねてきているのではないことに思い馳せることができる。

評価方法: 記帳方式による学期末試験　　**評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

【第01回】 銀行勘定調整表
【第02回】 商品売買取引ーその1
【第03回】 商品売買取引ーその2
【第04回】 手形取引と電子記録債権債務
【第05回】 その他の債権・債務
【第06回】 有価証券の取引ーその1
【第07回】 有価証券の取引ーその2
【第08回】 有形固定資産
【第09回】 無形固定資産
【第10回】 引当金ーその1
【第11回】 引当金ーその2
【第12回】 未決算
【第13回】 割賦購入その他
【第14回】 役務収益の計上
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト: 長浜巖『日商簿記2級ー商業簿記ー』協進社、2019年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前にテキストを予習することで、授業内容の8割は理解することができる。あとはそれを永く記憶として定着できるかどうかは、効果的な復習にかかっている。その復習のポイントを授業でその都度説明していく。

標準的には、予習60分、復習60分で、すなわち1回の授業に対して2時間程度の自宅学修時間が必要である。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項: 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後に解答速報をUNIPAに掲載するので、自己採点および解けなかった問題を解けるようにすること。採点が終わり次第、匿名で点数データ(点数分布、平均点、標準偏差)を公表する。
電卓を必ず用意すること。出来ればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード:41050 **科目ナンバリング:MA20C11K** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 会社簿記論(Corporation Bookkeeping)

担当者: 長島 正浩

基本情報

年次:2 **単位数:2** **授業形式:講義**

曜時:金曜5限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 16,17

授業の概要: 前期の「応用簿記論」の続きであるが、応用簿記論が高度な取引を取り扱っていたのに対して、「会社簿記論」では取引主体が株式会社となって、その組織そのものが複雑になるため、より難易度が増す。単に複式簿記原理を押えるだけでなく、会社法という法制度の理解も必要となる。

キーワード: 会社設立、新株発行、吸収合併、剰余金の処分、配当金、資本準備金、利益準備金、繰越利益剰余金、法人税、住民税及び事業税、消費税等、為替差損益、税効果会計、連結会計、リース取引

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 株式会社特有のM&A取引や準備金の積立など非日常的な取引の仕訳ができるようになる。また、このような仕訳を通して、株式会社のしくみまで理解できるようになる。

評価方法: 記帳方式による学期末試験 **評価割合:70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 会社と言えばほとんどが株式会社のことであり、上場企業など大きな取引を行っている会社の財務諸表の作成までできるようになり、結果として財務諸表の数値を読める思考力が身につく。

評価方法: 記帳方式による学期末試験 **評価割合:30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他
特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 株式会社会計ー会社設立
【第02回】 株式会社会計ー新株発行
【第03回】 株式会社会計ー買収・合併（M＆A）
【第04回】 株式会社会計ー剰余金の処分
【第05回】 株式会社会計ー法人税、住民税および事業税
【第06回】 株式会社会計ー消費税等の処理
【第07回】 連結会計ー子会社の範囲、連結情報の役割
【第08回】 連結会計ー投資と資本の相殺
【第09回】 連結会計ー子会社財産の時価評価
【第10回】 連結会計ー親子会社間取引の相殺
【第11回】 連結会計ー債権・債務の相殺
【第12回】 連結会計ー配当金の調整
【第13回】 為替換算ー在外子会社の換算
【第14回】 為替換算ー在外支店の換算
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト： 長浜巖『日商簿記2級ー商業簿記ー』協進社、2018年。（前期科目「応用簿記論」と同一のテキストを使用）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前にテキストを予習することが難しいと感じる場合は、復習により時間を割く必要がある。むしろ予習より復習に重点をおくのがよい。株式会社の簿記はイメージが湧きにくいため、授業時になるべくイメージしやすい例示で進めていく。
標準的には、予習は30分、復習は60分を目安とする。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後に解答速報をUNIPAに掲載するので、自己採点および解けなかった問題を解けるようにすること。採点が終わり次第、匿名で点数データ（点数分布、平均点、標準偏差）を公表する。
電卓を必ず用意すること。出来ればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード：41055 **科目ナンバリング：MA20C12K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： 原価計算論（Cost Accounting）

担当者： 長島 正浩

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：金曜4限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 16,17

授業の概要： 原則としてテキストに沿って授業計画どおりに進行し、必要に応じて補助プリントを配付して、理解の助けとする。また、なるべく多くの計算問題を解くことにより計算技術の向上を狙っていく。毎回学習した範囲で、ミニテスト、口頭試問またはレポート作成を実施する予定である。

キーワード： 単純総合原価計算、組別総合原価計算、等級別総合原価計算、工程別総合原価計算、正常仕損、正常減損、直接原価計算、CVP分析、貢献利益、変動製造マージン、原価分解、固定費、変動費

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 市場見込大量生産を前提とし、製品1個当たりいくらで製造したかという原価計算を学ぶ。また、利益計画に役立つCVP分析の技術も身につけることができる。

評価方法: 計算方式による学期末試験　　**評価割合:** 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 製造業での利益向上の命題はコスト削減である。いかにコストを下げていくかを原価計算した結果から思考し、未来へ役立つ原価情報を提供することができる。

評価方法: 計算方式による学期末試験　　**評価割合:** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

【第01回】 商企業と工企業との相違
【第02回】 総合原価計算と記帳ー単純総合原価計算
【第03回】 総合原価計算と記帳ー月末仕掛品の計算ー平均法
【第04回】 総合原価計算と記帳ー月末仕掛品の計算ー先入先出法
【第05回】 総合原価計算と記帳ー単一工程総合原価計算
【第06回】 総合原価計算と記帳ー工程別総合原価計算
【第07回】 総合原価計算と記帳ー等級別総合原価計算
【第08回】 総合原価計算と記帳ー組別総合原価計算
【第09回】 総合原価計算上の減損・仕損の計算と処理
【第10回】 副産物と連産品の計算と処理
【第11回】 製造原価報告書の作成
【第12回】 直接原価計算
【第13回】 CVP分析ーその1
【第14回】 CVP分析ーその2
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト: 長浜巖『日商簿記2級ー工業簿記ー』協進社、2015年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 標準的には、予習は30分程度、復習は90分程度の学習時間が必要であろう。授業時間中にしかできなことと、自宅学習時間中にしかできないことを明確化し、質の高い充実した時間を過ごすこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後に解答速報をUNIPAに掲載するので、自己採点および解けなかった問題を解けるようにすること。採点が終わり次第、匿名で点数データ（点数分布、平均点、標準偏差）を公表する。
電卓を必ず用意すること。出来ればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード：41056 **科目ナンバリング：MA20C13K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： 工業簿記論（Industrial Bookkeeping）

担当者： 長島 正浩

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：金曜4限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 16,17

授業の概要： 原則としてテキストに沿って授業計画どおりに進行し、必要に応じて補助プリントを配付して、理解の助けとする。また、なるべく多くの計算記帳問題を解くことにより計算記帳技術の向上を狙っていく。毎回学習した範囲で、ミニテスト、口頭試問またはレポート作成を実施する予定である。

キーワード： 工業簿記一巡、材料費計算、労務費計算、外注加工賃、製造間接費、仕掛品勘定、部門別計算、個別原価計算、標準原価計算、差異分析、予算差異、能率差異、操業度差異

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 個別受注生産形態も視野に入れながら、材料費、労務費、製造間接費の配賦の積み上げ計算ができるようになる。また、大企業メーカーではスタンダードになっている標準原価計算をマスターし、差異分析して原価管理に役立つ技能を習得する。

評価方法： 計算方式による学期末試験 **評価割合：70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 予算という概念が登場し、その予算と実績との差額が何を意味し、何が原因で生じるのかを把握することができる。また、工業特有の記帳方法からコスト概念の理解を深めることができる。

評価方法： 計算方式による学期末試験 **評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とな

るので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：
【第01回】 製造業の内容と特徴
【第02回】 工業簿記の意義・仕組みと原価計算
【第03回】 原価の種類と分類
【第04回】 材料費の計算と記帳
【第05回】 労務費の計算と記帳
【第06回】 経費の計算と記帳
【第07回】 製造間接費の計算と記帳
【第08回】 部門費の計算と記帳―その1
【第09回】 部門費の計算と記帳―その2
【第10回】 個別原価計算と記帳―その1
【第11回】 個別原価計算と記帳―その2
【第12回】 標準原価計算と記帳―その1
【第13回】 標準原価計算と記帳―その2
【第14回】 工場会計の独立
【第15回】 総 括
定期試験

使用テキスト： 長浜巖『日商簿記2級―工業簿記―』協進社、2015年。（前期科目「原価計算論」と同一のテキストを使用）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習はテキストを読む程度（30分）とし、復習時（60分）に1論点1計算問題を繰り返し解くことを奨励する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。その他の時間は授業時にお知らせします。

留意事項： 毎回の講義時に提出してもらった「質問」「要望」「意見」などに関しては次回の講義時にフィードバックする。
定期試験終了後に解答速報をUNIPAに掲載するので、自己採点および解けなかった問題を解けるようにすること。採点が終わり次第、匿名で点数データ（点数分布、平均点、標準偏差）を公表する。
電卓を必ず用意すること。出来ればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード：41063 **科目ナンバリング：MA20C14K** **主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： 金融論（Finance）

担当者： 尾家 啓之

基本情報

年次：2 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：火曜4限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格： **AL要素：** 17.発問と回答

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】遠隔授業（同時双方向型）/遠隔授業（オンデマンド型）・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業

金融論とは、金もうけをするための理論ではありません。お金を融通する仕組みを体系的かつ理論的に理解する学問ですが、お金（マネー）の意味を掘り下げたり、世の中におけるお金の流れや特徴を理解することにより、実体経済の動きをより深く理解することができます。

日本銀行に長く在職し、その後、銀行系シンクタンクのチーフエコノミストをしている経験を活かし、理論のみならず、実践面で、具体的な世の中の事象を金融経済的な視点を持って解明していく力を身に着けていただくことを目指します。結果として、大学生から社会人になる過程において必須となる金融の基礎知識を身に着け、「金融リテラシー」を高めます。皆さんが生きていく上で、お金とは無縁に暮らしていけません。むしろ、私生活でも職場でも、お金とうまく付き合っていけば、その後の人生をより豊かに送ることができるでしょう。

なお、授業の英語名はFinanceとなっていますが、この授業は、いわゆるファイナンス理論ではなく、実質的にはMoney and Bankingといった内容です。このへんのところは、第1回目の授業で説明します。

キーワード： お金（マネー）・金融・市場、仮想通貨・暗号資産、電子マネー・中央銀行デジタル通貨、日銀、金融政策、インフレ・デフレ、金融機関、金融システム、バブル、金融危機

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で扱った金融論の基礎的な知識・技能、基本的な考え方について、概ね（80％程度）理解し、解答することができる。

評価方法： 3回提出していただく小論文を基に総合的に評価します。　**評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験も踏まえて考察し、論理的に思考の道筋を整理した上で、適正な判断を導き、それを表現することができる。

評価方法： 同上　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席はもとより、授業中に行われる議論に積極的に参加すること、自主的な学修により予習と復習に主体的に取り組むことは、とても重要です。出席と、授業中の議論への参加、3回の小論文作成等を踏まえて、こうした主体的な取り組みの姿勢がうかがわれた場合は、加点の対象とします。一方、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意ないし減点の対象とします。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

ボランティア活動等の実践により深められた知見が3回提出する小論文の記述等で確認された場合は、加点の対象とします。

評価割合：5%

▼公正性

人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象とします。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回　ガイダンス、金融論とはどのような学問か、金融論（前期）の授業の全体像
第2回　金融とは何か、お金（マネー）の本質とは
第3回　仮想通貨・暗号資産はマネーか、電子マネー・中央銀行デジタル通貨とは
第4回　金融市場とは、直接金融と間接金融
第5回　第1回～第4回の復習と、理解度確認小論文提出

第6回　日銀の役割
第7回　金融政策
第8回　インフレとデフレ
第9回　非伝統的金融政策とは

第10回　第6回～第9回の復習と、理解度確認小論文提出

第11回　金融機関の種類
第12回　金融システムとは、金融システムの安定性とは
第13回　バブルとは何か
第14回　金融危機とは何か
第15回　第11回～第14回の復習と、全体のまとめ、理解度確認小論文提出

使用テキスト： 島村高嘉・中島真志著「金融読本（第31版）」（東洋経済新報社、2020年）…30版以前の古いものは不可。原則として毎回講義のポイントを記したレジュメを配布する予定です。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎回の授業の前に、その回のテーマに関連するテキストの該当部分を読み、キーワード等用語を調べるなどして問題意識を醸成する。授業後には、テキストの該当部分および配布資料の内容について概ね理解できるように復習すると共に、興味のある事項について掘り下げ、更なる疑問点・問題意識を明らかにする。学生時代の貴重な時間を、知識の習得のみならず論理性・思考力・判断力を鍛えるために大切に使う習慣をつける。

参考文献として、植田和男著「大学4年間の金融論が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA、2017年）を推薦します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに常陽産業研究所（029―233―6731）まで連絡してください。対面での質疑応答が必要な場合は講義前後の時間帯で対応したいと思います。

留意事項： 「ミクロ経済学入門」と「マクロ経済学入門」を履修済ないし履修中であることが望ましいが、必須ではありません。経済学の基礎知識がなくても、できるだけ平易にわかりやすく講義することに努めます。

いわゆる1回限りの期末試験（ペーパーテスト）は実施しません。4回授業を行ったあと、5回目はそれまでの復習を簡単に行います。その後、それまでの授業で理解したこと、興味を持ったこと、世の中で応用できそうなこと、更なる疑問点・問題意識などを小論文形式で記述していただきます。これを15回の講義のなかで3回繰り返すことにより、知識・技能面、思考力・判断力・表現力の評価を行います。このほか、学修に主体的に取り組む態度は重要です。授業の中で皆さんに質問を投げかけたいと思いますので、積極的に議論に参加してください。

科目コード：41064　**科目ナンバリング：MA20C15K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **国際金融論（International Finance）**

担当者： **尾家　啓之**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：火曜4限　**履修可能学科・専攻：** ＥPe Pc ＣＷＦＮＭ

関連資格：　**ＡＬ要素：** 17.発問と回答

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】遠隔授業（同時双方向型）/遠隔授業（オンデマンド型）・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業

この授業は、前期金融論の応用編に位置付けられますので、できれば前期金融論から継続して受講していただくことをお勧めします。皆さんの身の回りの商品をみても明らかなように、今や、経済は国内だけで完結するものではなく、ほとんどの物事が国境を越えたサプライ・チェーンでつながっています。多くの企業は国境を越えて活動していますが、国際的に活動する過程で必ず遭遇するのが、為替レートや貿易、国際金融です。まずは、皆さんが日ごろ見聞きする円ドルレート（為替レート）がどのように決まるのかといった理論を学んだ上で、国際通貨制度、IMF・世銀体制などの歴史的変遷を学習します。その後、国際収支、貿易理論、開放マクロ経済の考え方を学びます。最後に、通貨危機・国際金融危機について、なぜ

これが起こるのか、基軸通貨ドルとは何か、フィンテック・デジタル通貨などを踏まえた国際金融の新たな展開について学びます。

キーワード： 為替レート、国際通貨制度、IMF・世銀(ブレトンウッズ）体制、金本位制、固定相場制、変動相場制、国際収支、貿易理論、開放マクロ経済、ユーロ、国際通貨危機、リーマンショック（国際金融危機）、グローバル化、証券化、フィンテック、デジタル通貨

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で扱った国際金融論の基礎的な知識・技能、基本的な考え方について、概ね（80％程度）理解し、解答することができる。

評価方法： 3回提出していただく小論文を基に総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験も踏まえて考察し、論理的に思考の道筋を整理した上で、適正な判断を導き、それを表現することができる。

評価方法： 同上 **評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席はもとより、授業中に行われる議論に積極的に参加すること、自主的な学修により予習と復習に主体的に取り組むことは、とても重要です。出席と、授業中の議論への参加、3回の小論文作成等を踏まえて、こうした主体的な取り組みの姿勢がうかがわれた場合は、加点の対象とします。一方、他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意ないし減点の対象とします。

評価割合：10%

▼実践的ボランタリズム

ボランティア活動等の実践により深められた知見が3回提出する小論文の記述等で確認された場合は、加点の対象とします。

評価割合：5%

▼公正性

人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象とします。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回　ガイダンス、国際金融論とはどのような学問か、国際金融論（後期）の全体像
第2回　為替レートとは何か、どのように決まるのか
第3回　場合によっては第2回の続き、国際通貨制度の変遷
第4回　場合によっては第3回の続きとIMF・世銀体制、固定相場制・変動相場制
第5回　第1回～第4回の復習と、これまでの理解度確認小論文提出

第6回　国際収支
第7回　為替レートによる国際収支の調整
第8回　国際収支不均衡とその是正、アブソープション・アプローチ、ISバランス・アプローチ
第9回　開放マクロ経済
第10回　第6回～第9回の復習と、これまでの理解度確認小論文提出

第11回　ユーロの誕生
第12回　国際通貨危機とは何か
第13回　基軸通貨ドルとは何か
第14回　国際金融の新たな展開（フィンテック、デジタル通貨、金融の未来像）
第15回　第11回～第14回の復習、全体のまとめ、これまでの理解度確認小論文提出

使用テキスト： 西村陽造・佐久間浩司著「新・国際金融のしくみ」（有斐閣アルマ、2020年）。原則として毎回講義のポイントを記したレジュメを配布する予定です。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎回の授業の前に、その回のテーマに関連するテキストの該当部分を読み、キーワード等用語を調べるなどして問題意識を醸成する。授業後には、テキストの該当部分および配布資料の内容について概ね理解できるように復習すると共に、興味のある事項について掘り下げ、更なる疑問点・問題意識を明らかにする。学生時代の貴重な時間を、知識の習得のみならず論理性・思考力・判断力を鍛えるために大切に使う習慣をつける。

参考文献として、植田和男著「大学4年間の金融論が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA、2017年）、橋本優子・小川英治・熊本方雄著「国際金融論をつかむ（新版）」（有斐閣、2019年）を推薦します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに常陽産業研究所（029―233―6731）へ連絡して下さい。対面での質疑応答が必要な場合は、講義前後の時間帯に対応したいと思います。

留意事項： 「ミクロ経済学入門」と「マクロ経済学入門」を履修済ないし履修中であることが望ましいが、必須ではありません。「金融論（前期）」も履修済であることが望ましいが、必須ではありません。経済学の基礎知識がなくても、できるだけ平易にわかりやすく講義することに努めます。

いわゆる1回限りの期末試験（ペーパーテスト）は実施しません。4回授業を行ったあと、5回目はそれまでの復習を簡単に行います。その後、それまでの授業で理解したこと、興味を持ったこと、世の中で応用できそうなこと、更なる疑問点・問題意識などを小論文形式で記述していただきます。これを15回の講義のなかで3回繰り返すことにより、知識・技能面、思考力・判断力・表現力の評価を行います。このほか、学修に主体的に取り組む態度は重要です。授業の中で皆さんに質問を投げかけたいと思いますので、積極的に議論に参加してください。

科目コード：41068　**科目ナンバリング：MA11C02K**　**主な使用言語：日本語＆英語**

授業名（英文）：ビジネスコミュニケーションI（Business English Communication I）

担当者： Le Pavoux, Mari

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：月曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 13. 役割演技と疑似体験

授業の概要： 社会の変化を反映したテーマについての英文（英検2級程度）を読解し、それに対して意見交換する。TOEICなどの検定試験にも頻出する語彙・文法についても解説する。

キーワード： ビジネス英語、社会の変化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けたビジネスに頻出する表現をおおむね80%意味が分かり、選択することができる。

評価方法： 学期末筆記試験　**評価割合：70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知識や知見をふまえ、意見を述べることができる。

評価方法： 学期末試験　**評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

該当しない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を書く言動やカンニングなどの不正行為があった場合、原点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：
1回目　ギグワーク
2回目　外国人の上司
3回目　ビットコイン
4回目　リモートワーク
5回目 クラウドファンでいんぶ
6回目　eスポーツビジネス
7回目　ユニコーン企業
8回目　音楽ビジネス
9回目　宇宙旅行ビジネス
10回目キャッシュレスとビジネス
11回目ワーケーション
12回目はんこの未来
13回目エンタメ系サブスクサービス
14回目日本の高品質デニム
15回目ポップアップストア
定期試験 （筆記試験）

使用テキスト： 「Global Pathways」by Jonathan Lynch / Kotaro Shitori （成美堂）2090円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 教科書および配布された資料は下読みし、調べても分からない表現を特定してくること。練習問題は授業前に解いてくること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡先等を問い合わせてください。

留意事項： 後期開講の「ビジネスコミュニケーションII」とは、完全に別の内容です。

科目コード：41069　**科目ナンバリング：MA12C03K**　**主な使用言語：日本語＆英語**

授業名（英文）：ビジネスコミュニケーションII（Business English Communication II）

担当者： Le Pavoux, Mari

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：演習**

曜時：月曜1限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 13. 役割演技と疑似体験

授業の概要： ビジネスにおける実際のコミュニケーションにおける対人関係の心理について扱う。毎回異なるテーマについての英文を通して知識を得た後、質疑応答を通して理解を深める。

キーワード： ビジネス英語、ビジネス心理、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けたビシネスに頻出する表現をおおむね80%意味が分かり、選択することができる。

評価方法： 学期末筆記試験　　**評価割合：** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、また自主学習によって得た知識や知見をふまえ、ビジネスにおけるあらゆる場面において望ましい振る舞いをすることができる。

評価方法： 学期末試験　　**評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランタリズム

該当しない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を書く言動やカンニングなどの不正行為があった場合、原点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：
1回目　ビジネス心理学とは何か
2回目　就職活動の心理学
3回目　積極的な休暇のすすめ
4回目　ロボットとともに働くということ
5回目　会社は男社会その1
6回目　会社は男社会その2
7回目　社内で自分らしくいるということ
8回目　ギブ・アンド・テイク
9回目　職場のゴシップ
10回目　職場の仕切りたがり屋
11回目　行いの立派なのが立派な人
12回目　私の空間・あなたの空間
13回目　起業家になるためには何をしたらよいか
14回目　ブレインストーミングと情報化社会
15回目　人事におけるビジネス心理学の活用のすすめ
定期試験

使用テキスト： 「Mind Matters -- The Psychology of Business and Work 」by Jim Knudsen / Hirofumi Horikiri (南雲堂) 1900円 + 税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 教科書および配布された資料は下読みし、調べても分からない表現を特定してくること。練習問題は授業前に解いてくること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡先等を問い合わせてください。

留 意 事 項： 前期開講の「ビジネスコミュニケーションI」とは、完全に別の内容です。

科 目 コ ー ド：41070　　**科目ナンバリング：MA20C20K**　　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：外書講読（English Business Reading）

担 当 者： Le Pavoux, Mari

基 本 情 報

年 次：2　　**単 位 数：2**　　**授業形式：演習**

曜 時：月曜2限　　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：　　**A L 要 素：** 17発問と回答

授業の概要： 日本の代表的な企業における実際のビジネスケースについての英文を講読することを通して、英語力の向上とビジネスへの見識を深める。

キーワード： グローバル・リーダーシップ、ビジネス分野の語彙

学 位 授 与 方 針 と の 関 係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標： 授業で解説した語彙、表現、内容について、概ね80％理解し、暗記している。

評価方法： 学期末筆記試験　　**評 価 割 合：80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容に関して、簡単に英語で意見を述べることができる。

評価方法： 学期末試験　　**評 価 割 合：20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的には評価しない。

評 価 割 合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的には評価しない。

評 価 割 合：0%

▼公 正 性

直接的には評価しない。

評 価 割 合：0%

▼そ の 他

直接的には評価しない。

評 価 割 合：直接的には評価しない。

授 業 計 画：

1回目　世界最大の共同＝協働マーケティングを立ち上げる
2回目　新しい価値を創造し、変化をもたらす
3回目　日本の消費者に向けたブランド構築
4回目　技術経営で大企業に変化を起こす
5回目　時代をリードするブランドの再生
6回目　アメリカ本社との交渉戦術で日本の品質管理を世界基準に
7回目　困難なビジネスを長期的展望で黒字化に
8回目　中国人のためのブランドづくりと企業活動
9回目　新興国を開拓する
10回目　日本の消費者に伝わるコミュニケーション戦略
11回目　地域密着ブランドで全国ブランドに対抗する
12回目　ブランド・アイデンティティの持続とグローバルビジネス戦略
13回目　グローバルブランドコミュニケーションの向上

14回目　グローバルリーダーの育成をめざすダイバーシティ経営
15回目　グローバルビジネスモデルの構築
定期試験

使用テキスト： 「Global Leadership -- Case Studies of Business Leaders in Japan 」
by Yasuo Nakatani / Ryan Smithers（金星堂）1900円+ 税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前にテキストを下読みしてくること。授業後は、テキストを音読し、語彙力増強に努めてください。

障がいのある履修者への対応： まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： 教科書は毎回必ず持参すること。

科目コード：41081　**科目ナンバリング：MA23C01K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **経営特講Ⅲ（Topics in Management Ⅲ）**

担当者： **佐藤　和明**

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜5限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 01 実地訓練
09 実地調査
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 経営特講Ⅲは株式会社日立製作所の寄附講座です。世界的大企業の日立製作所の事業内容や経営戦略、マネジメントについて実際の現場で活躍されている講師をお招きして、お話しいただく実践的な授業です。経営学を学びつつ、企業の現実の課題やマネジメントに接し、課題を考えるという有意義な授業です。

一方的に講義を聞くのではなく、うち何回かは課題を与えられて、グループワークの上、課題に対する発表資料を作成して、発表も行う演習スタイルの授業も取り入れます。実際の企業活動の実務を講師だけではなく、教員の実務経験も織り交ぜてわかりやすい授業を行います。

キーワード： ケーススタディ、日立製作所の歴史、工場見学、経営戦略、コンプライアンス、寄附講座

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 実際の企業の経営活動を学び、各部門・職能でおこなっている活動を理解する。これにより、経営学部で教科書から学ぶ理論的な学問内容を、現実の企業経営を知ることによって補強する。

評価方法： 各回のリフレクションもしくくはレポート　**評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 教科書などから学ぶ理論的な学問内容を、大企業で実際に活躍される講師による活きた企業経営を教えてもらうことで、応用力、実践力を養う。

評価方法： 期末レポート　**評価割合：20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

出席はもとより外部講師への質問など授業に主体的に参加する態度をはかる。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼その他

講師の授業は隔回で行い、その間の授業では振り返りを行う。リフレクションノートを記述して、理解度や問題認識の向上をはかる。

評価割合：講師の授業は隔回で行い、その間

授業計画：＊は日立製作所に担当していただく授業です。

第1回　オリエンテーション

第2回　日立製作所の動画鑑賞

＊第3回　日立製作所の歴史、地域との関わり

第4回　振り返り、グループワーク

＊第5回　ヒューマンリソースマネジメント

第6回　振り返り、グループワーク

＊第7回　日立オリジンパーク

第8回　振り返り、グループワーク

＊第9回　企業広報活動

第10回　振り返り、グループワーク

＊第11回　コーポレートガバナンス

第12回　振り返り、グループワーク

＊第13回　財務管理

第14回　振り返り、グループワーク

第15回　全体のまとめ

使用テキスト：教材は授業中に配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：隔回で「振り返り」の講義を行う。資料等は授業で配布。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項：特に日立グループへの就職を希望する学生は受講することを推奨します。なお、外部講師を招いての授業ですので授業態度、出席などを重視します。授業態度の悪い学生（私語、居眠り、遅刻など）は厳禁ですので、真面目に履修する意欲の乏しい学生は選択しないようにしてください。
工場見学を予定しています。交通費は自己負担となります。
課題についてはIC−UNIPAの課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行います。

科 目 コ ー ド : 41084　　科目ナンバリング : MA10B10K　　主な使用言語 : 日本語

授業名（英文）: 社会経済史（Socio-Economic History）

担 当 者 : 北　夏子

基本情報

年 次 : 1　　単 位 数 : 2　　授業形式 : 講義

曜 時 : 木曜4限　　履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格 :　　A L 要 素 : 15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: この授業では、まず、初回から4回目の授業で社会経済史学の歴史及び方法について概観します。続いて「交通」、並びに、本学の学生及び教員にとって非常に身近な存在だと思われる「鉄道」について、その発達の歴史、社会及び経済への影響、さらには課題を扱います。身近な事象を手掛かりにして考えを深めていくことによって、具体的な諸課題に対して私たちにはどういった対処が可能なのか、自分の意見を持てるようになることを目指します。

キーワード: 社会、経済、歴史、交通、鉄道、移動

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到達目標: 授業で解説を受けた社会経済史学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。

評価方法: 振り返り用紙　　評 価 割 合 : 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート　　評 価 割 合 : 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評 価 割 合 : 0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評 価 割 合 : 0%

▼公 正 性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評 価 割 合 : 0%

▼そ の 他

特になし。

評 価 割 合 : 特になし。

授 業 計 画 :
第1回　社会経済史学とはどのような学問か（授業概要説明含む）
第2回　社会経済史学の歴史と方法(1)
第3回　社会経済史学の歴史と方法(2)

第4回　社会経済史学の歴史と方法(3)
第5回　交通(1)
第6回　交通(2)
第7回　交通(3)
第8回　鉄道(1)
第9回　鉄道(2)
第10回　鉄道(3)
第11回　鉄道(4)
第12回　社会経済史学における課題(1)
第13回　社会経済史学における課題(2)
第14回　レポート執筆の際の注意事項と研究倫理
第15回　まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(90分)。
・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。
・参考文献
『鉄道と地域の社会経済史』篠崎尚夫編、日本経済評論社、2013年。
『社会経済史学事典』社会経済史学会編、丸善出版、2021年。。
上記以外の参考文献・資料は授業中に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。

留意事項： 課題についてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード：41085　**科目ナンバリング：MA20C19K**　**主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：公共経営特講(Topics in Public Management)

担当者：野口　通

基本情報

年次：カリキュラム　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：月曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 10.資料調査課題
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 本授業は、公共経営の中で重要な位置を占める地方行政について実践的な視点から学ぶ「実践的地方行政論」である。地方自治体がどのような課題に対しどのように政策を立案し実施しているのか、その過程で直面する困難をどう乗り越えているのかなどを、地域振興政策を中心に実例に即し具体的に学ぶ。また、自分が自治体の職員だったらと仮定し、自ら地域振興のための課題を分析し具体的な対応策について考える機会を提供する。併せて、地方行政の今後のあり方について考察する。
なお、授業担当者は長年県庁の最前線において、新規事業の企画・実践を含む様々な業務に携わってきた。その実務経験を活かし、授業を進めていく。

キーワード： 地方行政、地方自治体、公共、地方自治法、首長、議会、地方公務員、税、財政、計画、共創、地域振興、街づくり

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた地方行政の仕組みや自治体の実践例について、基本的な事項を理解し説明することができる。

評価方法： 授業後のレポート　　**評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自らの所見を明確に表現することができる。

評価方法： 授業後のレポート、学期末レポート　　**評価割合：60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、調査や考察等に時間をかけるなど、自主的な学修に積極的に取り組んだことが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、地域におけるボランティア活動等により、本授業のテーマに関わる実践的な知見が深まっていることが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業の進行や他の学生の学習を妨げる言動、差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. イントロダクション：本授業のテーマ。「公共」、「地域振興」について。
2. 自治体の仕事を概観する(1)：今、地方が直面している課題
3. 自治体の仕事を概観する(2)：自治体が行っていること__消防、医療・福祉、教育から、街づくり、産業振興、観光まで
4. 自治体の仕事の実際(1)：観光、地元産品（資源を磨き、知ってもらう）
5. 自治体の仕事の実際(2)：街づくり（都市計画と地域活性化）
6. 地方行政のルールとリソース：法律、権限、国と地方の関係、首長と議会、税・財政
7. 自治体の仕事の実際(3)：産業の振興(1)__地元企業の振興、ベンチャー育成
8. 自治体の仕事の実際(4)：産業の振興(2)__企業誘致
9. 仕事の進め方：問題把握、課題分析、政策立案、資源の配分、意思決定、実行、チェック
10. 地域振興について：地域振興とはどういうことか。何をすればいいのか（今行われていることは適切か、十分か）。
11. 自治体の仕事の実際(5)：交通問題への対応
12. 自治体の仕事の実際(6)：人口減少、少子化、高齢化への対応
13. 計画行政：計画の必要性、様々な計画、計画の立て方
14. 自治体職員の立場で考えてみる：特定の地域について、振興のための課題を分析し、課題解決のための実行可能な政策を検討する
15. まとめ：これからの地方行政。地域をもっと元気にするために（共創のさらなる拡充を）

※順番や一部の内容は変わることがあります。

使用テキスト： 授業で使用する資料は原則としてPDFで配信する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

予習：随時、自ら調べたり考えたりすることが望ましい事項を伝え、参考資料がある場合は提示するので、それらに基づき準備の上、授業に臨んで欲しい。
復習：授業内容を振り返り、自分が予め考えたことについて補足、修正等があるか考えて欲しい。
参考文献：地方自治について理解を深めたい学生には、次の書籍を勧める。
　曽我謙悟『日本の地方政府』中央公論新社、2019

大森彌・大杉覚『これからの地方自治の教科書　改訂版』第一法規株式会社、2021

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。アドレスは初回の授業でお知らせします。

留意事項： デバイスの持参を推奨します。

科目コード：41088　**科目ナンバリング：MA20C04K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：ITビジネス論（IT Business Studies）

担当者：佐藤　和明

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： ITを経営に活かしてビジネスを展開するための基礎知識を売るために、ITビジネスの仕組み、用語を中心に入門的な知識を得る講義内容である。特に、身近なインターネットを活用したビジネスモデルを中心に、AI活用の現状から今後の展望なども盛り込んだ内容となる。

注意点として、教材として、主にネット教材である「googleデジタルワークショップ」を活用して進めるため、各自、自己の名前で利用できるGoogleアカウントは必須となる。また、シラバスに記載されている各回テーマの一部は、ネット教材の進捗により、後半にまとめて講義する場合もある。

キーワード： eビジネス、デジタルコンテンツ、Webマーケティング、検索エンジン、データマイニング、情報セキュリティ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ITビジネス及びインターネットビジネスに関する基本知識が、各回の復習小テストで8割程度の内容で解答することができる。

評価方法： 各回
小テスト

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ITビジネス、インターネットビジネスの概要を理解し、記述式の期末テスト問題に7割程度、解答することができる。

評価方法： 期末テスト

評価割合：60%

▼学修に主体的に取り組む態度

基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が講義内容と合致する場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する。

評価割合：0%

▼公正性

基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

講義内で流す「googleデジタルワークショップ」の動画から、内容を書き留めるルーズリーフを用意し、テスト時の資料とすることが望ましい。

評価割合：講義内で流す「googleデジタルワー

授業計画：

第1回　オリエンテーション
講義の概要説明と各回の概要説明をします。

第2回　ITビジネスとは
ITビジネス、特にインターネットを用いたビジネスの特徴や社会に与えた影響など、全体像を知る。

第3回　ITビジネスのビジネスモデル
技術革新がもたらしたビジネスモデルの歴史的変遷、代表的なビジネスモデルの知識を得る。

第4回　eビジネスの基礎知識
eビジネスには様々なビジネスの形態が存在する。各ビジネスの形態を理解し、実例とともにeビジネスの概要を理解する。

第5回　デジタルコンテンツ・ビジネス
現在、私達はインターネットを介して、様々なデジタルコンテンツを享受している。デジタルコンテンツの配信ビジネスを中心に全体像を知る。

第6回　Webマーケティング入門
Webサイトを作成しただけでは、集客することはできない。Webサイトへ集客を促すマーケティング手法の基本及び全体像を把握する。

第7回　検索エンジンのしくみ
日常生活の調べ物に欠かせいない検索エンジンであるが、その成り立ちから現在まで、そして世界各国の検索エンジン事情を踏まえて理解する。

第8回　消費者の動向を知るデータマイニング
アンケートやSNSへの投稿、行動履歴などのデータからパターンやルール、顧客の深層心理を発見する手法である。データマイニングの基本知識を理解する。

第9回　ITビジネスに必要なインフラ
ITビジネス、特にインターネットビジネスに必要なインフラの概要を把握する。

第10回　ITビジネスの情報セキュリティ
ITビジネスで守るべき情報や漏洩のパターンを事例とともに理解する。

第11回　ITビジネスの危機管理
コンピューターウイルス対策の必要性と対策、ネット上で発生した企業の不祥事など事例とともに、問題点を考察する。

第12回　電子認証と電子決済
電子認証や電子決済の仕組みを理解し、私達の生活での活用事例などを理解する。

第13回　ITビジネスの法と倫理
ITビジネスにも光と影があり、様々な事件が発生している。知的財産件、個人情報保護法、不正競争防止法などの判例から、ITビジネスの法的な基礎知識を学ぶ。

第14回　進化するITビジネスの今後
AIと技術発展でさらに進化するITビジネスの実用化前の事例などを含め今後の展望に関する知識を得る。

第15回　総括
総復習とともに、テストに関する説明を実施する。

使用テキスト： 必要と思われる場合、参考資料のPDFを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となるWebサイトや文献を指定するので、それらを読み込んでください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 初回に伝えるオフィスアワーで対応します。

留意事項： 課題についてはIC−UNIPAの課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行います。

科目コード：41114　**科目ナンバリング：MA10B03K**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： 行政学（Public Administration）

担当者： 林　寛一

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜2限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 16.振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、国と地方の行政の特徴を理解する上での必要最低限の基礎的知識を身に付けますが、単に知識の修得だけではなく、その知識を活かして国と地方の行政上の諸問題について自ら考えたり、一歩踏み込んで分析したりする力を身につけることをも目指しています。

キーワード： 国家公務員、内閣制度、官僚制、行政改革、予算編成、行政責任

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた行政学の基本的な知識・技能について、概ね80％の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート　**評価割合：60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート　**評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記

試験等の記述内容により認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述等において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性を欠け言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
第1回：行政学とはどのような学問か（授業概要説明を含む）
第2回：国家公務員について
第3回：内閣制度について
第4回：中央省庁ー制度・意思決定・役割
第5回：予算編成について
第6回：官民関係の見直し
第7回：中央地方関係について
第8回：地方財政と三位一体改革
第9回：大都市行政と広域行政
第10回：官僚制論について
第11回：行政責任について
第12回：日本の行政システム
第13回：行政学説史ーアメリカを中心に
第14回：社会科学としての行政学
第15回：まとめ
定期試験

使用テキスト： 真渕勝『行政学案内（第3版）』慈学社、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと（60分）。
授業後、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい（60分）。
参考文献及び参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。又は配付資料等に掲載する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：41130　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）：マーケティングコミュニケーション論（Marketing Communication）

担当者：澤端　智良

基本情報

年次：2　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜4限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 07発表、11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要： マーケティング・コミュニケーションとは、広告・広報・セールスプロモーション・イベント・ブラン

ドコミュニティなど、企業が顧客との関係性構築のために行う活動全般を指す。企業にとって、顧客とのあらゆる接点をいかにマネジメントするかは、事業の成否に大きく影響するようになってきている。
本科目では、マーケティング・コミュニケーションに関する基礎的な概念や理論を学ぶことで、企業・消費者双方の立場からマーケティング・コミュニケーションの役割や機能を理解することを目標に講義を進めていく。広告をはじめとする様々なプロモーション手段の理解に加え、マーケティング活動全般の視点から企業のコミュニケーション活動を評価・分析できるようになることを目指す。

キーワード： コミュニケーション、顧客接点、広告、広報、セールス・プロモーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説した「マーケティング・コミュニケーション」に関する概念や理論について正しく理解し説明することができる。

評価方法： 定期試験　　**評価割合：**40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学習した「マーケティング・コミュニケーション」に関する基礎的な概念・理論を用いて、企業の広告・販促活動等の事例を分析し、論理的に説明できる。

評価方法：定期試験　　**評価割合：**40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み、提出すること。

評価割合：20%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：
【第1回】ガイダンス：マーケティング・コミュニケーションとは何か
【第2回】広告とは何か：広告の定義と種類／広告の機能と役割
【第3回】広告と社会志向・社会倫理
【第4回】広報・パブリシティ／セールス・プロモーション
【第5回】デジタル・マーケティング・コミュニケーションとPESOモデル
【第6回】何をどのように伝えるか：コンセプトとコピーワーク
【第7回】マーケティングコミュニケーションの設計・計画と効果測定
【第8回】マーケティング・コミュニケーションの実務ー広告会社や「宣伝部」の仕事
【第9回】マーケティング・コミュニケーションによる市場創造
【第10回】ブランドとマーケティング・コミュニケーション
【第11回】ブランド・コミュニティ ー顧客との関係性構築
【第12回】コーポレート・コミュニケーション／BtoBブランディング
【第13回】コミュニケーション・メディアとしての企業博物館
【第14回】アートプレイス ー企業は芸術支援から何を得るのか
【第15回】全体のまとめ
期末試験

使用テキスト： 特定の教科書は使用しない。授業で使う資料はPDFにしてUNIPA等へアップする（授業で使用するスライド等は特別な場合を除き紙では配布はしない）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次回授業のテーマやキーワードについて参考文献やWeb等で調べ、事前に大まかな内容を理解しておくこと（60分）。また、授業後は学習した内容を振り返り理解しておくこと（60分）。その他、別途資料を配布した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。参考文献や資料等は、必要に応じ 授業内で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。

留意事項： 授業期間内で複数回課す「レポート類」（計20%）と期末試験（80%）を総合して評価する。
なお、授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。
BYOD導入に伴い、講義資料はUNIPA等へアップすることとし、原則として紙では配布しない。手元に資料が必要な場合はデバイスを持参するなど各自で対応すること。

科目コード：41131　**科目ナンバリング：**　**主な使用言語：日本語**

授業名（英文）： **企業倫理（Business Ethics）**

担当者： **佐藤　和明**

基本情報

年次：1　**単位数：2**　**授業形式：講義**

曜時：木曜3限　**履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M

関連資格：　**AL要素：** 01 実地訓練
09 実地調査
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 事業活動を「自分良し」、「相手良し」、「世間良し」の三方を満足させるよう行わなければいけない。この思想・哲学を「三方よし」という。三方よしは、江戸時代中期に日本全国のみならず、鎖国の時代ながら、海外へも進出していた近江商人の企業倫理ともいえる。

三方よしという優れた経営思想、哲学を持った日本であったが、明治維新以降、富国強兵などの国策などにより、徐々に三方良しの理念を忘れていき、第二次世界大戦後の高度成長を経て現在に至っている。周知の通り、現代の日本、そして世界では、経済性、効率性など、利益追求のみに走り勝ちな傾向にある。特に、20世紀の時代は、世界、特に西側諸国は、豊かさを求めて、利益を追求してきた。その結果、現在問題となっている、環境破壊、公害などの問題が発生していきた。そして、温暖化現象などが顕在化し、地球の人々だれもが気象異常に気づくようになってきた。

このような背景により、企業も社会性、人間性、社会貢献活動等の価値観を併せ持った企業でないと社会に受け入れられない風潮が強まってきている。例えば、株式投資でも、社会的責任を果たしている企業以外には投資しない「社会的責任投資」を主眼に投資する投資家もいる。

企業は、法人と言われ、法律上、私達、自然人と同等の権利をもっている部分のある。企業といえども法的な人間であり、社会に参画している存在である。それ故、地球環境保全、社会貢献、人間尊重などの責任を共有し、負わなければならない。

本講義では、三方良しを基軸に、企業倫理の重要なキーワードと考え方を元に、事例とともに、考察していく。

講義の進め方としては、各回の冒頭に、企業倫理の基礎的なキーワードや事例を概説す

る。その後、各回のテーマに基づいたディスカッションやグループワークを取り入れた授業を行う。

キーワード： ケーススタディ、コンプライアンス、CSR、コーポレートガバナンス、ステークホルダー、危機管理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 企業倫理・企業統治における基本的な考え方、重要な理論、事例について理解し、考察することができる。

評価方法： 各回のレポート　　**評価割合：**40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 企業倫理・企業統治における基本的な考え方、重要な理論、事例について理解し、考察することができることに加え、考察結果をレポートとしてまとめることができる。

評価方法： 期末レポート　　**評価割合：**20%

▼学修に主体的に取り組む態度

出席はもとより、課題レポートや事例に基づいたディスカッション、グループワークに主体的に参加する態度をはかる。

評価割合：40%

▼実践的ボランタリズム

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼その他

講師の授業は隔回で行い、その間の授業では振り返りを行う。リフレクションノートを記述して、理解度や問題認識の向上をはかる。

評価割合：講師の授業は隔回で行い、その間

授業計画： 【第1回】オリエンテーション

【第2回】「三方よし」とは

【第3回】企業倫理とは

【第4回】ビジネス倫理（功利主義、義務論）

【第5回】ビジネス倫理（正義論、徳倫理）

【第6回】ビジネス倫理（行動倫理）

【第7回】企業倫理の制度化

【第8回】コーポレート・ガバナンス

【第9回】ステークホルダー志向の経営倫理

【第10回】社会的責任投資

【第11回】マーケティングと倫理

【第12回】広告と広報の倫理

【第13回】環境と経営倫理

【第14回】AIと倫理

【第15回】まとめ　期末レポートについて

使用テキスト： 教材は授業中に指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各回の考察レポートを次回の講義前日の締め切りを復習とする。次回のテーマに関しては、予習として、調べておく。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。

留意事項： 特になし